

公表日 平成23年9月1日  
最新更新日 平成23年9月1日

# 授業計画

平成23年度

# *Syllabus 2011*

---

短期大学部 保育科 第三部

学科教育科目

# 保育科第三部

学科教育科目

## 保育科第三部の教育目標

保育科第三部は、学則に掲げられた建学の精神、教育研究上の目的に基づき、学科の教育目標を次のように定めている。

＜豊かな人間性を基盤とする資質の高い保育者の養成＞

この目標を達成するため、次の二つを学科教育の方針としている。

- ・保育者にとって必要な豊かな情操、創造力、向上心を培うこと
- ・子どもを理解し、子どもの心身の発達を援助する専門的能力を養うこと

本学科に学ぶ学生は、これらの方針に沿って勉学に励み、3年間の学生生活を通して

- ・「保育とは何か」を理解すること
- ・「保育者としての専門性」を身につけること

を追求してもらいたい。

そのためには、保育に関する専門的知識と技能を修得するだけでなく、自己をみつめ自己を高めること、真理追究の姿勢を持ち主体的に学びとること、広い視野を持ち豊かな教養・感性を養うことが必要である。

学修と就労の両立には、制約された時間の中で日々のたゆまぬ研鑽が求められる。ともに励まし支え合う人間関係を作りながら、意義ある学生生活を送る経験は、将来の保育者としての生活に生かされることであろう。

本学科においては、教育課程の中から所定の単位を修得することにより、次の免許・資格を取得することができる。

- ・幼稚園教諭二種免許
- ・保育士資格

これらの免許・資格を取得しようとする人には、社会的責務として、子どもの権利を尊重する「よき保育者」となることが求められている。

そのために、学生は、保育者として必要な資質の向上に努めなければならない。

卒業後の進路としては、保育所、保育所以外の児童福祉施設、幼稚園、各種企業など多方面にわたっている。

なお、本学科の教育課程の履修にあたっては、所定の条件があるので、各自注意されたい。

## ■平成 23 年度入学者■

### I 教育課程

授業科目の構成（詳細は学則参照）

①基礎・教養科目      ②学科教育科目      に大別される。

### II 卒業所要単位

保育科第三部においては、本学に3年以上（5年以内）在学し、62単位以上を修得した者は卒業資格が取得でき、「短期大学士」の学位が授与される。

卒業のために最低限必要な単位の内容は、次のとおりである。

科目区分	単位数	最低単位数
①基礎・教養科目	6単位以上	62単位以上
②学科教育科目	48単位以上	

残り8単位は、基礎・教養科目、学科教育科目のいずれで修得しても可。

\*詳細

科目区分	単位数	内容	単位数
①基礎・教養科目	6単位以上	「日本語（読解と表現）」 「英語」 「コンピュータ演習」	左記の3科目の中から 2科目4単位以上
		「宗教と人生」	2単位
		選択科目	
②学科教育科目	48単位以上	必修科目    9科目	15単位
		選択科目	33単位以上

### Ⅲ 履修上の注意事項

ア. 履修にあたっては、上記の卒業所要単位に留意し、自らの責任のもとに履修計画をたて、履修の手続きを行うとともに、普段の授業においても、主体的に学ぶ姿勢を貫かねばならない。

イ. 保育科第三部において、幼稚園教諭二種免許および保育士資格を取得しようとする学生は、本学に3年以上（5年以内）在学し、卒業所要単位を修得し、かつ、それぞれ次に示す必要な単位を修得しなければならない。

幼稚園教諭二種免許	基礎科目「英語」	2単位
	基礎科目「コンピュータ演習」	2単位
	教養科目「日本国憲法」	2単位
	教養科目「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」	2単位
	別表Aに示す最低単位数	

※ 「英語」「コンピュータ演習」「日本国憲法」「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」の4科目は、「教育職員免許法」第5条別表第1備考第四号および「教育職員免許法施行規則」第66条の6により、修得することが定められている。

※ 詳細については別表Aを参照し、履修のうえで注意すること。

※ 幼稚園教諭二種免許取得に必要な単位を修得した学生には、免許状申請に係る所定の手続きを経たのち、兵庫県教育委員会から免許状が授与される。

保育士資格	基礎・教養科目 ※1	8単位以上
	必修科目	58単位
	選択必修科目	9単位以上

※1 基礎・教養科目については、外国語2単位、体育に関する講義及び実技それぞれ1単位を含む8単位以上の履修が定められている。本学では、「英語」2単位、「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」2単位、「健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）」または「健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）」1単位、計5単位を含む8単位以上の修得が必要である。

※ 必修科目、選択必修科目の詳細については、別表Bを参照し、履修等注意すること。

※ 保育士資格取得に必要な単位を修得した学生には、指定保育士養成施設である本学から指定保育士養成施設卒業証明書が交付される。

※ 児童福祉法の改正（2003年11月29日施行）により、保育士資格の法定化が図られた。保育士資格を名称独占資格に改め、併せて守秘義務、登録等に関する規定が整備された。

指定保育士養成施設で所定の単位を修得した卒業生は、保育士となる資格を有する者となり、保育士となる資格を有する者が保育士となるためには、都道府県に備えられた保育士登録簿に登録しなければならない。

なお、保育士資格登録の申請は、保育士登録指定保育士養成施設（本学）側が、一括して行う。

ウ. 幼稚園教諭あるいは保育所その他の児童福祉施設の保育士（本学では、併せて保育者と通称している）をめざすためには、選択科目を積極的に履修し、より広く深い専門的知識・技能を修得することによって、未来の保育者としての自己形成に努めることが望まれる。

エ. 免許・資格に必要な教育実習、保育実習は、直接子どもに接する学習であるから、学生は、所定の手続きを滞りなく済ませていると同時に、学業成績、健康状態等において一定の条件を満たしていることが必要である。

オ. その他、履修に関して特に注意すべき事項は、履修指導時に説明する。

別表 A 幼稚園教諭二種免許取得に必要な単位

【平成 23 年度入学者】

区分	免許法施行規則に規定された科目名		保育科第三部で開設している授業科目名	開設単位数		最低修得単位数
				必修	選択	
教科に関する科目	国語		日本語（読解と表現）		2	4
	算数		算数		2	
	生活		生活概論		2	
	音楽		音楽教育 A	1		
			音楽教育 B		◆1	
			器楽 A		◆1	
			器楽 B		◆1	
	図画工作		造形 A	1		
			造形 B		◆1	
	体育		幼児体育 A	1		
幼児体育 B				◆1		
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	教師・保育者論	2		2
	教職の基本理念に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	教育原理	2		4
			教育心理学		◆2	
			教育制度論		◆2	
	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	保育課程総論	2		12
			保育内容総論		◆1	
		・保育内容の指導法	保育内容・健康		◆2	
			保育内容・人間関係		◆2	
			保育内容・環境		◆2	
			保育内容・言葉		◆2	
保育内容・表現 A				◆2		
保育内容・表現 B		◆2				
・教育方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育方法論		◆2			
生徒指導教育相談及び進路指導等に関する科目	・幼児理解の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	児童心理学		◆2	2	
		教育相談		◆2		
教育実習		教育実習		◆5	5	
教職実践演習		保育・教職実践演習（幼稚園）		◆2	2	
合 計						31

(備考)

- (ア) 幼稚園教諭二種免許を取得するには、「基礎資格」（短期大学卒業者に係る短期大学士の学位を有すること）を得ると共に、最低修得単位数として教科に関する科目 4 単位、教職に関する科目 27 単位、合計 31 単位を修得しなければならない。
- (イ) 上記の表の最低修得単位数については、卒業資格に必要な必修科目のほか、別表 A の「開設単位数」欄で◆印を付している科目のすべてを履修しなければならない。
- (ウ) 別表 A に示す最低単位数は、「教育職員免許法」第 5 条別表第 1（1949 年 5 月 31 日法律第 147 号、最終改正 2003 年法律第 117 号）および「同法施行規則」第 5 条、第 6 条（1954 年 10 月 27 日文部省令第 26 号、最終改正 2002 年文科令第 3、31 号）に規定されている。

別表B 保育士資格取得に必要な単位

【平成23年度入学者】(必修科目)

系列	児童福祉法施行規則告示 別表第1による教科目		指定 単位数	保育科第三部で 開設している授業科目名		開設単位数		備考	
	教科目	授業 形態		必修	授業科目	授業 形態	必修		選択
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理A	講義	2		全 科 目 必 修	
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2			
	児童家庭福祉	講義	2	児童家庭福祉	講義		●2		
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2			
	相談援助	演習	1	相談援助	演習		●1		
	社会的養護	講義	2	社会的養護	講義		●2		
	保育者論	講義	2	教師・保育者論	講義	2			
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学Ⅰ	講義	2	保育の心理学Ⅰ	講義	2			
	保育の心理学Ⅱ	演習	1	保育の心理学Ⅱ	演習		●1		
	子どもの保健Ⅰ	講義	4	子どもの保健ⅠA	講義		●2		
				子どもの保健ⅠB	講義		●2		
	子どもの保健Ⅱ	演習	1	子どもの保健Ⅱ	演習		●1		
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養A	演習		●1		
				子どもの食と栄養B	演習		●1		
家庭支援論	講義	2	家庭支援論	講義		●2			
保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	講義	2	保育課程総論	講義	2			
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習		●1		
	保育内容演習	演習	5	保育内容・健康	演習		●2		
				保育内容・人間関係	演習		●2		
				保育内容・環境	演習		●2		
				保育内容・言葉	演習		●2		
				保育内容・表現A	演習		●2		
	保育内容・表現B	演習		●2					
	乳児保育	演習	2	乳児保育A	演習		●1		
				乳児保育B	演習		●1		
	障害児保育	演習	2	障害児保育A	演習		●1		
				障害児保育B	演習		●1		
社会的養護内容	演習	1	社会的養護内容	演習		●1			
保育相談支援	演習	1	保育相談支援	演習		●1			
保育の表現技術	保育の表現技術	演習	4	音楽教育A	演習	1			
				器楽A	演習		●1		
				造形A	演習	1			
				幼児体育A	演習	1			
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習Ⅰ	実習		●4		
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ	演習		●2		
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習 (幼稚園)	演習		●2		
合 計			51	合 計		58			

【平成 23 年度入学者】（選択必修科目）

系列	児童福祉法施行規則告示別表第 2 による教科目		指定単位数 選択必修	保育科第三部で開設している授業科目名		開設単位数		備考
	教科目	授業形態		授業科目	授業形態	必修	選択	
保育の本質・目的に関する科目			15 単位以上開設	保育原理 B	講義		2	6 単位以上選択必修
保育の対象の理解に関する科目				児童心理学	講義		2	
保育の内容・方法に関する科目				青年心理学	講義		2	
				臨床心理学	演習		2	
				教育相談	講義		2	
保育の表現技術	保育の表現技術	演習		音楽教育 B	演習		1	
				音楽教育 C	演習		1	
				音楽教育 D	演習		1	
				器楽 B	演習		1	
				造形 B	演習		1	
			幼児体育 B	演習		1		
保育実習	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅱ	実習		●2	2 単位以上選択必修
				保育実習Ⅲ	実習		●2	
	保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅱ	演習		●1	1 単位以上選択必修
				保育実習指導Ⅲ	演習		●1	
合 計（開設単位数）			18 単位以上	合 計		22 単位		9 単位以上

（備考）

- (ア) 保育士資格必修科目については、卒業必修科目のほかに、別表 B の「開設単位数」欄で●印を付している科目のすべてを履修しなければならない。[ただし、「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」については(イ)参照]
- (イ) 選択必修科目については、「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」のうち 2 単位以上、「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」のうち 1 単位以上を含めて、9 単位以上を最低修得することとなっている。「保育実習Ⅱ」(2 単位)と「保育実習指導Ⅱ」(1 単位)を履修するか、「保育実習Ⅲ」(2 単位)と「保育実習指導Ⅲ」(1 単位)を履修するかを選択し、それ以外に、最低 6 単位を選択履修しなければならない。  
選択必修科目は、卒業後の進路に応じて選択履修することが望ましい。詳しくは履修指導時に説明する。
- (ウ) 別表 B に示す指定単位数は、「児童福祉法施行規則第 6 条の 2 第 1 項第 3 号の指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法」(2010 年 7 月 13 日厚生労働省告示第 278 号)に規定されている。



## ■平成 22 年度入学者■

### I 教育課程

授業科目の構成（詳細は学則参照）

①基礎・教養科目      ②学科教育科目      に大別される。

### II 卒業所要単位

保育科第三部においては、本学に3年以上（5年以内）在学し、62単位以上を修得した者は卒業資格が取得でき、「短期大学士」の学位が授与される。

卒業のために最低限必要な単位の内容は、次のとおりである。

科目区分	単位数	最低単位数
①基礎・教養科目	6 単位以上	62 単位以上
②学科教育科目	48 単位以上	

残り 8 単位は、基礎・教養科目、学科教育科目のいずれで修得しても可。

\* 詳細

科目区分	単位数	内容	単位数
①基礎・教養科目	6 単位以上	「日本語（読解と表現）」 「英語」 「コンピュータ演習」	左記の 3 科目の中から 2 科目 4 単位以上
		「宗教と人生」	2 単位
		選択科目	
②学科教育科目	48 単位以上	必修科目    9 科目	15 単位
		選択科目	33 単位以上

### Ⅲ 履修上の注意事項

ア. 履修にあたっては、上記の卒業所要単位に留意し、自らの責任のもとに履修計画をたて、履修の手続きを行うとともに、普段の授業においても、主体的に学ぶ姿勢を貫かねばならない。

イ. 保育科第三部において、幼稚園教諭二種免許および保育士資格を取得しようとする学生は、本学に3年以上（5年以内）在学し、卒業所要単位を修得し、かつ、それぞれ次に示す必要な単位を修得しなければならない。

幼稚園教諭二種免許	基礎科目「英語」	2単位
	基礎科目「コンピュータ演習」	2単位
	教養科目「日本国憲法」	2単位
	教養科目「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」	2単位
	別表Aに示す最低単位数	

※ 「英語」「コンピュータ演習」「日本国憲法」「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」の4科目は、「教育職員免許法」第5条別表第1備考第四号および「教育職員免許法施行規則」第66条の6により、修得することが定められている。

※ 詳細については別表Aを参照し、履修のうえで注意すること。

※ 幼稚園教諭二種免許取得に必要な単位を修得した学生には、免許状申請に係る所定の手続きを経たのち、兵庫県教育委員会から免許状が授与される。

保育士資格	基礎・教養科目 ※1	10単位以上
	必修科目	50単位
	選択必修科目	10単位以上

※1 基礎・教養科目については、外国語2単位、体育に関する講義及び実技それぞれ1単位を含む10単位以上の履修が定められている。本学では、「英語」2単位、「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」2単位、「健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）」または「健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）」1単位、計5単位を含む10単位以上の修得が必要である。

※ 必修科目、選択必修科目の詳細については、別表Bを参照し、履修等注意すること。

※ 保育士資格取得に必要な単位を修得した学生には、指定保育士養成施設である本学から指定保育士養成施設卒業証明書が交付される。

※ 児童福祉法の改正（2003年11月29日施行）により、保育士資格の法定化が図られた。保育士資格を名称独占資格に改め、併せて守秘義務、登録等に関する規定が整備された。

指定保育士養成施設で所定の単位を修得した卒業生は、保育士となる資格を有する者となり、保育士となる資格を有する者が保育士となるためには、都道府県に備えられた保育士登録簿に登録しなければならない。

なお、保育士資格登録の申請は、保育士登録指定保育士養成施設（本学）側が、一括して行う。

ウ. 幼稚園教諭あるいは保育所その他の児童福祉施設の保育士（本学では、併せて保育者と通称している）をめざすためには、選択科目を積極的に履修し、より広く深い専門的知識・技能を修得することによって、未来の保育者としての自己形成に努めることが望まれる。

エ. 免許・資格に必要な教育実習、保育実習は、直接子どもに接する学習であるから、学生は、所定の手続きを滞りなく済ませていると同時に、学業成績、健康状態等において一定の条件を満たしていることが必要である。

オ. その他、履修に関して特に注意すべき事項は、履修指導時に説明する。

別表A 幼稚園教諭二種免許取得に必要な単位

【平成22年度入学者】

	免許法施行規則に規定された科目名	保育科第三部で開設している授業科目名	開設単位数		最低修得単位数		
			必修	選択			
教科に関する科目	国語	日本語（読解と表現）		2	4	4	
	算数	算数		2			
	生活	生活概論		2			
	音楽	音楽教育A		1			
		音楽教育B					◆1
		器楽A					◆1
		器楽B					◆1
	図画工作	造形A		1			
		造形B					◆1
体育	幼児体育A		1				
	幼児体育B			◆1			
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	教師論	2		2	
	教職の基本的理念に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2		4	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	発達心理学	2			
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育心理学		2		
	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	保育課程総論	2		12	
		・保育内容の指導法	保育内容・健康				◆2
			保育内容・人間関係				◆2
			保育内容・環境				◆2
			保育内容・言葉				◆2
			保育内容・表現Ⅰ				◆2
		・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容・表現Ⅱ				◆2
保育方法論			◆2				
進路指導等に関する科目	・幼児理解の理論及び方法	児童心理学			◆2	2	
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談			◆2		
	教育実習	教育実習			◆5	5	
	教職実践演習	保育・教職実践演習（幼稚園）			◆2	2	
合計						31	

（備考）

- (ア) 幼稚園教諭二種免許を取得するには、「基礎資格」（短期大学卒業者に係る短期大学士の学位を有すること）を得ると共に、最低修得単位数として教科に関する科目4単位、教職に関する科目27単位、合計31単位を修得しなければならない。
- (イ) 上記の表の最低修得単位数については、卒業資格に必要な必修科目のほかに、別表Aの「開設単位数」欄で◆印を付している科目のすべてを履修しなければならない。
- (ウ) 別表Aに示す最低単位数は、「教育職員免許法」第5条別表第1（1949年5月31日法律第147号、最終改正2003年法律第117号）および「同法施行規則」第5条、第6条（1954年10月27日文部省令第26号、最終改正2002年文科令第3、31号）に規定されている。

別表B 保育士資格取得に必要な単位

【平成22年度入学者】

児童福祉法施行規則に規定された科目名		授業形態	指定単位数		本学保育科第三部で開講している授業科目名	開設単位数	
			必修	選択		必修	選択
専 門 科 目	保育の本質・目的理解	社会福祉	講義	2	社会福祉	2	
		社会福祉援助技術	演習	2	社会福祉援助技術		●2
		児童福祉	講義	2	児童福祉		●2
		保育原理	講義	4	保育原理ⅠA	2	
					保育原理ⅠB		●2
					保育原理Ⅱ		②
		養護原理	講義	2	養護原理Ⅰ		●2
					養護原理Ⅱ		②
	教育原理	講義	2	教育原理	2		
	発達心理学	講義	2	発達心理学	2		
	保育の対象の理解				児童心理学		②
					青年心理学		②
		教育心理学	講義	2	教育心理学		●2
					臨床心理学		②
		小児保健	講義 実習	5	小児保健A		●2
					小児保健B		●2
					小児保健実習		●1
		小児栄養	演習	2	小児栄養		●2
	精神保健	講義	2	精神保健		●2	
	家族援助論	講義	2	家族援助論		●2	
	保育の内容・方法の理解	保育内容	演習	6	保育内容・健康		●2
					保育内容・人間関係		●2
					保育内容・環境		●2
					保育内容・言葉		●2
					保育内容・表現Ⅰ		●2
					保育内容・表現Ⅱ		●2
		乳児保育	演習	2	乳児保育Ⅰ		●2
					乳児保育Ⅱ		②
障害児保育	演習	1	障害児保育		●1		
養護内容	演習	1	養護内容		●1		
基 礎 技 能	基礎技能	演習	4	音楽教育A	1		
				器楽A		●1	
				造形A	1		
				幼児体育A	1		
					音楽教育B		①
					音楽教育C		①
					音楽教育D		①
					器楽B		①
					造形B		①
					幼児体育B		①
	保育実習	保育実習	実習	5	保育実習Ⅰ		●5
		保育実習Ⅱ	実習		保育実習Ⅱ		●②
		保育実習Ⅲ	実習		保育実習Ⅲ		●②
	総合演習	総合演習	演習	2	保育・教職実践演習(幼稚園)		●2
合計			50	10以上		11	67

(備考)

(ア) 保育士資格必修科目については、卒業必修科目のほかに、別表Bの「開設単位数」欄で●印を付している科目のすべてを履修しなければならない。[ただし、「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」については(イ)参照]

(イ) 選択必修科目については、「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」のうち2単位以上を含めて、10単位以上を最低修得することとなっている。本学においては、「保育実習Ⅱ」は保育士資格必修科目の「保育実習Ⅰ」5単位と同時に修得する学習システムをとっているため、別表Bの「開設単位数」欄の○印で囲んだ科目から、最低8単位を選択履修しなければならない。

(なお、希望者は「保育実習Ⅲ」をさらに履修することが可能であり、その場合○印科目2単位として算入できる。)

選択必修科目は、卒業後の進路に応じて選択履修することが望ましい。詳しくは履修説明時に説明する。

(ウ) 別表Bに示す指定単位数は、「児童福祉法施行規則第6条の2第1項第3号の指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法」(2000年5月23日厚生労働省告示第198号)に規定されている。

## ■平成 21 年度入学者■

### I 教育課程

授業科目の構成（詳細は学則参照）

①基礎・教養科目      ②学科教育科目      に大別される。

### II 卒業所要単位

保育科第三部においては、本学に3年以上（5年以内）在学し、62単位以上を修得した者は卒業資格が取得でき、「短期大学士」の学位が授与される。

卒業のために最低限必要な単位の内容は、次のとおりである。

科目区分	単位数	最低単位数
①基礎・教養科目	6 単位以上	62 単位以上
②学科教育科目	48 単位以上	

残り 8 単位は、基礎・教養科目、学科教育科目のいずれかで修得しても可。

\* 詳細

科目区分	単位数	内容	単位数
①基礎・教養科目	6 単位以上	「日本語（読解と表現）」 「英語」 「コンピュータ演習」	左記の 3 科目の中から 2 科目 4 単位以上
		「宗教と人生」	2 単位
		選択科目	
②学科教育科目	48 単位以上	必修科目    9 科目	15 単位
		選択科目	33 単位以上

### Ⅲ 履修上の注意事項

- ア. 履修にあたっては、上記の卒業所要単位に留意し、自らの責任のもとに履修計画をたて、履修の手続きを行うとともに、普段の授業においても、主体的に学ぶ姿勢を貫かねばならない。
- イ. 保育科第三部において、幼稚園教諭二種免許および保育士資格を取得しようとする学生は、本学に3年以上（5年以内）在学し、卒業所要単位を修得し、かつ、それぞれ次に示す必要な単位を修得しなければならない。

幼稚園教諭二種免許	基礎科目「英語」	2単位
	基礎科目「コンピュータ演習」	2単位
	教養科目「日本国憲法」	2単位
	教養科目「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」	2単位
	別表Aに示す最低単位数	

- ※ 「英語」「コンピュータ演習」「日本国憲法」「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」の4科目は、「教育職員免許法」第5条別表第1備考第四号および「教育職員免許法施行規則」第66条の6により、修得することが定められている。
- ※ 詳細については別表Aを参照し、履修のうえで注意すること。
- ※ 幼稚園教諭二種免許取得に必要な単位を修得した学生には、免許状申請に係る所定の手続きを経たのち、兵庫県教育委員会から免許状が授与される。

保育士資格	基礎・教養科目 ※1	10単位以上
	必修科目	50単位
	選択必修科目	10単位以上

- ※1 基礎・教養科目については、外国語2単位、体育に関する講義及び演習それぞれ1単位を含む10単位以上の履修が定められている。本学では、「英語」2単位、「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」2単位、「健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）」または「健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）」2単位、計6単位を含む10単位以上の修得が必要である。
- ※ 必修科目、選択必修科目の詳細については、別表Bを参照し、履修等注意すること。
- ※ 保育士資格取得に必要な単位を修得した学生には、指定保育士養成施設である本学から指定保育士養成施設卒業証明書が交付される。
- ※ 児童福祉法の改正（2003年11月29日施行）により、保育士資格の法定化が図られた。保育士資格を名称独占資格に改め、併せて守秘義務、登録等に関する規定が整備された。  
指定保育士養成施設で所定の単位を修得した卒業生は、保育士となる資格を有する者となり、保育士となる資格を有する者が保育士となるためには、都道府県に備えられた保育士登録簿に登録しなければならない。  
なお、保育士資格登録の申請は、保育士登録指定保育士養成施設（本学）側が、一括して行う。

- ウ. 幼稚園教諭あるいは保育所その他の児童福祉施設の保育士（本学では、併せて保育者と通称している）をめざすためには、選択科目を積極的に履修し、より広く深い専門的知識・技能を修得することによって、未来の保育者としての自己形成に努めることが望まれる。
- エ. 免許・資格に必要な教育実習、保育実習は、直接子どもに接する学習であるから、学生は、所定の手続きを滞りなく済ませていると同時に、学業成績、健康状態等において一定の条件を満たしていることが必要である。
- オ. その他、履修に関して特に注意すべき事項は、履修指導時に説明する。

別表A 幼稚園教諭二種免許取得に必要な単位

【平成21年度入学者】

	免許法施行規則に規定された科目名	保育科第三部で開設している授業科目名	開設単位数		最低修得単位数		
			必修	選択			
教科に関する科目	国語	日本語（読解と表現）		2	4	4	
	算数	算数		2			
	生活	生活概論		2			
	音楽	音楽教育A		1			
		音楽教育B					◆1
		器楽A					◆1
		器楽B					◆1
	図画工作	造形A		1			
		造形B					◆1
	体育	幼児体育A		1			
幼児体育B				◆1			
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	教師論	2		2	
	教職の基本的理念に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2		4	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	発達心理学	2			
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育心理学		2		
	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	保育課程総論	2		12	
		・保育内容の指導法	保育内容・健康		◆2		
			保育内容・人間関係		◆2		
			保育内容・環境		◆2		
			保育内容・言葉		◆2		
			保育内容・表現Ⅰ		◆2		
		保育内容・表現Ⅱ		◆2			
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育方法論			◆2		
	生徒指導等に関する科目	・幼児理解の理論及び方法	児童心理学		◆2	2	
・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談		◆2			
	総合演習	総合演習		◆2	2		
	教育実習	教育実習		◆5	5		
合計						31	

(備考)

- (ア) 幼稚園教諭二種免許を取得するには、「基礎資格」（短期大学卒業者に係る短期大学士の学位を有すること）を得ると共に、最低修得単位数として教科に関する科目4単位、教職に関する科目27単位、合計31単位を修得しなければならない。
- (イ) 上記の表の最低修得単位数については、卒業資格に必要な必修科目のほかに、別表Aの「開設単位数」欄で◆印を付している科目のすべてを履修しなければならない。
- (ウ) 別表Aに示す最低単位数は、「教育職員免許法」第5条別表第1（1949年5月31日法律第147号、最終改正2003年法律第117号）および「同法施行規則」第5条、第6条（1954年10月27日文部省令第26号、最終改正2002年文科令第3、31号）に規定されている。

別表B 保育士資格取得に必要な単位

【平成21年度入学者】

児童福祉法施行規則に規定された科目名		授業形態	指定単位数		本学保育科第三部で開講している授業科目名	開設単位数	
			必修	選択		必修	選択
専 門 科 目	保育の本質・目的理解	社会福祉	講義	2	社会福祉	2	
		社会福祉援助技術	演習	2	社会福祉援助技術		●2
		児童福祉	講義	2	児童福祉		●2
		保育原理	講義	4	保育原理ⅠA	2	
					保育原理ⅠB		●2
					保育原理Ⅱ		②
		養護原理	講義	2	養護原理Ⅰ		●2
				養護原理Ⅱ		②	
	教育原理	講義	2	教育原理	2		
	保育の対象の理解	発達心理学	講義	2	発達心理学	2	
					児童心理学		②
					青年心理学		②
		教育心理学	講義	2	教育心理学		●2
					臨床心理学		②
		小児保健	講義 実習	5	小児保健A		●2
					小児保健B		●2
					小児保健実習		●1
	小児栄養	演習	2	小児栄養		●2	
	精神保健	講義	2	精神保健		●2	
	家族援助論	講義	2	家族援助論		●2	
	保育の内容・方法の理解	保育内容	演習	6	保育内容・健康		●2
					保育内容・人間関係		●2
					保育内容・環境		●2
					保育内容・言葉		●2
					保育内容・表現Ⅰ		●2
					保育内容・表現Ⅱ		●2
		乳児保育	演習	2	乳児保育Ⅰ		●2
				乳児保育Ⅱ		②	
障害児保育	演習	1	障害児保育		●1		
養護内容	演習	1	養護内容		●1		
基 礎 技 能	基礎技能	演習	4	音楽教育A	1		
				器楽A		●1	
				造形A	1		
				幼児体育A	1		
					音楽教育B		①
					音楽教育C		①
					音楽教育D		①
					器楽B		①
					造形B		①
					幼児体育B		①
	保育実習	保育実習	実習	5	保育実習Ⅰ		●5
		保育実習Ⅱ	実習		保育実習Ⅱ		●②
		保育実習Ⅲ	実習		保育実習Ⅲ		●②
	総合演習	総合演習	演習	2	総合演習		●2
合計			50	10以上		11	67

(備考)

(ア) 保育士資格必修科目については、卒業必修科目のほかに、別表Bの「開設単位数」欄で●印を付している科目のすべてを履修しなければならない。[ただし、「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」については(イ)参照]

(イ) 選択必修科目については、「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」のうち2単位以上を含めて、10単位以上を最低修得することとなっている。本学においては、「保育実習Ⅱ」は保育士資格必修科目の「保育実習Ⅰ」5単位と同時に修得する学習システムをとっているため、別表Bの「開設単位数」欄の○印で囲んだ科目から、最低8単位を選択履修しなければならない。

(なお、希望者は「保育実習Ⅲ」をさらに履修することが可能であり、その場合○印科目2単位として算入できる。)

選択必修科目は、卒業後の進路に応じて選択履修することが望ましい。詳しくは履修説明時に説明する。

(ウ) 別表Bに示す指定単位数は、「児童福祉法施行規則第6条の2第1項第3号の指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法」(2000年5月23日厚生労働省告示第198号)に規定されている。





平成 23 年度  
(2011 年度)  
入学者

平成23年度(2011年度) 学年暦〔I期〕 保育科第三部1年生

23年	日		月		火		水		木		金		土	
	3	入学式	4		5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
4月	10		11 ①		12 ①	13 ①	14 ①	15 ②	16 ②	17 ③	18 ③	19 ④	20 ④	21 ⑤
	17		18 ②		19 ②	20 ②	21 ②	22 ③	23 ③	24 ③	25 ③	26 ④	27 ④	28 ⑤
	24		25 ③		26 ③	27 ③	28 ③	29 ④	30 ④	1 ⑤	2 ⑤	3 ⑥	4 ⑥	5 ⑥
	1		2 ④		3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6 ④	7 ④	8 ⑤	9 ⑤	10 ⑥	11 ⑥	12 ⑦
5月	8		9 ⑤		10 ④	11 ④	12 ④	13 ⑤	14 ⑤	15 ⑥	16 ⑥	17 ⑦	18 ⑦	19 ⑧
	15		16 ⑥		17 ⑤	18 ⑤	19 ⑤	20 ⑥	21 ⑥	22 ⑦	23 ⑦	24 ⑧	25 ⑧	26 ⑨
	22		23 ⑦		24 ⑥	25 ⑥	26 ⑥	27 ⑦	28 ⑦	29 ⑧	30 ⑧	1 ⑨	2 ⑨	3 ⑩
	29		30 ⑧		31 ⑦	1 ⑦	2 ⑦	3 ⑧	4 ⑧	5 ⑨	6 ⑨	7 ⑩	8 ⑩	9 ⑪
	5		6 ⑨		7 ⑧	8 ⑧	9 ⑧	10 ⑨	11 ⑨	12 ⑩	13 ⑩	14 ⑪	15 ⑪	16 ⑫
6月	12		13 ⑩		14 ⑨	15 ⑨	16 ⑨	17 ⑩	18 ⑩	19 ⑪	20 ⑪	21 ⑫	22 ⑫	23 ⑬
	19		20 ⑪		21 ⑩	22 ⑩	23 ⑩	24 ⑪	25 ⑪	26 ⑫	27 ⑫	28 ⑬	29 ⑬	30 ⑭
	26		27 ⑫		28 ⑪	29 ⑪	30 ⑪	1 ⑫	2 ⑫	3 ⑬	4 ⑬	5 ⑭	6 ⑭	7 ⑮
	3		4 ⑬		5 ⑫	6 ⑫	7 ⑬	8 ⑬	9 ⑭	10 ⑭	11 ⑮	12 ⑮	13 ⑯	14 ⑯
	10		11 ⑭		12 ⑬	13 ⑬	14 ⑬	15 ⑭	16 ⑭	17 ⑮	18 ⑮	19 ⑯	20 ⑯	21 ⑰
7月	17		18 海の日		19 ⑭	20 ⑭	21 ⑭	22 ⑮	23 ⑮	24 ⑯	25 ⑯	26 ⑰	27 ⑰	28 ⑱
	24	オープンキャンパス	25 ⑮		26 ⑮	27 ⑯	28 ⑯	29 ⑰	30 ⑰	1 ⑱	2 ⑱	3 ⑲	4 ⑲	5 ⑲
	31		1 補講日		2 補講日	3 補講日	4 補講日	5 補講日	6 補講日	7 ⑲	8 ⑲	9 ⑲	10 ⑲	11 ⑲
	7	オープンキャンパス	8		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
8月	14		15		16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
	21		22		23	24	25	26	27	28	29	30	31	1
	28	オープンキャンパス	29		30	31	1	2	3	4	5	6	7	8
	4		5		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
9月	11		12		13	14	15	16	17	18	19	20	21	22

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

23年	日		月		火		水		木		金		土	
9月	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1
	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8
10月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
11月	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6
	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
12月	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2
	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
23年 1月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
23年 1月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
2月	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5
	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
3月	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1
	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9
3月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

## カリキュラム年次配当表

保育科第三部 平成23年度（2011年度）入学者対象

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当(数字は週当たり授業時間)						備考	ページ	
			必修	選択			1年		2年		3年				
							I	II	I	II	I	II			
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習		2	◇			2						☆	基礎・教養科目編参照
	英語	演習		2	◆	●		2						☆	
	コンピュータ演習	演習		2	◆			2						☆	
教養科目	宗教と人生	講義	2				2								
	文学	講義		2				②		②		②			
	色彩学	講義		2			2								
	日本国憲法	講義		2	◆					2					
	ジェンダー論	講義		2			②		②		②				
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2	◆	●		②		②		②			
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技		1	◇	●		②		②		②		☆☆	
健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技		1				②		②		②		☆☆		

- (注意) ◆印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必須科目を表す。  
 ◇印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。  
 ●印は、保育士資格取得のための必須科目を表す。  
 ○印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。

※学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

※備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

※備考欄の☆☆は、学則第23条第1項第3号の但書に規定する授業科目を表す。

カリキュラム年次配当表

保育科第三部 平成23年度（2011年度）入学者対象

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当(数字は週当たり授業時間)						備考	ページ	
			必修	選択			1年		2年		3年				
							I	II	I	II	I	II			
学	音楽教育A	演習	1		◆	○			2						
	音楽教育B	演習	1		◆	○				2					
	音楽教育C	演習	1			○					2				
	音楽教育D	演習	1			○						2			
	器楽A	演習	1		◆	●	2								22
	器楽B	演習	1		◆	○		2							23
	造形A	演習	1			○			2						
	造形B	演習	1		◆	○				2					
	幼児体育A	演習	1			○			2						
	幼児体育B	演習	1		◆	○				2					
	算数	講義	2		◇									不開講	
	生活概論	講義	2		◇									不開講	
	子どもの保健I A	講義	2			●		2							24
	子どもの保健I B	講義	2			●			2						
	子どもの保健II	演習	1			●					2				
	子どもの食と栄養A	演習	1			●			2						
	子どもの食と栄養B	演習	1			●				2					
	家庭支援論	講義	2			●						2			
	社会福祉	講義	2									2			
	相談援助	演習	1			●							2		
	児童家庭福祉	講義	2			●	2								25
	教育原理	講義	2						2						
	保育原理A	講義	2				2								26
	保育原理B	講義	2				○						2		
社会的養護	講義	2			●		2							27	
保育相談支援	演習	1			●							2			
教育実習	実習	5		◆					5					28	
保育実習I	実習	4			●		4							29	
保育実習指導I	演習	2			●		2							30, 31	
保育実習II	実習	2			○							2			
保育実習指導II	演習	1			○							1			
保育実習III	実習	2			○							2			
保育実習指導III	演習	1			○							1			
保育の心理学I	講義	2				2								32	
保育の心理学II	演習	1			●							2			
教育心理学	講義	2		◆								2			
児童心理学	講義	2		◆	○				2						
青年心理学	講義	2			○		2							33	
臨床心理学	演習	2			○					2				☆	
教育制度論	講義	2		◆								2			
教師・保育者論	講義	2										2			
保育課程総論	講義	2				2								34	
保育内容総論	演習	1		◆	●		2							35	
保育内容・健康	演習	2		◆	●			2						☆	
保育内容・人間関係	演習	2		◆	●				2					☆	
保育内容・環境	演習	2		◆	●			2						☆	
保育内容・言葉	演習	2		◆	●		2							☆ 36	
保育内容・表現A	演習	2		◆	●				2					☆	
保育内容・表現B	演習	2		◆	●			2						☆	
保育方法論	講義	2		◆			2							37	
社会的養護内容	演習	1			●		2							38	
乳児保育A	演習	1			●	2								39	
乳児保育B	演習	1			●							2			
障害児保育A	演習	1			●			2							
障害児保育B	演習	1			●							2			
教育相談	講義	2		◆	○							2			
保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2		◆	●							2		☆	

(注意) ◆印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必須科目を表す。  
◇印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。  
●印は、保育士資格取得のための必須科目を表す。  
○印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。

※備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《学科教育科目》

科目名	器楽A				
担当者名	大串 和久・他				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

保育者として望ましい姿勢を保ちつつ保育現場における応用力を身につけるための基礎技能を学びます。具体的には現場ですぐに役立つピアノとして「コード伴奏による弾き歌い」を簡易な段階から開始し、個々の到達度に合わせて個人レッスンと少人数のグループレッスンを適宜おりまぜながら進めていきます。この態勢はⅡ期の『器楽B』へと全面的に引き継ぎつがれます。

《授業の到達目標》

- コードネームを理解し、記されたコードネームを見ただけで容易に伴奏付けができる。
- 容易に伴奏付けができることによって歌うことにも集中し、楽曲をのびのびと弾き歌いできる。
- テキストの基礎編の中から指定された曲を全て弾き歌いできる。

《テキスト》

『うたのメルヘン』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）  
その他、必要に応じて担当教員から指示します。

《参考文献》

資料等は、必要に応じて配布します。

《成績評価の方法》

1. 欠席が 1/3 を超えたものは発表演奏資格なし。
2. 毎回の授業において指定曲をクリアし、I 期における最終段階(基礎編)が修了していること。
3. 中間発表会及び研究発表会(グランドピアノによる個人発表演奏)において規定の課題(約 1 か月前に指示) ができること。
4. 授業態度が真面目であること。
5. 受講進度表がきちんと整理されて記入してあること。
6. 実技試験 (60%=中間発表会・研究発表会) と授業点 (40%=上記 1～5 及び備考 1～4) の総合評価。

《授業時間外学習》

- ・予習  
毎回、次の授業に向けての課題を指示しますから必要に応じて各自で練習してください。
- ・復習  
毎回授業で扱ってきた曲を授業中に復習することにより着実にレパートリーを増やしていきます。授業中だけで復習の時間が不足と感じた時は個々で必要に応じて練習室や自宅等で練習してください。

《備考》

1. 遅刻・早退は 20 分まで出席扱い（当該日の授業点を減点）とします。やむを得ず 20 分を超えそうな時は出席扱いとはなりません。授業内容が毎回つながりを持ちますので、そのような時でも必ず出席してください。
2. 身だしなみとエチケット（つめ・髪・服装・靴等の清潔感）を心がけてください。
3. 毎回受講進度表に必要事項を記入し指導者から必ずサインまたは捺印をもらってください。
4. 講義室の使用上の注意事項を厳守し、授業終了時には次の使用者のために清潔を心がけてください。特に室内は飲食厳禁はもちろんこと、携帯電話の使用も厳禁（発覚の際は当該日の授業点を減点）です。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	『器楽A』における授業内容の説明。指導者の紹介と個々の進度調査及び個人指導。
第 2 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から かえるの合唱 メリーさんのひつじ 他
第 3 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から かたつむり きらきらぼし 他
第 4 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から やきいもグーチーパー とんぼのめがね 他
第 5 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から くさいっぼん 大きなくりの木の下で 他
第 6 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から中間発表時の課題曲 ※未履修曲の点検
第 7 週	「うたのメルヘン」から 中間発表会 期末（第 14 回）の研究発表会と同じく演奏会形式で実施する。
第 8 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から ぶんぶんぶん ちょうちょう 他
第 9 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から ありさんのおはなし ゆき 他
第 10 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から チューリップ こんこんクシヤンのうた 他
第 11 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から うみ こいのぼり 他
第 12 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から研究発表時の課題曲 ※未履修曲の点検
第 13 週	「うたのメルヘン」から 研究発表会のための予備練習と不足部分を補い個人指導を行う。 ※未履修曲の点検
第 14 週	「うたのメルヘン」から 研究発表会
第 15 週	器楽 A の総まとめ。アンケート実施。『器楽 B』の準備と課題確認。

《学科教育科目》

科目名	器楽B				
担当者名	吉良 武志・他				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

子どもたちと一緒に歌ったり、音楽の楽しさを共有することは、とても大切なことです。保育者にとって必要な音楽に関する基本的な技能、特にピアノを中心とした鍵盤楽器の演奏及び伴奏能力の養成を授業の目標とします。ピアノの独奏にとどまらず、コードネームによる伴奏法や即興演奏能力も身につけることを目指します。学生個々の到達度に合わせ、個人レッスンと少人数のグループレッスンを適宜おまぜ、授業を進めます。

《授業の到達目標》

- Ⅱ期の授業では、Ⅰ期「器楽A」に続き、より高度な音楽的技術の養成に取り組みます。
- これまでに習得したピアノ演奏及び読譜技術をさらに高めます。
- コードネームによって、子どもたちの歌に簡単な即興伴奏ができる。
- 実習など保育の現場で、子どもたちと一緒にピアノを弾きながらうまく歌える。
- 同様に、子どもたちと鍵盤ハーモニカなどの簡易な楽器による合奏ができる。また、その指導ができる。

《テキスト》

『うたのメルヘン』伊藤嘉子・中島龍一編著（共同音楽出版社）  
 学生個々の到達度に合わせたピアノ曲集等を、授業の中で適宜指示します。  
 また、必要に応じてプリント教材を配布します。

《参考文献》

授業の中で、適宜紹介します。図書館等で一読されることを望みます。

《成績評価の方法》

授業への出席回数が全体の三分の二に満たない者は、発表演奏できません。  
 発表演奏（60%）、及び出席状況等に見られる学習に取り組む姿勢（40%）で評価します。

《授業時間外学習》

音楽に関わる基本的な技術の習熟には、毎日の反復練習と各自の熱意がとても大切です。  
 毎回、次の授業に向けての課題を指示します。各自、毎日の練習は欠かさず実行しましょう。  
 何よりも音楽を楽しみ、より高い音楽的能力を身につけるよう練習に励むことを期待します。  
 多くのピアノ曲やこどもの歌に触れ、得意な曲のレパートリーを増やしましょう。

《備考》

- ・注意事項等、Ⅰ期「器楽A」に準じます。
- ・単に演奏技術を高めることにとどまらず、実際に演奏し、歌うことを通して、どのようにして子どもたちと音楽の楽しい感動体験を共有すればいいのか学びましょう。
- ・学習内容の進捗状況により、授業計画が前後する場合があります。
- ・楽器などの取り扱いには細心の注意を払い、また、清潔にするよう心がけましょう。
- ・毎日の繰り返しがとても大切です。休日も練習に励んで下さい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業内容の概説。個人レッスン担当教員の紹介、及び振り分け。 学生個々の到達度に合わせた練習課題の選択及び指導、練習方法の解説、指示。
第 2 週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(1)
第 3 週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(2)
第 4 週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(3) 中間研究発表における演奏曲の選択、範奏、個人指導。
第 5 週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(4) 中間研究発表における演奏曲の個人指導。
第 6 週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(5) 中間研究発表における演奏曲の個人指導。
第 7 週	中間研究発表演奏、ディスカッション。その後、発表結果を踏まえ個人指導。
第 8 週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(6)
第 9 週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(7)
第 10 週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(8)
第 11 週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(9)
第 12 週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(10) 期末研究発表における演奏曲の選択、範奏、個人指導。
第 13 週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(11) 期末研究発表における演奏曲の個人指導。
第 14 週	学生個々の到達度に合わせた、ピアノ演奏、弾き歌い等の練習課題を個人指導(12) 期末研究発表における演奏曲の個人指導。
第 15 週	研究発表演奏。その後、ディスカッション、発表結果を踏まえた総括及び指導。



## 《学科教育科目》

科目名	子どもの保健 I A				
担当者名	西村 美穂代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

## 《授業のねらい及び概要》

乳幼児が心身の健全な成長・発達を達成するために、小児の生活・発達段階にかかわる基礎的な事項(心身の健康)を理解するための学習。

## 《授業の到達目標》

胎生(胎児)からの乳幼児の成長・発達、乳幼児の特性を理解することができ、小児保健の意義を学び保育者としての保育・養護に必要な知識を修得する。

## 《テキスト》

新改訂版「わかりやすい小児保健」 第二版 西村昂三 編著 同文書院

## 《参考文献》

その都度、提示する。

## 《成績評価の方法》

中間テスト(30%)、VTR視聴(学習)のレポート提出(20%)、期末テスト(50%)  
「授業欠課回数が授業実施回数(15回)の3分の1以上欠課した学生は単位を与えない」  
但し、正当な欠課理由がある場合には、その証明となるものを提出すること。

## 《授業時間外学習》

テレビ番組の小児保健と関連する番組を視聴します。

テレビの特性である動画・声・音から、目・耳を通して、子どもの様々な特徴や親の子どもに対するおもしろい・かかわり方を感じ取り、授業時にイメージできるようにしておいてください。

番組は次の2番組を予定します。

- よみうりテレビ「ten! [めばえのコーナー]」(月曜日～金曜日・18:52～18:57)
- NHK教育テレビ「すくすく子育て」(毎週土曜日・21:00～21:29) ※番組内容(テーマ)は、毎週異なります。

## 《備考》

ニュースや新聞等での「子どもの健康」「子どもの事故」に関する記事を、講義に取り入れることもありますので注目しておいてください。

子どもを育てる職業を目指す皆さんであり、授業では人の話しを聴く・聴講のマナーを守る、という態度を示してください。

## 《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	開講にあたり担当者と学生との共通理解事項 小児保健Aの学習目的・展開方法 各自がもつ健康な子どものイメージ
第 2 週	小児期の区分(新生児～思春期) 出生前期の成長発達の特徴
第 3 週	出生前期の子どもの成長発達・健康を保持増進するための取り組み
第 4 週	新生児の成長発達(形態的・機能的・精神的)の特徴(VTR視聴)
第 5 週	新生児期の子どもの成長発達・健康を保持増進するための取り組み
第 6 週	乳児の成長発達の特徴(乳児期全般の特徴)(VTR視聴)
第 7 週	乳児の成長発達の特徴(各時期ごとの主な体と心の発達)
第 8 週	幼児の成長発達・健康を阻害する要因
第 9 週	幼児期前期・幼児期後期の養護(排泄・清潔・う歯・栄養(食生活)・遊び)
第 10 週	乳幼児の健康管理と身体発育の評価
第 11 週	予防接種(保育所・幼稚園での予防接種の意義・ワクチンの特徴)
第 12 週	予防接種(ワクチンの種類と感染症)
第 13 週	小児保健対策・小児保健統計(人口・出生・死亡)
第 14 週	母子保健サービスによる主な健康支援事業(主に病後児保育について) 「健やか親子21」の取り組み
第 15 週	まとめ・期末テスト

**《学科教育科目》**

科目名	児童家庭福祉				
担当者名	杉山 貴要江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

現代社会における児童家庭福祉の現状と課題について学習します。

保育士は保育、子育て支援の専門職であることを認識し、児童家庭福祉での学びが実践活動に活かせるようにすることを目指します。

**《授業の到達目標》**

- ・現代社会における児童家庭福祉の現状と課題について理解し、主体的に考えることができるようにします。
- ・児童家庭福祉の歴史の変遷、制度や実施体系等について学び、保育実習に活かせるようにします。
- ・児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解し、保育実習において検証できるようにします。

**《テキスト》**

『保育士養成テキスト3 児童福祉』 山野則子・金子恵美編著 (ミネルヴァ書房)

**《参考文献》**

授業中に紹介する予定です。

**《成績評価の方法》**

テスト(100%)で評価します。

**《授業時間外学習》**

テキストに沿って授業は進めます。事前にテキストを読んでおいてください。

**《備考》**

本授業は、「保育実習I」(施設)に連動しています。保育士として必要な児童家庭福祉に関する専門的知識を学ぶ場です。平易に説明するよう努めますので、学生の皆さんは「授業時間外学習」を充実させて授業に臨むようお願いしておきます。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第1週	保育者と児童家庭福祉 現代の子どもと親の実態、児童家庭福祉における現代的課題と保育者
第2週	子どもと家族 家族とは何か、家族の養育機能、子どもと社会、少子高齢社会と児童家庭福祉
第3週	児童家庭福祉の理念とその歴史的展開 児童家庭福祉理念の変遷、子どもの権利
第4週	わが国の児童家庭福祉に関する制度と福祉機関・施設 児童家庭福祉を支える法律、制度、実施機関
第5週	児童家庭福祉の現状と課題-1 少子化対策と子育て支援に関する児童福祉サービスの変遷と実情
第6週	児童家庭福祉の現状と課題-2 健全育成、児童厚生施設
第7週	児童家庭福祉の現状と課題-3 母子保健サービスの目的と意義、実施体制
第8週	児童家庭福祉の現状と課題-4 保育サービスの今日的意義と目的、保育所の歴史と役割
第9週	児童家庭福祉の現状と課題-5 児童虐待、虐待防止に関する施策とサービス、保育者の役割
第10週	児童家庭福祉の現状と課題-6 障がいのある子どもと家庭へのサービス、早期療育
第11週	児童家庭福祉の現状と課題-7 社会的養護、児童福祉施設の種別とその目的、家庭的養護
第12週	児童家庭福祉の現状と課題-8 少年非行の実態、児童自立支援施設の内容とその役割、情緒障がい (視聴覚教材使用)
第13週	児童家庭福祉の現状と課題-9 ひとり親家庭の動向と支援策、母子生活支援施設の実情、父子家庭の福祉施策
第14週	諸外国の児童家庭福祉の現状 スウェーデンの保育所の実態、児童家庭福祉の理念を踏まえた保育所のあり方 (視聴覚教材使用)
第15週	児童家庭福祉の実践と児童家庭福祉従事者 児童家庭福祉の専門職、関連機関の連携、援助方法

《学科教育科目》

科目名	保育原理A				
担当者名	福田 規秀				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

今の社会に必要なとされる保育について、システムや法令、歴史的変遷や現代的ニーズ等を中心として真摯に考えながら、何が子どもにとっての最善の利益なのかを、社会変化やそれに伴う保育の課題を軸に考察を深めていく。学生諸君の幼い日の経験が考える原点とも言えます。その中の何が現在の自分に影響しているのか、学びながら解き明かしていきましょう。

《授業の到達目標》

保育とは何かを問い続けることは子どもを理解すること、保育のあり方について探究することであり、それは自らの子ども観・保育観の形成、向上につながっていくものである。この講義では、保育の基本原則を学ぶことを通して乳幼児期における保育の意義について概観し、その内容の基盤を多様な角度から考察する中で、保育者として必要な基礎的知識の習得を目指す。つまり保育実践にあたり必要となる基本的な知識の習得と自らの保育や子どもへの想いを自覚することを目指す。

《テキスト》

- 『新・保育原理』一すばらしき保育の世界－（みらい 2009）
- 『最新保育資料集2011』森上史朗編（ミネルヴァ書房 2011）
- 『保育所保育指針解説書』厚生労働省編（フレーベル館 2008）

《参考文献》

- 『フレーベルの生涯と思想』荘司雅子著（玉川大学出版部 1984）
- 『子どもの世界をどうみるか』津守真著（NHKブックス 1987）
- 『センス・オブ・ワンダー』レイチェル・カーソン著 上遠恵子訳（新潮社 1996）
- 『クリティカル進化論』道田泰司・宮元博章著 秋月りす画（北大路書房 1999）
- 『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館 2008）

その他授業中に随時紹介する。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等（20%）と筆記試験（80%）の総合評価。課題の提出は期限内でお願いします。

授業回数の1/3を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

講義終了時に次回講義の予告を出来る限りで行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。

学びにはリフレクションが重要です。よって講義中に取ったメモをもとに、講義内容を自分なりの方法でノートにしっかりまとめておくこと。

適宜課題を出すので真面目に取り組んでください（例えば子どもに関する新聞記事のスクラップやネットを利用した情報収集、メディアを駆使したレポート課題の提出等）。

《備考》

全体の授業計画については、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある。

保育所保育指針をはじめ、法令を見ることも多いので『最新保育資料集』を忘れないこと。

子どもに関する情報を様々なメディアを通じて自分でも収集することに努めること。また実際の子どもの観察する機会を多く持つてほしい。

予習、復習に当たった疑問は、講義時やオフィスアワー等を利用して遠慮なく質問してください。

保育者を目指すにあたり、出席や受講態度、事前準備に気をつけること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業へのオリエンテーション、保育の意義を考える－保育とは
第 2 週	保育の意義を考える－なぜ保育が必要なのか
第 3 週	保育の場について知る－家庭－保護者の責務とその限界
第 4 週	保育の場について知る－保育施設－社会的意義
第 5 週	保育の思想とその歴史を学ぶ－諸外国
第 6 週	保育の思想とその歴史を学ぶ－諸外国
第 7 週	保育の思想とその歴史を学ぶ－日本
第 8 週	保育の思想とその歴史を学ぶ－保育制度の成立
第 9 週	どのように保育を考え進めるべきかを考える－養護と教育・環境・発達過程・連携
第10週	どのように保育を考え進めるべきかを考える－養護と教育・環境・発達過程・連携
第11週	どのように保育を考え進めるべきかを考える－子ども理解と保育観・倫理観
第12週	保育の内容を学ぶ－基本的な考え方・方法とは
第13週	保育の現状と課題－諸外国の現状
第14週	保育の現状と課題－保育のあした
第15週	まとめ・筆記試験

**《学科教育科目》**

科目名	社会的養護				
担当者名	藤本 政則				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

今日の子育て家庭の全体的な状況を説明し、社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景等を理解する。また社会的養護体系についても説明し、保育所以外の児童福祉施設の役割やその養護の実際について理解する。さらにそこでの援助者としての保育士の役割についても理解する。

**《授業の到達目標》**

保育所以外の児童福祉施設における処遇を体系的に理解する。

**《テキスト》**

『改訂3版・保育士養成講座 第8巻 養護原理』新・保育士養成講座編纂委員会編（全国協議会社会福祉 2007）

**《参考文献》**

『トラウマの臨床心理学』 西澤哲 金剛出版

**《成績評価の方法》**

下の2方法にて成績評価を行う。尚、配点の割合は「1」が3割、「2」が7割とする。

1. 授業態度、保育士資格取得に対する意欲等の評価。
2. 筆記試験による評価（単位取得に必要な知識等を評価。試験問題は主に語句説明ならびに論述問題によって構成。）

**《授業時間外学習》**

- ・毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。
- ・授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

**《備考》**

- ・各講義の開始時に出席の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
- ・授業中の飲食、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第1週	養護における子ども観
第2週	養護における子ども観－「子どもの権利」をどう考えるか－
第3週	児童と養護－家庭や社会の役割－
第4週	児童と養護－社会的養護を必要とする子どもたち－
第5週	児童と養護－児童養護の歴史1－
第6週	児童と養護－児童養護の歴史2－
第7週	施設における児童養護－施設で生活する子どもたち－
第8週	施設における児童養護－施設養護の特質－
第9週	施設における児童養護－施設養護の基本原則1－
第10週	施設における児童養護－施設養護の基本原則2－
第11週	児童養護の制度とその領域－児童養護の制度1－
第12週	児童養護の制度とその領域－児童養護の制度2－
第13週	児童養護の制度とその領域－児童養護の領域1－
第14週	児童養護の制度とその領域－児童養護の領域2－
第15週	学習のまとめと筆記試験

《学科教育科目》

科目名	教育実習				
担当者名	三井 圭子・青木 好代				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

教育実習に必要な知識や実践技能を学び、保育をする力を身に付ける

《授業の到達目標》

幼稚園見学観察実習に関する事前指導を行う。幼児の成長発達を理解し、幼児の姿、活動をどうとらえるかを学ぶ。保育者の子どもへのかかわりや、対応の姿から幼児教育への理解を深め、保育の知識や技術を学ぶ。幼児の遊びを理解し、意欲的に子どもとかわり合うことの大切さを学び、保育の基本を知る。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』  
『実習の手引き』【授業で配布】  
『実習日誌の書き方』（萌文書林）

《参考文献》

「実習に行くまえに知っておきたい保育実技」萌文書林  
授業中に適宜紹介  
プリント配布

《成績評価の方法》

最終的評価になるが 授業中に課す提出物（10%）発表内容及び授業態度（20%）実習園の評価（70%）とし評価する。  
授業の出席は、全出席とする

《授業時間外学習》

子どもが楽しんでいる遊びを考えたり、保育雑誌など見たり、図書館で調べて事前を知っておくと実習に役だつ。  
次回の授業に提出物がいる場合は、必ず提出できるように準備をしておくこと。

《備考》

教育実習を受ける資格条件をしっかり理解し、遵守する。  
授業は全出席ですが、やむを得ず欠席、遅刻、早退をした場合は、必ず保育研究室に連絡をし、担当者から指示を受けるようにする。  
積極的、意欲的に取り組み、授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。  
提出物の期限は必ず守ること。（期日を過ぎれば受けとらないこともある）  
教材研究をする場合があるので、ハサミ、のり、セロテープ、ホッチキス、クリップ等を常に携帯しておくこと

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	保育実習Ⅰ（保育所）
第 2 週	保育実習Ⅰ（保育所）
第 3 週	保育実習Ⅰ（保育所）
第 4 週	保育実習Ⅰ（保育所）
第 5 週	保育実習Ⅰ（保育所）
第 6 週	保育実習Ⅰ（保育所）
第 7 週	保育実習Ⅰ（保育所）
第 8 週	保育実習Ⅰ（保育所）
第 9 週	教育実習の考え方と心得：授業の進め方：見学観察実習について
第 10 週	教育実習の意義と学ぶべきことについて 幼稚園教諭の役割と仕事の理解：幼稚園の一日の生活の流れを知る（VTR 視聴）
第 11 週	幼稚園の役割について 幼稚園教育の基本について
第 12 週	幼児の発達と幼児理解 子どもと保育者とのかかわりについて：遊びのねらいについて（VTR 視聴）
第 13 週	環境による教育について 子どもにとっての適切な環境構成を考える：保育室の環境、園庭や周辺環境について
第 14 週	幼児の遊びについて 遊んでいる幼児の活動や姿のとらえ方について：3歳児、4歳児、5歳児の遊びを考える
第 15 週	指導計画の作成について 見学観察実習の記録の書き方について：具体的な活動の指導計画について

《学科教育科目》

科目名	保育実習 I				
担当者名	井上 眞美子・福田 規秀・杉山 貴要江				
授業方法	実習	単位・必選	4・選	開講年次・開講期	1年・通年

《授業のねらい及び概要》

保育所及び居住型児童福祉施設等ないしは障害児通所施設等の生活に参加し、子どもたちへの理解を深めるとともに、それぞれの施設の機能やそこでの保育士の業務内容等について具体的、体験的に学ぶ。

《授業の到達目標》

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能について具体的に理解する
2. 観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を少しでも深める
3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの実状に応じた保育について具体的に学ぶ
4. 保育の記録に基づく省察や自己評価、計画に基づく実践について具体的に学ぶ
5. 保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める

《テキスト》

決まったものはありません。実習の中で自分で探してください。

《参考文献》

各教科や保育実習指導 I で使用した教科書、参考文献、配布物等。自分で書き溜めたノート。  
自分で調べたり、体験したこと。  
実習先の先生方にも紹介してもらってください。

《成績評価の方法》

実習意欲や態度、子どもたちとの関わり、記録や計画の理解等に関する評価項目に従い、実習園にて評価票が作成される。その評価に基づき、保育実習指導 I の受講状況を加味し、実習ノートを精査して総合的に評価する。なお保育実習 I は保育所実習 2 週間、施設実習 10 日間の両実習をクリアしないと単位認定されない。

《授業時間外学習》

以下の事を心に留めてください。

子どもたちとの出会いの最初が実習ではなく、ボランティアで積極的に保育現場等を訪問し、子どもたちとの関わりを経験すること。実習までに少しでも遊びのレパートリーを増やしておくこと。

各教科で学んだことを単なる知識にとどめることなく、それを実践しようという意欲をもつこと。それに迷えば各教科担当に遠慮なく質問すること。

実習に入る直前ではなく少し前から、体調管理等実習に臨む気持ちを高めること。また実習課題や実習計画を何度も見返し、意識すること。

実習中はアルバイト禁止です（そういう余裕はありません）。

実習初期は何を質問したらよいかも分からないことが多いです。とにかく先生方や子どもたちと関わり、分からないことを見つけてください。

学んだこと、教えていただいたことを実習ノートにしっかりと記述し、1日の振り返りをして次の日に臨んでください。

実習ノートを1日でも溜めると次の日の睡眠が大きく損なわれます。気をつけましょう。

実習ノートは自分だけでなく、他人に読んでいただくものです。丁寧に書いてください。

提出物等は期日を守ること。

態度は素直が一番です。

《備考》

ほう・れん・そうを忘れないこと（実習園にも学校にも）。

実習内容については、各実習園の指示に従ってください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	各実習園で実習スタイルは様々です。 年齢で言えば、各年齢を順番に回ったり、ひとつの年齢でずっと留まったり。各実習園で指示を出されますので、よく聞いてください。質問があれば、恥ずかしがらないで聞くこと。 2週間、10日間頑張ってください。
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第 10 週	
第 11 週	
第 12 週	
第 13 週	
第 14 週	
第 15 週	

## 《学科教育科目》

科目名	保育実習指導 I				
担当者名	井上 眞美子・福田 規秀				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・通年

## 《授業のねらい及び概要》

保育実習 I（保育所見学観察実習 1 月 2 週間）に必要な手続きについて指導するほか、実習の意義・目的、具体的な内容・方法・心構え、実習後の自己評価やそれに基づく新たな課題の発見などについて、保育実習 I のための事前・事後指導を行います。

## 《授業の到達目標》

### 事前指導

保育所実習の意義・目的・内容・方法等を理解する。  
守秘義務や人権の尊重等実習中の留意事項や心構え、自らの実習課題について理解する。

### 事後指導

実習を総括、自己評価し、新たな学習課題を発見するとともに、保育実習 II に備える。

（参考）保育所見学観察実習

保育所の生活を体験し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能や保育士の職務内容・職業倫理についての理解を深める。保育の補助を体験する中で、PDCA サイクルの重要性に少しでも気付く。

## 《テキスト》

- 『よくわかる保育所実習（第三版）』 百瀬 ユカリ （創成社 2009）  
『実習日誌の書き方』 相馬 和子他編 （萌文書林 2004）  
『実習に行くまえに知っておきたい保育実技』 久富 陽子編 （萌文書林 2003）

## 《参考文献》

- 『最新保育資料集 2011』 森上史朗編 （ミネルヴァ書房 2011）  
『保育所保育指針解説書』 厚生労働省編 （フレーベル館 2008）  
いずれも保育原理 A で購入済みです。  
あとプリントを配付するほか、文献はその都度紹介します。

## 《成績評価の方法》

この授業への出席は 1/3 規定を適用しない（全出席を前提とする）。

事前指導 60%、事後指導 40%の比率で、受講態度や提出物、書類の作成状況等に基づき総合的に評価する。提出物は期限を守ること。

この評価は保育実習 I とは切り離して行うが、履修状況によっては、希望しても実習に出られない場合がある。また実習に出ても実習の評価について、保留あるいは不可になる場合がある。

なお、最終的な保育実習指導 I の成績は、施設実習に関する保育実習指導 I の評価を加え総合的に評価する。

## 《授業時間外学習》

日頃から子どもたちの言動に興味がいこう心がけてください。出来ればその中で面白いと思ったことを書きとめてください。「子どもからの発見」ということで提出を求める可能性があります。

「子どもの文化」に敏感であってください。学生諸君も幼い頃夢中になったものがいくつかあったはずですよ。おもちゃでもテレビでもお菓子でもファッションでも何でも結構です。文字ベースだけでなく、マルチメディア的表現でその説明を求めるかもしれません。

「自分の得意ワザ」を見つけておいて下さい。それを使って子どもたちとの遊びを考えてもらいます。

図書館の絵本コーナーやおもちゃ屋さん、ホームセンター等に出かけ、実習に使えるかもしれないものを発見しておいて下さい。

学生諸君の好奇心が子どもに負けないものになれば、きっと実習の結果もそれなりに出るでしょう。

他の誰の実習でもない、あなたが望んでいく実習です。あなたがせずして誰が子どもの相手をするのですか？

## 《備考》

1. 保育実習指導 I は「保育所」「施設」それぞれの保育実習 I の事前・事後指導からなっており、両方を受けなければなりません。
2. 欠席・遅刻・早退をしないこと。やむをえず欠席・遅刻・早退の場合は、必ず保育研究室へ連絡すること。また後日、担当者の指示をうけること。
3. 掲示により緊急連絡することもあります。掲示（ピロティと保育研究室）を見て行動すること。
4. 講義時は、いつも保育所での実習と考えて出席すること（服装、態度）。
5. 講義中に行う実技演習には積極的に参加すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	事前指導 保育実習とは
第 2 週	事前指導 保育所の概要と実習の様子（視聴覚教材）
第 3 週	事前指導 保育所実習希望受け付け 内諾について
第 4 週	事前指導 保育所の施設設備、機能の概要
第 5 週	事前指導 保育士の職務内容・職業倫理 個人票記入
第 6 週	事前指導 乳幼児の姿（視聴覚教材）
第 7 週	事前指導 実習中の留意事項（守秘医務・人権の尊重等）
第 8 週	事前指導 実習課題の作成 実習記録について（観察の視点）
第 9 週	事前指導 実習記録について（各所の書き方）
第 10 週	事前指導 実習記録について（全般的注意）
第 11 週	事前指導 実習先でのオリエンテーションについて 部分指導について
第 12 週	事前指導 部分指導について 細菌検査
第 13 週	事前指導 直前指導 実習中の心構え・諸注意 配布物の確認 実習終了後の日程
第 14 週	事後指導 実習を振り返っての全体討議 アンケート・自己評価等
第 15 週	事後指導 実習を振り返ってのグループ討議 保育実習Ⅱに向けて



**《学科教育科目》**

科目名	保育の心理学 I				
担当者名	松田 信樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

人間の生涯にわたる発達過程の理解を目標とする。誕生から死に至るまでの人間発達の流れを複数の発達段階にわけ、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。

**《授業の到達目標》**

- 誕生から死にいたるまでの生涯発達の流れを理解できるようになること。
- 発達にかかわる心理学の基礎的事項を理解すること。
- 保育者として一人の人間の発達を「見つめる」視点を身につけること。

**《テキスト》**

テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。

**《参考文献》**

- 『図で理解する発達～新しい発達心理学への招待』 川島一夫・渡辺弥生（編著） 福村出版 2010
- 『新版発達心理学への招待』 柏木恵子・古澤頼雄・宮下孝広（著） ミネルヴァ書房 2005
- 『よくわかる発達心理学』 無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編） ミネルヴァ書房 2004
- 『キーワードコレクション発達心理学[改訂版]』 子安増生・二宮克美（編） 新曜社 2004

**《成績評価の方法》**

最終回に行う授業目標の到達度評価（テスト）100%

**《授業時間外学習》**

参考文献として挙げた文献などを読むことで、授業中に取り上げたテーマについて理解を深めること。

**《備考》**

授業にただ出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておいてください。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション：心理学そして「保育の心理学」への招待
第 2 週	人が発達するとはどういうことか？
第 3 週	人間の発達を支える遺伝と環境
第 4 週	胎児期・新生児期の発達
第 5 週	新生児期・乳児期の発達
第 6 週	乳幼児期の発達 その1
第 7 週	乳幼児期の発達 その2
第 8 週	幼児期・児童期の発達 その1
第 9 週	幼児期・児童期の発達 その2
第10週	幼児期・児童期の発達 その3
第11週	青年期の発達
第12週	成人期の発達
第13週	発達のみずみずきについて理解する
第14週	まとめ：人間の生涯発達をふりかえる
第15週	まとめ：授業目標の到達度評価(テスト)

**《学科教育科目》**

科目名	青年心理学				
担当者名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

子どもから大人への過渡期にある青年のこころを、自己意識の発達や自己形成という観点から理解し、青年の自立と成長への支援とは何かを考える。

**《授業の到達目標》**

青年期の特異性や意味を学び、自己意識や自我の発達と成長の過程を追っていく。青年期を前期、中期、後期に3区分し、それぞれの時期特有の心理を理解し、さらに現代青年を取り巻く文化や時代が青年の人間発達に及ぼす影響を考える。

**《テキスト》**

使用しない

**《参考文献》**

授業中適宜紹介する

**《成績評価の方法》**

平常点 30%、筆記試験 70%

**《授業時間外学習》**

青年や若者の文化・ことば・ファッション、事件などについての記事を新聞、雑誌、web 上から探し、レポートする。

**《備考》****《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	*オリエンテーション *青年心理学の目的と方法 *青年心理を考える枠組み *青年期の課題
第 2 週	青年心理学の研究法
第 3 週	I.青年期のはじまり *プレ思春期から青年期へ *自我の目覚めと自律への欲求
第 4 週	*揺れ動く青年の感情 *不安定と敏感
第 5 週	*性のめざめ *性と愛に向き合うということ
第 6 週	II 青年期の葛藤 *理想と現実の矛盾 *自己主張と反抗・異議申し立て
第 7 週	*思考と感情の特徴 *感情の論理
第 8 週	III.青年期後期の心理 自我同一性の確立と形成 その1
第 9 週	*自我同一性の確立と形成 その2 *本当の自分探しとモラトリアム
第10週	*将来を考える *生活設計の開始
第11週	*職業・キャリアを考える
第12週	*現代の青年の実像と社会問題 ニート、フリーター、引きこもり
第13週	*青年の人間関係(仲間・家族)
第14週	*「大人になる」とは
第15週	まとめ

**《学科教育科目》**

科目名	保育課程総論				
担当者名	藤井 恵美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

- ・ 教育課程・保育計画の全体構造・具体的な編成等を知る。
- ・ 保育に対する基本を理解した上で、子どもの主体性を尊重する環境構成、保育の内容について考える。
- ・ 保育者の専門性を明確にし、保育者の役割と保育の計画性の関係について学ぶ。

**《授業の到達目標》**

- ・ 教育課程・保育計画の意義や目的を十分に理解し、理論と実践をつなぐことができる。
- ・ 子どもの発達のプロセスを視点においた教育課程と保育計画に関する基礎的な知識を習得する。

**《テキスト》**

「教育課程・保育課程論」 神長美津子・塩谷 香編著 (光生館)

**《参考文献》**

「教育課程・保育計画総論」 芝崎正行・戸田雅美編 ミネルヴァ書房  
「幼児教育課程・保育計画総論」 森上史朗・阿部明子編著 建帛社  
「幼稚園教育要領」  
「保育所保育指針」

**《成績評価の方法》**

筆記テスト50%、レポート30%、受講態度20%

**《授業時間外学習》**

- ・ 次回の授業範囲を予習しておくこと。特に、教科書をよく読んでおくこと。
- ・ 適宜、課題を出すので、その課題について深く考えたり、調べたりしてまとめてきてください。
- ・ 授業で学んだことを振り返り、ノートにまとめておいてください。

**《備考》**

- ・ 幼稚園・保育所に関する情報（新聞やニュースなど）を常に、意識して収集しておいてください。
- ・ 教科書は必ず持参してください。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション（授業の目的、内容、方法、評価などについて） 保育とは何か
第 2 週	保育内容の変遷と教育課程
第 3 週	教育課程編成の意義と役割・基本的な考え方
第 4 週	幼児の遊びと学び
第 5 週	教育要領と教育課程の編成（保育内容としての「領域」・総合的な指導）
第 6 週	発達の理解と教育課程の編成
第 7 週	特色ある幼稚園づくりと教育課程の編成
第 8 週	指導計画の作成の手順 ①
第 9 週	指導計画の作成の手順 ②
第 10 週	幼稚園における教育課程編成の実際
第 11 週	保育所における保育計画 ①
第 12 週	保育所における保育計画 ②
第 13 週	現代社会と保育内容の課題
第 14 週	さまざまな保育課題と保育内容
第 15 週	現代の保育内容と実践のあり方について

## 《学科教育科目》

科目名	保育内容総論				
担当者名	篠原 いくよ				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

### 《授業のねらい及び概要》

乳幼児期は人間形成の基礎を培う最も重要な時期です。乳幼児がよりよい方向に発達していくためには、どのような「保育環境」「保育目標」のもとで、「子どもの発達」「保育内容」をどう関連付ければよいかを考えましょう。また、保育者の役割について、ビデオ視聴 実技 グループ討議などの具体的な実践事例を参考にしながら、自己学習することを目指してください。乳幼児の幸せを求め、保育内容への理解を深めていきましょう。

### 《授業の到達目標》

- ① 保育ということの総体的な内容について理解し、説明できる
- ② 幼児を理解するということの重要性について説明できる
- ③ 簡単な活動の指導計画を立てることができる
- ④ 保育の手立てについて理解し、簡単な模擬保育ができる

### 《テキスト》

「幼稚園教育要領解説」文部科学省（フレーベル館）  
2008年3月発表「保育所保育指針解説書」厚生労働省（ひかりのくに）

### 《参考文献》

育ての心（上・下） 倉橋惣三著（フレーベル新書）

### 《成績評価の方法》

- |                                |     |
|--------------------------------|-----|
| ・ 授業内課題（筆記試験・レポート課題等の提出物）      | 50% |
| ・ 模擬保育（模擬保育実施及び保育案作成・作業シートの記入） | 30% |
| ・ 授業内発表（参加意欲・授業内態度）            | 20% |

### 《授業時間外学習》

模擬保育のための指導計画を作成する  
模擬保育に必要な教材の選択と、実施のための練習

### 《備考》

- ・ 保育者・教師としては、子どもから尊敬され、保護者から信頼されることが必要です。そのためには自らの向上心を高め、規範意識をしっかりともつことが重要です。従って、授業内での私語やうつぶせ寝は止めましょう。また、実技に取り組むための教材研究を進めておいてください。
- ・ 保育に関することで迷うことは、何でも質問してきてください。

### 《授業計画》

週	授 業 計 画	
第1週	授業の進め方と授業計画	
第2週	保育をするということ 幼稚園教育要領・保育所保育指針の読み取りと研究	
第3週	保育内容と子ども理解 ①幼児期にふさわしい生活と指導	
第4週	保育内容と子ども理解 ②遊びを通しての総合的な指導の意味	
第5週	保育内容と子ども理解 ③一人一人の発達の特性に応じた指導	
第6週	事例研究① 3歳児の園生活（前半）と指導内容	事例研究により3歳児の発達の課題を探る 《VTR視聴》
第7週	事例研究② 3歳児の園生活（後半）と指導内容	事例研究により3歳児の発達の課題を探る 《VTR視聴》
第8週	事例研究③ 4歳児の園生活と指導内容	事例研究により4歳児の発達の課題を探る 《VTR視聴》
第9週	事例研究④ 5歳児の園生活と指導内容	事例研究により5歳児の発達の課題を探る 《VTR視聴》
第10週	教育課程・保育課程と指導計画 子どもの主体性と保育者の計画性	
第11週	指導計画（部分）の作成と実践1	模擬保育の実施と反省・課題についての討議（手遊び）
第12週	指導計画（部分）の作成と実践2	模擬保育の実施と反省・課題についての討議（絵本指導）
第13週	指導計画（部分）の作成と実践3	模擬保育の実施と反省・課題についての討議（簡単な製作指導）
第14週	指導計画（部分）の作成と実践4	模擬保育の実施と反省・課題についての討議（教具を工夫した保育指導）
第15週	保育内容の歴史的変遷・保育の多様性・保育は何処に向かうのか	

《学科教育科目》

科目名	保育内容・言葉				
担当者名	米田 妙子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

ことばは日常の生活の中で、人との関わりの中で獲得される。そのことばを使ってものを認識し、思考し、想像力や創造力を育み、人間として成長していく。

乳幼児の発達とことばを獲得していく道筋を学習し、指導や支援のあり方について考える。

《授業の到達目標》

- ・領域「言葉」に示された「ねらい」「内容」を理解し、ことばの指導や支援の方法を理解する。
- ・ことばの機能を認識し、説明できる。
- ・ことばを獲得していく上で、母子相互関係の重要性を認識し、説明できる。
- ・ことばを獲得していく道筋を理解し、子どもとのかかわり方を身につける。
- ・子どもが絵本や昔ばなし等の文化財から得るものを認識する。
- ・パネルシアターを作製し、製作技術や演技方を身につけ、感性を養う。

《テキスト》

『保育内容・言葉』阿部明子編著（建帛社）

『保育所保育指針』

『幼稚園教育要領』

《参考文献》

- ・人と人とのかかわりを育てるシリーズ〈幼児編〉『育つ・育てる』②言葉の力をのばす 藤田浩子（一声社）
- ・必要に応じ、印刷物を配布する。

《成績評価の方法》

筆記試験（60%）・提出物（20%）・授業態度（20%）で評価する。

《授業時間外学習》

- ・教科書、資料等の指定箇所を読んでおくこと。
- ・子どもに関するニュース・記事、「ことば」に関するニュース・記事をノートに記録しておくこと。

《備考》

- ・授業中の私語、携帯電話、飲食は厳禁。
- ・提出物は期限厳守。
- ・正当な理由のない欠席・遅刻・早退についてはチェックする。
- ・製作用具は各自必ず用意すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション ・講義の概要 ・授業のすすめ方 ・履修上の諸注意 ・領域「言葉」のねらいと内容 ・保育所保育指針 ・幼稚園教育要領
第 2 週	ことばの機能
第 3 週	母子相互作用の重要性
第 4 週	ことばと子どもの発達 ①ことばの獲得（1～2期）
第 5 週	②ことばの獲得（3～4期）
第 6 週	③ことばの獲得（5～6期）
第 7 週	子どもの生活とことばの指導
第 8 週	文化財とのかかわり ①絵本について
第 9 週	②昔ばなしからのメッセージ
第10週	③パネルシアターづくり
第11週	④パネルシアターづくり ・完成させ、演じる
第12週	気になることばの問題
第13週	文字指導について
第14週	ことばから国語教育へ ・就学につながる耕し
第15週	まとめ・理解度の確認

《学科教育科目》

科目名	保育方法論				
担当者名	福田 規秀				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

保育のあり方や具体的な課題を、事例等との関連の中でともに考え理解を深めていく。そして子どもたちが充実し、しかもその時期にふさわしい園生活を送れるような保育環境や保育指導の方法について、学生間で意見を出し合い、それを実践に結びつける方策について考察を進めていく。

また環境構成については具体的や遊具や視聴覚教材を提示し、その利用法や新たな活用法についても理解を深められるようにする。

《授業の到達目標》

主体的に活動する子どもを援助し、子どもと一緒に保育を創る方法について、過去の知見や現代的な事例に触れながら考察する中で、保育方法についての基本的な考え方と自分なりの実践への手がかりを探究する。学生諸君はこの過程の中で、自らの子ども観、保育観を向上させ、実習で得た課題へのヒントを見いだすことが出来るはずである。

《テキスト》

『幼児教育の方法』小田豊・青田倫子編著（北大路書房 2009）

『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館 2008）

《参考文献》

『専門家の知恵』ドナルド・ショーン著 佐藤学・秋田喜代美訳（ゆみる出版 2005）

『マインドストーム』シーモア・ペパート著 奥野貴世子訳（未来社 1995）

『幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価』文部科学省（チャイルド本社 2005）

『幼稚園教育指導資料第4集 一人一人に応じる指導』文部科学省（フレーベル館 2006）

その他授業中随時紹介する。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等（20%）と筆記試験（80%）の総合評価。課題の提出は期限内でお願いします。

授業回数の1/3を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

講義終了時に次回講義の予告を出来る限り行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。

学びにはリフレクションが重要です。よってメモ等に基づき、講義内容を自分なりの方法でノートにまとめておくこと。

適宜課題を出すので真面目に取り組んでください（例えば実習で出会った遊具についてのレポート、小さい頃に居心地のよかった場所についてのイメージ表現やメディアを駆使した課題の提出等）。

《備考》

全体の授業計画については、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある。

保育原理Aで購入した『最新保育資料集』『保育所保育指針解説書』を持参してもらってください。

授業への積極的な参加（質疑応答等）をのぞむ。逆に授業進行や周囲への迷惑行為は厳禁である。

子どもとメディアについて柔軟な思考で対応できるよう情報を少しでも自分で収集しておくこと。講義に持参した遊具等は積極的に触ってください。

重ねて保育者になるにふさわしい出席・受講態度・事前準備を期待する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業のオリエンテーション、保育方法とは
第 2 週	環境を通しての保育
第 3 週	遊びを通しての保育
第 4 週	幼児の主体的な生活と保育
第 5 週	保育者の役割
第 6 週	遊びから学びを育む保育ー感じる・気付く
第 7 週	遊びから学びを育む保育ー友だちと関わる
第 8 週	プロジェクトアプローチとチーム保育
第 9 週	保育における評価
第10週	小学校教育との連携
第11週	家庭や地域との連携
第12週	カウンセリングマインド
第13週	保育に活かす遊具・視聴覚・情報メディア
第14週	保育に活かす遊具・視聴覚・情報メディア
第15週	まとめ・筆記試験

**《学科教育科目》**

科目名	社会的養護内容				
担当者名	藤本 政則				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

乳児院や児童養護施設等の入所型、生活型児童福祉施設における生活やそこで生活する子どもたちについて正しく理解する。またそのような子どもたちへのケアのあり方についても学び、援助者としての保育士の役割についても理解する。

**《授業の到達目標》**

1. 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について学ぶ。
2. 施設養護や里親養育等の社会的養護の実際について学ぶ。
3. 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援、親子関係の調整等の内容について学ぶ。
4. 社会的養護に関わるソーシャルワークの方法と技術について理解する。
5. 社会的養護を通じて、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。

**《テキスト》**

なし。レジュメ等の資料を適宜配布する。

**《参考文献》**

『改訂3版・保育士養成講座 第8巻 養護原理』新・保育士養成講座編纂委員会編（全国協議会社会福祉 2007）

**《成績評価の方法》**

下の2方法にて成績評価を行う。尚、配点の割合は「1」が4割、「2」が6割とする。

1. 授業態度、授業レポート、保育士資格取得に対する意欲等の評価。
2. 筆記試験（単位取得に必要な知識等を評価。）

**《授業時間外学習》**

- ・毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。
- ・授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

**《備考》**

- ・各講義の開始時に出欠の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
- ・授業中の飲食、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	児童の権利擁護
第 2 週	保育士等の倫理及び責務
第 3 週	施設養護の特性及び実際
第 4 週	里親養育の特性及び実際
第 5 週	児童の個別支援計画の作成の実際
第 6 週	日常生活支援の理論と実際 ①
第 7 週	日常生活支援の理論と実際 ②
第 8 週	治療的支援の理論と実際 ①
第 9 週	治療的支援の理論と実際 ②
第 10 週	自立支援の理論と実際
第 11 週	親子関係調整の理論と実際
第 12 週	保育士としてのケアワークの理論と実際
第 13 週	施設養護におけるソーシャルワークの理論と実際
第 14 週	児童家庭福祉の現状と今後の社会的養護
第 15 週	今後の社会的養護の方向と課題

**《学科教育科目》**

科目名	乳児保育 A				
担当者名	若林 宏子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

児童福祉法、母子保健法などにおいて、乳児は「満一才に満たない者」と定義されているが、ここでは0、1、2歳児の発達と保育について学ぶ。

乳児保育の歴史から現状・課題も含め、保育所・乳児院および子育て支援施設の役割ならびに乳児保育に必要な理論、知識、技術を学ぶ。

**《授業の到達目標》**

- 1、乳児保育の理念と歴史の変遷および役割等について学ぶ。
- 2、保育所、乳児院などにおける乳児保育の現状と課題について理解する。
- 3、3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活とあそびについて理解する。
- 4、乳児保育の計画を作成し、保育内容や方法、環境構成や観察・記録などについて学ぶ。
- 5、乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。

**《テキスト》**

『乳児の保育新時代』（ひとなる書房）

**《参考文献》**

『保育所保育指針』『保育福祉小六法』  
『乳児保育』（保育研究所刊）

**《成績評価の方法》**

課題レポートおよび作品（40%）、総合試験（60%）で評価する。

**《授業時間外学習》**

街での親子の状況を観察すること、および乳児の情報誌より課題を見けるなどこれらの課題をレポートする

**《備考》**

遅刻、欠席、授業態度などの評価の対象とする。  
講義内容を参考にレポート課題あり、提出期限を守ること。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション・乳児の概念、乳児保育の概念
第 2 週	乳児保育の歴史と現状・女性労働と乳児保育の関わり
第 3 週	乳児保育の歴史と現状・女性労働と乳児保育の関わり
第 4 週	乳児保育の歴史と現状・女性労働と乳児保育の関わり
第 5 週	乳児保育の歴史と現状・女性労働と乳児保育の関わり
第 6 週	乳児保育の役割
第 7 週	乳児保育の役割
第 8 週	乳児保育の現状と課題・保育所における乳児保育
第 9 週	乳児保育の現状と課題・保育所における乳児保育
第 10 週	乳児保育の現状と課題・乳児院における乳児保育
第 11 週	乳児保育の現状と課題・乳児保育のこれから
第 12 週	乳児保育の現状と課題・乳児保育のこれから
第 13 週	乳児保育や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
第 14 週	乳児保育や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
第 15 週	乳児保育担当保育者のあり方・まとめ





平成 22 年度  
(2010 年度)  
入学者

23年	日		月		火		水		木		金		土	
	3	入学式	4		5		6		7		8	① I期授業開始	9	
4月	10		11	①	12	①	13	①	14	①	15	②	16	
	17		18	②	19	②	20	②	21	②	22	③	23	
	24		25	③	26	③	27	③	28	③	29	昭和の日	30	
	1		2	④	3	憲法記念日	4	みどりの日	5	こどもの日	6	④	7	
	8		9	⑤	10	④	11	④	12	④	13	⑤	14	
5月	15		16	幼稚園見学観察実習	17	幼稚園見学観察実習	18	幼稚園見学観察実習	19	幼稚園見学観察実習	20	幼稚園見学観察実習	21	幼稚園見学観察実習
	22		23	⑥	24	⑤	25	⑤	26	⑤	27	⑥	28	
	29		30	⑦	31	⑥	1	⑥	2	⑥	3	⑦	4	
	5		6	⑧	7	⑦	8	⑦	9	⑦	10	創立記念日	11	
6月	12		13	⑨	14	⑧	15	⑧	16	⑧	17	⑧	18	オープンキャンパス
	19		20	⑩	21	⑨	22	⑨	23	⑨	24	⑨	25	
	26		27	⑪	28	⑩	29	⑩	30	⑩	1	⑩	2	
	3		4	⑫	5	⑪	6	⑪	7	⑪	8	⑪	9	
	10		11	⑬	12	⑫	13	⑫	14	⑫	15	⑫	16	
7月	17		18	海の日	19	⑬	20	⑬	21	⑬	22	⑬	23	オープンキャンパス
	24		25	⑭	26	⑭	27	⑭	28	⑭	29	⑭	30	予備日
	31		1	⑮	2	⑮	3	⑮	4	⑮	5	⑮	6	オープンキャンパス
	7		8		9		10		11		12		13	
8月	14		15		16		17		18		19		20	
	21		22		23		24		25		26		27	オープンキャンパス
	28		29		30		31		1		2		3	
9月	4		5		6		7		8		9		10	オープンキャンパス
	11		12		13		14		15		16		17	

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

23年	日		月		火		水		木		金		土	
9月	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1
	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8
10月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
11月	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6
	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
12月	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2
	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
23年 1月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
23年 1月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
23年 1月	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5
	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
23年 2月	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2
	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9
23年 3月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

## カリキュラム年次配当表

保育科第三部 平成22年度（2010年度）入学者対象

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当(数字は週当り授業時間)						備考	ページ
			必修	選択			1年		2年		3年			
							I	II	I	II	I	II		
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習		2	◇		2						☆	基礎・教養科目編参照
	英語	演習		2	◆	●	2						☆	
	コンピュータ演習	演習		2	◆		2						☆	
教養科目	宗教と人生	講義	2				2							
	文学	講義		2				②		②		②		
	色彩学	講義		2			2							
	日本国憲法	講義		2	◆					2				
	ジェンダー論	講義		2			②		②		②			
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2	◆	●		②		②		②		
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技		1	◇	●	②		②		②		☆☆	
健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技		1			②		②		②		☆☆		

- (注意) ◆印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必須科目を表す。  
 ◇印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。  
 ●印は、保育士資格取得のための必須科目を表す。  
 ○印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。

※学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

※備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

※備考欄の☆☆は、学則第23条第1項第3号の但書に規定する授業科目を表す。

# カリキュラム年次配当表

保育科第三部 平成22年度（2010年度）入学対象

授 業 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		幼稚園 教諭 二種 免許	保育士 資格	学年配当(数字は週当り授業時間)						備考	ページ	
			必修	選択			1年		2年		3年				
							I	II	I	II	I	II			
学	音楽教育A	演習	1						2					46	
	音楽教育B	演習	1		◆	○				2				47	
	音楽教育C	演習	1			○					2				
	音楽教育D	演習	1			○						2			
	器楽A	演習	1		◆	●	2								
	器楽B	演習	1		◆	○		2							
	造形A	演習	1						2					48～51	
	造形B	演習	1		◆	○				2				52～55	
	幼児体育A	演習	1						2					56	
	幼児体育B	演習	1		◆	○				2				57	
科	算数	講義	2		◇								不開講		
	生活概論	講義	2		◇								不開講		
	小児保健A	講義	2			●	2								
	小児保健B	講義	2			●			2				58		
	小児保健実習	実習	1			●					2				
	小児栄養	演習	2			●				2			☆	59	
	精神保健	講義	2			●					2				
	家族援助論	講義	2			●					2				
	社会福祉	講義	2								2				
	社会福祉援助技術	演習	2			●						2		☆	
教	児童福祉	講義	2			●	2								
	教育原理	講義	2					2						60	
	保育原理ⅠA	講義	2				2								
	保育原理ⅠB	講義	2			●					2				
	保育原理Ⅱ	講義	2			○						2			
	養護原理Ⅰ	講義	2			●	2								
	養護原理Ⅱ	講義	2			○						2			
	教育実習	実習	5		◆					5				61, 62	
	保育実習Ⅰ	実習	5			●		5						63	
	保育実習Ⅱ	実習	2			●						2			
目	保育実習Ⅲ	実習	2										不開講		
	教育心理学	講義	2		◇	●					2				
	発達心理学	講義	2				2								
	児童心理学	講義	2		◆	○				2				64	
	青年心理学	講義	2			○	2								
	臨床心理学	演習	2			○				2			☆	65	
	教育制度論	講義	2		◆						2				
	教師論	講義	2				2					2			
	保育課程総論	講義	2					2							
	保育内容・健康	演習	2		◆	●			2					☆	66, 67
保育内容・人間関係	演習	2		◆	●				2				☆	68	
保育内容・環境	演習	2		◆	●			2					☆	69, 70	
保育内容・言葉	演習	2		◆	●		2						☆		
保育内容・表現Ⅰ	演習	2		◆	●				2				☆	71	
保育内容・表現Ⅱ	演習	2		◆	●			2					☆	72	
保育方法論	講義	2		◆			2								
養護内容	演習	1			●		2								
乳児保育Ⅰ	演習	2			●	2							☆		
乳児保育Ⅱ	演習	2			○						2		☆		
障害児保育	演習	1			●			2						73	
教育相談	講義	2		◆						2					
保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2		◆	●						2		☆		

(注意) ◆印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必修科目を表す。  
 ◇印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。  
 ●印は、保育士資格取得のための必修科目を表す。  
 ○印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。

※備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《学科教育科目》

科目名	音楽教育 A				
担当者名	吉良 武志				
授業方法	演習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

子どもたちと一緒に歌ったり楽器を弾いたりして、音楽の楽しい感動を共有することは、とても大切なことです。保育者にとって必要な音楽に関する基本的な知識の獲得や音楽的技能の養成を目標とします。ML（ミュージック・ラボラトリー）を利用したこどもの歌の弾き歌い練習をはじめ、アンサンブルの学習、ソルフェージュの指導、鑑賞などを通して音楽的資質を高め、さらに、楽譜の演奏にとどまらず、コードネームによる伴奏法や即興演奏能力も身につけることを期待します。また、鍵盤ハーモニカなどの簡易な楽器の奏法にも習熟し、子どもたちと一緒に音楽の楽しさを味わえる保育者を目指してほしいものです。

《授業の到達目標》

- I期の授業では、音楽教育に関する知識、及び実践的な音楽的技能の養成に取り組みます。こどもの発達（特に音楽的能力の発達）に関する知識、及び保育内容「表現」において音楽の担う重要性をまず理解します。
- 子どもたちの前で手遊び歌や指遊び歌をうまく歌え、表現できる。
  - 子どもたちと一緒にピアノを弾きながらうまく歌える。
  - コードネームによって子どもたちの歌に簡単な即興伴奏ができる。
  - 子どもたちと鍵盤ハーモニカなどの簡易な楽器による合奏ができる。また、その指導ができる。
  - 紙芝居やペープサート、人形劇などに音楽を効果的に活用できる。
  - 身近な自然やものの音、人の声などに親しみ、音楽を用いた保育へ導入することができる。
  - 音楽を用いた保育への導入に際して、子どもたちに興味のあるお話ができる。

《テキスト》

授業の中で、適宜指示します。また、必要に応じてプリント教材を配布します。

《参考文献》

授業の中で、適宜紹介します。図書館等で一読されることを望みます。

《成績評価の方法》

グループ発表やピアノの弾き歌い発表の内容（50%）、授業のまとめやレポート等の提出物（30%）、そして、実技を伴った授業内容ですので、出席状況等に見られる学習に取り組む姿勢（20%）で評価します。

《授業時間外学習》

音楽に関わる基本的な技能の上達には、毎日の反復練習と各自の熱意がとても大切です。何よりも音楽を楽しみ、より高い音楽的能力を身につけるよう学習に励むことを期待します。多くのこどもの歌に触れ、弾き歌い曲や得意な曲のレパートリーも増やしましょう。最終週には、グループによる音楽を活用した紙芝居、ペープサートなどの発表をしますので、早い段階から、内容の検討、練習をしておいて下さい。

《備考》

- ・単に知識を得ることにとどまらず、実際に歌い、演奏し、動くことを通して、どのようにして子どもたちと音楽の楽しい感動体験を共有すればいいのか学びましょう。
- ・MLを利用した弾き歌いの練習の際には、演奏技能とともに、表情豊かな表現やソルフェージュ力の向上なども目指しましょう。
- ・学習内容の進捗状況により、授業計画が前後する場合があります。
- ・楽器などの取り扱いには細心の注意を払い、また、清潔にするよう心がけましょう。
- ・毎日の練習がとても大切です。休日にも励んで下さい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	受講に際して、本授業の内容や留意点、準備物などの徹底。グループでの音楽劇等の発表を予告。保育における音楽活動の意義。保育への導入としての手遊び歌（指遊び歌を含む）を紹介、練習する。
第 2 週	手遊び歌の教育的重要性を認識する。ピアノの伴奏練習も含め、いくつかの歌を紹介、指導、練習する。
第 3 週	コードネームによるピアノ伴奏の概説。初歩的なコードネームを理解する。各自の音楽的到達度に合わせた練習。
第 4 週	こどもの音楽的発達と音楽指導法についての理解を深める。保育内容「表現」との関連にも言及。
第 5 週	こどもの楽器遊び。楽器との出会い、手遊び歌から楽器遊びへ。鍵盤ハーモニカの指導（メロディー模奏）。
第 6 週	コードネームによるピアノ伴奏法。ハ長調の2コード（じゃんけん遊び他）、ト長調の2コード（糸まきまき他）。
第 7 週	実習等における部分保育を想定して、手遊び歌の歌唱、動き、ピアノ伴奏を練習し、指導案を考える。
第 8 週	幼児音楽教育の変遷、唱歌遊戯から童謡の誕生を概観する。歌い継がれた多くの文部省唱歌、童謡を取り上げる。
第 9 週	こどもの器楽合奏。さまざまな簡易楽器を使った合奏の練習と指導法を考察する。
第10週	身近な音や人の声を使った「音遊び」の考察。それらを活用した保育の指導案を考える。
第11週	即興的なピアノ伴奏に備え、音楽の基礎を深める。（少し複雑なコードネームなどの理解）
第12週	お話と音楽。音楽活動への導入としてのお話（興味付け）。既存の「音楽人形劇」への導入のお話を創作する。
第13週	鍵盤ハーモニカをはじめ、さまざまな楽器を練習し指導案を考え、その後、模擬保育のロールプレイをする。
第14週	第1週に課したグループによる音楽を活用した紙芝居、ペープサート等の発表内容を仕上げ、その実施計画案を作成。
第15週	各グループによる発表。その後、それぞれ全員でのディスカッション。 総まとめ（小レポートの作成）。

《学科教育科目》

科目名	音楽教育B				
担当者名	大串 和久				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

保育者の現場で求められる望ましい保育者となるためには、活動の結果や技術面ばかりに目を向けるのではなく、子どもが表現しようとする意欲を温かく受け止め、表現する喜びや感動する心を共有し育んでいくことがたいせつです。器楽A、器楽B、音楽教育Aで培ってきた基礎知識や技術能力を再確認し、さらに磨きをかけて応用力を養い、子どもの歌の弾き歌いはじめ、器楽合奏、和太鼓演奏、歌唱曲の作詞作曲を通じて幅広い音楽表現ができるよう進めていきます。

《授業の到達目標》

- コードネームを理解し、記されたコードネームを見ただけで容易に伴奏付けができることによって歌うことにも集中し、より多くの楽曲をのびのびと弾き歌いできる。
- 器楽合奏や和太鼓演奏も自らが楽しんで積極的に参加することができる。
- 自ら創り出す詩や旋律でオリジナルの歌唱曲をつくることできる。

《テキスト》

『3訂版 歌はともだち』（教育芸術社）

その他、必要に応じて用意してもらいます。また、資料等は、その都度配布します。

※器楽A、器楽B、音楽教育Aで使用したテキストは指示があったらすぐ使えるよう準備してください。

《参考文献》

『3訂版 歌はともだち 指導用伴奏集』（教育芸術社）

《成績評価の方法》

1. 毎回、遅刻なく出席すること。欠席が1/3を超えたものは単位を認めない。
2. 真面目な授業態度であること。
3. 受講進度表を不備なく整理して記入すること。
4. 授業中指示する課題提出及び小テストをクリアすること。
5. 上記4＝50%と授業点（上記1～3及び備考1～4）＝50%の総合評価。

《授業時間外学習》

・予習

毎回、次の授業に向けての課題を指示しますから必要に応じて各自で練習してください。

・復習

毎回授業で扱ってきた曲を授業中に復習することにより着実にレパートリーを増やしていきます。授業中だけで復習の時間が不足と感じた時は個々で必要に応じて練習室や自宅等で練習してください。

《備考》

1. 遅刻・早退は20分まで出席扱い（当該日の授業点を減点）とします。やむを得ず20分を超えそうな時は出席扱いとはなりません。が授業内容が毎回つながりをもちますので、そのような時でも必ず出席してください。
2. 身だしなみとエチケット（つめ・髪・服装・靴等の清潔感）を心がけてください。
3. 毎回受講進度表に必要な事項を記入し指導者から必ずサインをもらってください。
4. 講義室の使用上の注意事項を厳守し、授業終了時には次の使用者のために清潔を心がけてください。特に室内は飲食厳禁はもちろんです。携帯電話の使用も厳禁（発覚の際は当該日の授業点を減点）です。
5. 和太鼓演奏の練習用に、ラップの芯2本と小さめの段ボール箱（30cm四方程度）が必要なので夏休み明けまでに各自でストックしておいてください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	『音楽教育B』における授業内容の説明と指導者の紹介。 子どもの歌弾きうたいと歌うことについて(1)
第2週	子どもの歌弾きうたいと歌うことについて(2)
第3週	子どもの歌弾きうたいと歌うことについて(3)
第4週	子どもの歌弾きうたいと合奏について(1)
第5週	子どもの歌弾きうたいと合奏について(2)
第6週	子どもの歌弾きうたいと合奏について(3)
第7週	子どもの歌弾きうたいと即興も含めたリズム等の演奏について(1)
第8週	子どもの歌弾きうたいと即興も含めたリズム等の演奏について(2)
第9週	子どもの歌弾きうたいと即興も含めたリズム等の演奏について(3)
第10週	子どもの歌弾きうたいとオリジナル曲創作について(1)
第11週	子どもの歌弾きうたいとオリジナル曲創作について(2)
第12週	子どもの歌弾きうたいとオリジナル曲創作について(3)
第13週	子どもの歌弾きうたいと総合演習(1)
第14週	子どもの歌弾きうたいと総合演習(2)
第15週	Ⅱ期の総復習



**《学科教育科目》**

科目名	造形A				
担当者名	岩見 健二				
授業方法	演習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	2年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

子どもが絵を描きものを創るという行為は、とりもなおさず[心]を造形するkとであり、成長過程の中で重要な位置を占めている。子どもの[心]を的確に受け止め、生き生きと創作活動に打ち込めるようにするには、まず保育者自身が豊かな感性を持たなければならない。その為にも保育者が創作体験をもっていることが大切な要素になる。楽しく創作体験を重ねることで、材料経験を豊富にし、感性を磨いてほしい。

**《授業の到達目標》**

自らの感性を磨くことにより、子どもの[心]を的確に受け止め、感性豊かな子どもを育てることが出来る。

**《テキスト》**

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

**《参考文献》**

適宜指示する。

**《成績評価の方法》**

- ・授業には、10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
- ・作品評価（100%）

**《授業時間外学習》**

毎回の授業で得られた造形体験を各自発展させ、主体的に多くの作品を創作してほしい。

**《備考》**

特にない

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	クロッキー
第 3 週	鉛筆デッサン
第 4 週	鉛筆デッサン
第 5 週	鉛筆デッサン
第 6 週	水彩画（静物）
第 7 週	水彩画（静物）
第 8 週	水彩画（静物）
第 9 週	色彩指導
第 10 週	色面構成
第 11 週	色面構成
第 12 週	色面構成
第 13 週	色面構成
第 14 週	色面構成
第 15 週	子供の絵の見方

**《学科教育科目》**

科目名	造形A				
担当者名	山下 彰一				
授業方法	演習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	2年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

造形活動を通して創造する楽しさを身につける。

**《授業の到達目標》**

幼児はすばらしい感性を持ち、活動的である。その個々の創造性を伸ばすには、まず保育者が、自ら身近にある事物をよく観察し、そして描き、創る、ことが大切である。そのために多くの創作体験をもつことにより豊かな感性と、創造力を養うべきである。

**《テキスト》**

入学時に提示する。

**《参考文献》**

授業中に適宜紹介する。

**《成績評価の方法》**

- ・授業には、10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
- ・提出作品（100%）の評価とする。

**《授業時間外学習》**

演習科目は、授業時間だけで済むものではない。授業時間外においても作品制作に取り組む姿勢が欲しい。

**《備考》**

- ・作品の提出期限の厳守
- ・スケッチブック（F6）を毎授業時に持参すること。
- ・その他 水彩道具一式、カッターナイフ、色鉛筆、定規、フェキノリ、ハサミを準備すること。次回持参するものを提示する。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	鉛筆デッサン 1
第 3 週	鉛筆デッサン 2
第 4 週	鉛筆デッサン 3
第 5 週	クロッキー
第 6 週	水彩画（静物） 1
第 7 週	水彩画（静物） 2
第 8 週	水彩画（静物） 3
第 9 週	色彩指導
第 10 週	色面構成 1
第 11 週	色面構成 2
第 12 週	色面構成 3
第 13 週	色面構成 4
第 14 週	色面構成 5
第 15 週	色面構成 6

**《学科教育科目》**

科目名	造形A				
担当者名	柳楽 節子				
授業方法	演習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	2年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

造形遊びの楽しさを園児たちに伝えるには、保育者自身が造形の楽しさを知っていることが必要である。この演習授業では、造形の基礎となる描写力、色彩の知識、画面構成力を、課題制作を通して楽しみながら養えるよう、授業を進めていく。眼と手と頭、体全体を使って、受講生が造形の面白さを発見する力を養うことを目標とする。

**《授業の到達目標》**

- \*自然のなかにある造形美への興味と知識を持つ。
- \*色彩、デザイン、絵画、絵本、物語などに関心を持つ。
- \*材料・用具を使いこなし、手順よく作品制作を進めることができる。

**《テキスト》**

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

**《参考文献》**

適宜紹介する。

**《成績評価の方法》**

提出作品 100%で成績評価を行う。  
授業には 10 回以上の出席をもって成績評価の対象とする。

**《授業時間外学習》**

各授業時に、必要な事前準備及び授業後の補足作業について指示を行う。

**《備考》**

事前に連絡された、授業に必要な準備物は必ず持参すること。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	担当教員の自己紹介 授業計画の説明 受講学生の自己紹介作品作成及び提出
第 2 週	描写 植物
第 3 週	描写（着彩） 植物
第 4 週	描写 立方体 スクリーンプリントで展開図を刷る 組み立て
第 5 週	描写 立方体
第 6 週	描写 人物
第 7 週	描写（着彩） 人物
第 8 週	描写（着彩） 人物
第 9 週	色彩の知識 テキスト使用
第 10 週	色彩構成 1 トーナルカラー
第 11 週	色彩構成 2 トーナルカラー
第 12 週	色彩構成 3 コラージュ
第 13 週	色彩構成 4 スクリーンプリント
第 14 週	色彩構成 5 スクリーンプリント
第 15 週	作品提出及びまとめ

《学科教育科目》

科目名	造形A				
担当者名	満田 知美				
授業方法	演習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

保育現場での造形遊び（お絵描き遊び）で生かせる基礎（描写、色彩、色彩構成）や道具の扱い方を学びます。お絵描きあそびは、画用紙や絵具を使い好きなように表現します。材料や道具に十分に馴れることで子供たちは、自然に想像や空想をひろげ、それを絵や工作に表したくなってしまいます。世界でたった一つのを、自分の力だけでつくる。言葉でいいあわせない気持ちを、存分に出すことができます。まずは、小さな思いをコンセプトに、小さな作品から制作します。子供の五感や想像力を育む素材やアイデアを提案します。

《授業の到達目標》

- 鉛筆を使いこなし自由に表現できるようになる。
- 色と形を楽しみ、大胆さや繊細など幅広く表現できるようになる。
- 素材や道具の特徴や特性を学び使いこなす。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎時間ごとにシラバスと参考資料を配布します。

《参考文献》

お絵描きあそび アトリエ・リュミエール 鈴木あきこ（主婦の友）

《成績評価の方法》

- ・授業出席（10回以上の出席をもって成績評価の対象とする）20％・全課題作品の提出50％・試験30％

《授業時間外学習》

- ・予習の方法／毎回、使用する素材や材料、道具を日頃から研究、収集する。
- ・復習の方法／授業内容を再確認し、不明な点は質問したり自分で調べたりしてください。

《備考》

遅刻について／授業のはじめに出席をとります。その後、毎時間ごとのシラバスと参考資料の説明に入ります。上記の説明を聞き損ねた場合は遅刻扱いとします。

持物について／筆記用具、スケッチブック、色鉛筆、クレパス、水彩道具一式（絵具 筆 筆洗 パレット 台拭き）油性ペン水性ペン（各色）、ハサミ、カッター、フェキのり、スタンプ台 ※詳しくは、オリエンテーション時に説明します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション アンケート（造形あそびをする上での不安事項） 鉛筆基礎①ドリル（鉛筆の持ち方）
第 2 週	鉛筆基礎② ドリル（線の練習、消しゴム）
第 3 週	鉛筆基礎③ ドリル（立体感 マチエール、線画）
第 4 週	鉛筆基礎④ ドリル（グラデーション、遠近の仕組み、輪郭線）
第 5 週	色と形を楽しもう① こすりだし&まる、さんかく、しかくでお絵描き（エリックカール技法、エンバリーおじさん技法）
第 6 週	色と形を楽しもう② 3原色でリアルな野菜を描こう
第 7 週	色と形を楽しもう③ 村のチェロ弾き★コーヒーの香りー子供の物語性を引き出す想像の世界ー
第 8 週	スタンプ遊び① 指紋スタンプで描いてみよう
第 9 週	スタンプ遊び② キャラクター制作（時間があればストラップ制作）
第 10 週	スタンプ遊び③ 共同制作とストーリー展開（班毎）
第 11 週	きってやぶいてよーくみて① いちごがいっぱい！何にみえるかな！
第 12 週	きってやぶいてよーくみて② 巨大クッキングー焼そば
第 13 週	重ねてコラージュ① 水きりえー水でぬらした小筆で色刷り新聞紙を切って貼る。
第 14 週	重ねてコラージュ② 紙ビーズのアクセサリ
第 15 週	授業計画を作ろう

**《学科教育科目》**

科目名	造形B				
担当者名	岩見 健二				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

とらわれない心を持つ幼児の表現を理解するには、自らも豊かな感性を磨かなければならない。身近な材料を駆使し、既成概念にとらわれない斬新な作品を制作してほしい。

**《授業の到達目標》**

自らの感性を磨くことにより、子供の[心]を的確に受け止め、感性豊かな子どもを育てることが出来る。

**《テキスト》**

無し。

**《参考文献》**

適宜紹介。

**《成績評価の方法》**

- ・授業には、10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
- ・作品評価（100%）

**《授業時間外学習》**

毎回の授業で得られた造形体験を各自発展させ、主体的に多くの作品を創作してほしい。

**《備考》**

特に無し。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	ポスター制作
第 3 週	色面構成
第 4 週	色面構成
第 5 週	色面構成
第 6 週	モビール制作
第 7 週	モビール制作
第 8 週	モビール制作
第 9 週	モビール制作
第 10 週	モビール制作
第 11 週	飛びだす絵本制作
第 12 週	飛びだす絵本制作
第 13 週	飛びだす絵本制作
第 14 週	飛びだす絵本制作
第 15 週	講評・採点

**《学科教育科目》**

科目名	造形B				
担当者名	山下 彰一				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

作品制作を通じて造形の楽しさを伝えることができる力を養う。

**《授業の到達目標》**

アイデアの出しかたと共に、多様な素材を扱う技術をトレーニングする。折にふれてアートの分野の作品紹介も行う。

**《テキスト》**

入学時に提示する。

**《参考文献》**

授業中に紹介する。

**《成績評価の方法》**

授業には10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。  
提出作品（100％）の評価とする。

**《授業時間外学習》**

演習科目は授業時間だけで済むものではない。授業時間外においても作品制作にとり組む姿勢が欲しい。

**《備考》**

時間厳守。用具の準備は怠らない事。  
スケッチブック（F6）を毎授業時に持参すること。  
その他 水彩道具一式、カッターナイフ、色鉛筆、定規、フェキノリ、ハサミを準備すること。次回持参するものを提示する。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	作品制作（切り絵）
第 3 週	作品制作（切り絵）
第 4 週	作品制作（紙ヒコーキ）
第 5 週	作品制作（紙ヒコーキ）
第 6 週	作品制作（モザイク画）
第 7 週	作品制作（モザイク画）
第 8 週	作品制作（パズル）
第 9 週	作品制作（パズル）
第 10 週	作品制作（絵本）
第 11 週	作品制作（絵本）
第 12 週	作品制作（バルーン）
第 13 週	作品制作（バルーン）
第 14 週	作品制作（バルーン）
第 15 週	合評

《学科教育科目》

科目名	造形B				
担当者名	柳楽 節子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

この授業では、造形の基礎から応用へと発展する内容の課題作品を制作させることにより、受講生が保育現場に必要とされる柔軟な発想力と造形力を養うことを目標としている。多様な素材と技法に触れ、考え、試みることが造形に対する自信に繋がっていく授業をめざしたい。

《授業の到達目標》

- \*自然や日常生活のなかに、造形のヒントを探し出す眼を持つ。
- \*作品制作に必要な画材、道具類を自在に使うことができる。

《テキスト》

なし

《参考文献》

適宜紹介する。

《成績評価の方法》

授業には10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。  
提出作品100%による成績評価を行う。

《授業時間外学習》

各授業時に、必要な事前準備及び授業後の補足作業について指示をおこなう。

《備考》

事前に連絡された、授業に必要な準備物は必ず持参すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	担当教員作品紹介及び授業計画の説明 受講生による「私の夏休み」作品制作と提出
第2週	課題1 スクリーンプリントでTシャツをつくる ①プラン作成 説明プリント配布
第3週	課題1 スクリーンプリントでTシャツをつくる ②ポジフィルム作成及び製版
第4週	課題1 スクリーンプリントでTシャツをつくる ③ポジフィルム作成及び製版 刷り
第5週	課題1 スクリーンプリントでTシャツをつくる ④刷り ポジフィルム作成及び製版
第6週	課題1 スクリーンプリントでTシャツをつくる ⑤刷り 完成 作品提出 割りピン人形制作の説明プリント配布
第7週	課題2 割りピン人形を作る① ラフスケッチ作成及び提出
第8週	課題2 割りピン人形を作る②
第9週	課題2 割りピン人形を作る③
第10週	課題2 割りピン人形を作る④ 作品提出
第11週	課題3 季節行事の掲示板を作る ① 説明プリント配布
第12週	課題3 季節行事の掲示板を作る ②
第13週	課題3 季節行事の掲示板を作る ③
第14週	課題3 季節行事の掲示板を作る ④
第15週	作品提出及びまとめ

《学科教育科目》

科目名	造形B				
担当者名	満田 知美				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

造形遊びをする時、人間は生活していくために必要な行動が自然に組み込まれています。穴を開ける、縫う、編む、織る、切る、貼る、並べる、繋ぐ、組み立てる、こねる、包む、描く。子供は上記の事を遊びを通して行います。このような活動の繰り返しの中で『形のなりたち』を体験することができます。園で開催される行事や展示立体作品を中心に、イベント企画を提案します。

《授業の到達目標》

- オリジナルの紙を作る（集める、並べる）
- 粘土で記念品を作る（組み合わせる、重ねる）
- ダンボール、布、缶で壁面や展示品を作る（組み換える、生かす）

《テキスト》

テキストは使用しない。毎時間ごとにシラバスと参考資料を配布します。

《参考文献》

イタリア/レッチョ・エミリア市の幼児教育実践録 子どもたちの100の言葉（学研）

《成績評価の方法》

- ・授業出席（10回以上の出席をもって成績評価の対象とする）20％・全課題作品の提出50％・試験30％

《授業時間外学習》

- ・予習の方法/毎回、使用する素材や材料、道具を日頃から研究、収集する。
- ・復習の方法/授業内容を再確認し、不明な点は質問したり自分で調べたりしてください。

《備考》

遅刻について/授業のはじめに出席をとります。その後、毎時間ごとのシラバスと参考資料の説明に入ります。上記の説明を聞き損ねた場合は遅刻扱いとします。

持物について/筆記用具、スケッチブック、色鉛筆、クレパス、水彩道具一式（絵具 筆 筆洗 パレット 台拭き）油性ペン水性ペン（各色）、ハサミ、カッター、フエキのり、スタンプ台 ※詳しくは、オリエンテーション時に説明します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション 課題、材料、道具の説明。アンケート
第 2 週	造形遊び① 集める、並べる 1 エリックカールの技法。紙の引き出し制作
第 3 週	エリックカールの技法。模写作品
第 4 週	集める、並べる 2 粘土でミニチュアクッキング。food 作り
第 5 週	粘土でミニチュアクッキング。盛りつけ、時間があればストラップ制作
第 6 週	集める、並べる 3 ガチャボンの風鈴
第 7 週	造形遊び② 組み合わせる、重ねる 1 立体ワンコ。型紙切断、組み立て。
第 8 週	立体ワンコ。組み立て、張り作業
第 9 週	立体ワンコ。張り作業、ジェッソ塗り、下図犬制作
第 10 週	立体ワンコ。ジェッソ塗り、下図犬制作、本塗り
第 11 週	立体ワンコ。本塗り
第 12 週	造形遊び③ 組み換える、生かす 1 カンカン宝箱
第 13 週	組み換える、生かす 2 お昼ねテント&ふりふりフラッグ
第 14 週	造形遊び④ 全作品完成チェック後、学内にてピクニックを開催
第 15 週	年内行事『ピクニック』『遠足』『散歩』企画案を作ろう。



**《学科教育科目》**

科目名	幼児体育 A				
担当者名	井上 靖				
授業方法	演習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	2年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

発達刺激としての運動遊びの実際とその分析を通して幼児の発達課題について考える。

**《授業の到達目標》**

幼児の発達課題を理解し運動プログラムを創造できるようになる。

**《テキスト》**

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

**《参考文献》**

「幼児と遊び～理論と実際～」秋葉秀則 労働旬報社  
「図説遊びの事典」－幼児編－ 村山貞雄 明治図書  
「遊びを育てる」野村寿子 共同医書出版社  
「みんなの保育大学シリーズ」全13巻 井尻昭二、香原志勢、近藤四朗、久保田競、三木成夫、大島清、落合靖一、高橋良、湖崎克、武藤芳照、岡本彰裕

**《成績評価の方法》**

- ・欠席回数が5回を越えると評価の対象外とする。
- ・テスト50%、取り組む姿勢50%

**《授業時間外学習》**

- ・参考文献を読んで幼児の立場で運動を捉えるように努めること。

**《備考》**

- ・服装は運動に適したものとする。
- ・理解度に応じて内容を変更することがある。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	幼児教育における幼児体育の課題
第 2 週	集団で仲良く遊ぶことを課題とした運動遊び
第 3 週	集団で仲良く遊ぶことを課題とした運動遊び
第 4 週	よい動きとは
第 5 週	位置感覚（逆さ）を課題とした運動（鉄棒）
第 6 週	位置感覚（回転）を課題とした運動（鉄棒）
第 7 週	位置感覚（回転）を課題とした運動（鉄棒）
第 8 週	位置感覚（空中）を課題とした運動（跳び箱）
第 9 週	位置感覚（空中）を課題とした運動（跳び箱）
第 10 週	位置感覚（空中）を課題とした運動（跳び箱）
第 11 週	位置感覚（回転、逆さ）を課題とした運動（マット）
第 12 週	位置感覚（回転、逆さ）を課題とした運動（マット）
第 13 週	テスト（実技）
第 14 週	人体の構造～子どもの発育発達と幼児期の特徴
第 15 週	学習のまとめとテスト

**《学科教育科目》**

科目名	幼児体育B				
担当者名	井上 靖				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

発達刺激としての運動遊びの実際とその分析を通して幼児体育の課題について考える。

**《授業の到達目標》**

幼児期の発育・発達について理解を深め各種の運動場面で幼児の立場に立ったイメージが描けるようになる。

**《テキスト》**

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

**《参考文献》**

I期と同様

**《成績評価の方法》**

- ・欠席回数が5回を越えると評価の対象外となる。
- ・テスト50%、取り組む姿勢5%

**《授業時間外学習》**

- ・参考文献を読んでおくこと。

**《備考》**

- ・理解度により内容を変更することがある。
- ・服装は運動に適したものとする。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第1週	よい動きを課題とした運動（移動運動）～各種ステップ～
第2週	よい動きを課題とした運動（移動運動）～各種ステップ～
第3週	よい動きを課題とした運動（移動運動）～各種ステップ～
第4週	よい動きを課題とした運動（操作運動）～ボール～
第5週	よい動きを課題とした運動（操作運動）～ボール～
第6週	よい動きを課題とした運動（操作運動）～ボール～
第7週	よい動きを課題とした運動（操作運動）～なわ～
第8週	よい動きを課題とした運動（操作運動）～なわ～
第9週	よい動きを課題とした運動（操作運動）～なわ～
第10週	よい動きを課題とした運動（操作運動）～なわ～
第11週	よい動きを課題とした運動（スピーディーな運動）～ボールゲーム～
第12週	よい動きを課題とした運動（スピーディーな運動）～ボールゲーム～
第13週	よい動きを課題とした運動（スピーディーな運動）～ボールゲーム～
第14週	テスト
第15週	まとめ（発達と運動構造）

《学科教育科目》

科目名	小児保健B				
担当者名	西村 美穂代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

小児保健Aで学習した乳幼児の発育・発達の特徴を想起しながら、乳幼児に起こりやすい疾患・症状・事故についての理解を深めるとともに、保育者として子どもの異変時に的確な判断が行え、対応できる力を身につける学習。

《授業の到達目標》

乳幼児特有の疾患・症状の理解ができ、その予防と対応方法、事故に対する安全対策・事故時の対応が行え、子どもの生命を守ることができるように知識の獲得ができる。

《テキスト》

新改訂版「わかりやすい小児保健」 第二版 西村昂三 編著 同文書院

《参考文献》

その都度、提示する。

《成績評価の方法》

VTR 視聴 (学習) のレポート提出 (20%)、期末テスト (50%)、中間テスト(30%)  
 「授業欠課回数が授業実施回数 (15 回) の 3 分の 1 以上欠課した学生は単位を与えない」  
 但し、正当な欠課理由がある場合には、その証明となるものを提出すること。

《授業時間外学習》

テレビ番組の小児保健と関連する番組を視聴します。  
 テレビの特性である動画・声・音から、目・耳を通して、子どもが病気になった時の状態を知り、その対応方法を学び、授業時にその病気と対応方法が想起できるようにしておいてください。  
 番組は次の番組を予定します。  
 ○NHK 教育テレビ「すくすく子育て」(毎週土曜日・21:00~21:29)  
 ※番組内容(テーマ)は、毎週異なります。

《備考》

ニュースや新聞での「子どもの健康」「子どもの事故」に関する記事を講義に取り入れることもありますので、注目しておいてください。  
 通園(保育園・幼稚園)している健康な子どもたちに「命の大切さ」を教えてほしいと願う思いから、疾患についての授業では「難病にかかり死にゆく子ども」のVTRを視聴します。  
 子どもを育てる職業を目指す皆さんであり、授業では人の話を聴く・聴講時のマナーを守る、という態度を示してください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	開講にあたり担当者と学生との共通理解事項 小児保健Bの学習目的・展開方法 小児保健Aの大まかな復習・確認
第 2 週	子どもに起こる主な症状と観察、その対応方法 (VTR 視聴予定)
第 3 週	子どもによくみられる先天性の病気とそのかかり方 (VTR 視聴)
第 4 週	子どもによくみられるウイルスによる感染症 乳幼児によくみられるウイルスによる食中毒とその予防
第 5 週	子どもによくみられる細菌による感染症とその他の感染症 乳幼児によくみられる細菌による食中毒とその予防
第 6 週	子どもによくみられる呼吸器の病気
第 7 週	子どもによくみられる消化器・循環器の病気
第 8 週	子どもによくみられる主な血液の病気と小児がん
第 9 週	第 8 週で学習した血液の病気(白血病)に罹患した子どもの VTR 視聴
第 10 週	子どもによくみられる腎臓・泌尿器・代謝の病気 (VTR 視聴予定)
第 11 週	子どもによくみられるアレルギー・皮膚・眼・鼻の病気
第 12 週	子どもによくみられるストレスから起こる病気とそのかかり方
第 13 週	発達段階における事故と安全管理
第 14 週	子どもの事故による救急処置:熱中症・骨折・やけど・出血・異物(消化管異物・気管内異物)
第 15 週	まとめ・期末テスト

**《学科教育科目》**

科目名	小児栄養				
担当者名	大西 光子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

小児期の食生活は、子どもの身体の健康や心の健康に重要な役割を果たしている。小児期に食生活の基礎をきちんと築き、将来の健康につながる正しい食習慣や、望ましい食習慣を身につけることが大切である。子どもの健やかな成長には、栄養と食生活が重要であることを理解し、

- ①体に必要な栄養素の働きを知り、
- ②自分自身が望ましい食生活が実践でき、
- ③子どもの発達段階に適した栄養と食生活に関する知識を習得し、正しい食指導ができる能力を身につける。

**《授業の到達目標》**

- ・栄養に関する基本的知識を習得する。
- ・子どもの身体の特徴を理解し、子どもの成長発達に適した望ましい食生活が指導出来るよう理解を深める。

**《テキスト》**

最新小児栄養 第5版 編集 飯塚美知子・桜井幸子 学建書院

**《参考文献》****《成績評価の方法》**

筆記試験 (70%) レポート (30%)

**《授業時間外学習》**

- ・次回の授業に向けて教科書をよく読んでおいてください。
- ・授業で学んだことを振り返り、授業内容を再確認してください。

**《備考》****《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	小児の健康な生活と食生活の意義
第 2 週	小児の発育・発達—精神・運動機能、そしやく機能、消化吸収機能の発達
第 3 週	栄養に関する基本的知識—炭水化物・脂質・たんぱく質の栄養
第 4 週	栄養に関する基本的知識—無機質・ビタミンの栄養
第 5 週	栄養に関する基本的知識—食物の消化・栄養素の吸収と代謝
第 6 週	栄養に関する基本的知識—食事摂取基準・消費エネルギーの計算
第 7 週	栄養に関する基本的知識—献立のたて方・調理、献立作成
第 8 週	妊娠・授乳期の食生活
第 9 週	乳児期の食生活—母乳栄養
第 10 週	乳児期の食生活—人工栄養・混合栄養・離乳食の進め方
第 11 週	幼児期の食生活—実習 調乳
第 12 週	幼児期の食生活—食事バランスガイド
第 13 週	学童期・思春期の食生活 小児期の疾病と食生活
第 14 週	障がいがある小児の食生活 児童福祉施設における食生活
第 15 週	まとめ

**《学科教育科目》**

科目名	教育原理				
担当者名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

人間が成長発達する過程には、必ず「教育」の営みが介在していると言える。この、「教育」という人間の営みについて、できるだけ多角的な視点から理解を深めることができるようにする。具体的なテーマとして、まず、人間にはなぜ教育という営みがあるのか、つまり、人間にとっての教育の必要性と役割そして教育の目的と意義について、教育に関連する他の領域の知見も参考にしつつ、学際的な観点から洞察を深め理解できるようにしたい。またそれとともに、これまでどのような考えや方法原理によって教育活動が行われてきたのかという教育の歴史を学ぶことで、現在とこれからの教育の課題についても考察できるように努める。

**《授業の到達目標》**

- ・教育の意義、必要性、役割、目的について、学際的・理論的な観点から理解できるようにする。
- ・学習の形態や方法原理を知る。
- ・教育の歴史および理念について、体系的に把握できるようにする。
- ・現代教育の問題と課題について洞察を深めることができるようにする。
- ・人間形成の基礎を築く時期にある幼児教育の役割や意義について、とくに理解が深まるようにする。

**《テキスト》**

適宜資料を配布する。

**《参考文献》**

そのつど紹介する。

**《成績評価の方法》**

平常のレポートその他の提出物(30%)、学期末のテスト(70%)で評価する。

**《授業時間外学習》**

- ・配布資料等を熟読し、学習内容の定着を図る。
- ・授業内で紹介された参考図書や資料を読み、問題の背景や応用的な内容が理解できるようにする。
- ・現代の教育問題についてメディア等を通して情報資料を収集し、自分なりの意見をまとめることができるようにする。
- ・出された課題に取り組み、期日に提出するようにする。

**《備考》**

- ・授業の進行に関して、変更が生じる場合がある。
- ・授業中の私語や携帯の使用を厳禁とする。
- ・レポート提出の際は、ホッチキス止めをする。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	教育の必要性と適時性 乳幼児期の特性と教育の役割、意義に関する認知論的アプローチ
第 2 週	教育の必要性の根拠 教育人間学、生物学的人間学的アプローチ
第 3 週	教育の目的 哲学的人間学からみた教育の目的および教育法規、教育要領に定められた教育の目的
第 4 週	西欧における教育の理念と実践の歴史
第 5 週	古代から中世までの教育理念と実践の歴史
第 6 週	中世の教育理念と実践の歴史
第 7 週	近代の教育理念と実践の歴史
第 8 週	教育方法の基本原則と学習形態の歴史(1)
第 9 週	教育方法の基本原則と学習形態の歴史(2)
第 10 週	日本における教育の理念と実践の歴史
第 11 週	明治以前の教育観と教育施設
第 12 週	明治期の教育観と学習形態
第 13 週	大正から昭和初期の教育観と学習形態
第 14 週	現代の教育課題
第 15 週	まとめ・学期末テスト

《学科教育科目》

科目名	教育実習				
担当者名	三井 圭子・青木 好代				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	2年・I期分

《授業のねらい及び概要》

幼稚園教育実習の見学観察実習に必要な知識や実践技能を身に付けるとともに、子どもの活動の姿のとらえ方、保育者の子どもへのかかわりの姿から、幼稚園教育を学ぶ。

《授業の到達目標》

見学観察の教育実習に、自分としての目標やねらいを明確にしながら、幼児教育の意義を学ぶ。子どもの活動する姿から、子どもの成長発達を理解し、保育者の子どもへのかかわり方や保育技術を学び、保育者としての資質を高める努力をする。

事前指導においては、記録の取り方を学び、学びたい視点を明確にする。事後指導においては、実習で学んだことを振り返り保育者としての課題を持ち、参加指導実習への学びとし、知識、技能を積み上げていく。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』

『実習の手引き』

『実習日誌の書き方』 (萌文書林)

《参考文献》

『実習に行くまえに知っておきたい保育の実技』 萌文書林

授業中に適宜紹介：プリント配布

《成績評価の方法》

授業中に課す提出物 ・発表内容 (10%) 授業中の態度 (20%) 実習園の評価 (70%)

最終的な評価になる

《授業時間外学習》

授業中の課題、演習問題を次回に提出する場合は準備しておくこと。

身の回りの物、事が保育に生かれます。四季を感じましょう。いつも子どもの前で保育をするという意識を持ちましょう。

《備考》

実習を受けるための資格条件を理解し、遵守する。

授業は全出席とします。欠席、遅刻、早退をしない。やむをえず欠席、遅刻をした場合、保育研究室に連絡する。後日担当者の指示に従ってください。

授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁します。他に授業中の妨害となることは厳重に対処します。

教材研究をするので、ハサミ、のり、セロテープ、ホッチキス等常に携帯しておく。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	見学観察実習の事務手続き・オリエンテーションについて 実習に日誌の書き方について 実習で学びたいことを明確にし、観察ポイントを考える
第 2 週	オリエンテーションの確認と報告 実習日誌の書き方について 実習の心得、実習園の環境の記入・一日の生活の流れ (VTR 視聴)
第 3 週	実習日誌の書き方について 見学観察の記録の取り方・子どもの活動の姿をどのようにとらえるか、姿、ことばからの心の読み取りについて
第 4 週	実習日誌の書き方について 環境構成、幼児の活動、教師の援助、場面観察、学んだと事、気づいたこと
第 5 週	直前の指導 実習中の心構え、諸注意、配布物、持参する物の確認
第 6 週	見学観察実習の反省と課題 自己評価をする お礼状を書く
第 7 週	参加指導実習について 幼稚園教育課程・指導計画について (3歳児)
第 8 週	幼稚園教育課程・指導計画について (4歳児)
第 9 週	幼稚園教育課程・指導計画について (5歳児)
第10週	指導計画の作成と実際 子どもの活動・環境構成のあり方
第11週	指導計画の作成と実際 保育者の援助
第12週	相互学習及び模擬保育
第13週	相互学習及び模擬保育
第14週	相互学習及び模擬保育
第15週	参加指導実習について心構え 部分保育、研究保育について

《学科教育科目》

科目名	教育実習				
担当者名	三井 圭子・青木 好代				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》

教育実習に必要な知識、実践技能を身につけ、参加指導実習に臨む。実習生として謙虚に幼稚園教育に参加し、自ら保育の計画をて、部分保育や研究保育に臨み、保育の実践力をつける

《授業の到達目標》

事前指導で学んだことを、意欲的に保育に参加し、子どもとのかかわりから幼児理解を確かなものにし、保育者の姿から、保育者のあるべき姿を学び、自分の課題を明確にする。より良い実践的な、知識、技能を身につけていく。

《テキスト》

- 『幼稚園教育要領解説』
- 『実習の手引き』
- 『実習日誌の書き方』

《参考文献》

『保育の実技』『保育とカリキュラム』『年齢別クラス運営』  
授業中に適宜紹介します  
プリントを配布

《成績評価の方法》

授業中に課する提出物・発表（10%）・授業中の態度(20%) 実習園の評価(70%) 最終的に評価します

《授業時間外学習》

指導計画案等授業中に課し他資料の提出の準備をしておく。  
見る、聴く、感じる、味わう、色々な感覚を磨きましょう。いつも子どもの前で保育をする意識を持ちましょう。

《備考》

教育実習の資格条件を理解し、遵守する。授業は全出席とします。やむをえず欠席、遅刻、早退をする場合は保育研究室に連絡をする。また担当者の指示を受ける。授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁します。提出物の期限は守ること(期日を過ぎると受けとらないこともある)。シラバスの変更もあります。  
教材研究をするため、ハサミ、のり、セロテープ、ホッチキス等常に携帯しておきましょう。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	保育実習
第 2 週	保育実習
第 3 週	保育実習
第 4 週	保育実習
第 5 週	保育実習
第 6 週	保育実習
第 7 週	保育実習
第 8 週	保育実習
第 9 週	保育実習
第 10 週	保育実習
第 11 週	幼稚園参加指導実習事前指導 部分保育の指導計画作成 ・実習生のかかわりについて
第 12 週	幼稚園参加指導実習事前指導 部分保育の指導計画作成 ・幼児の姿ととらえ方 (VTR 視聴)
第 13 週	幼稚園参加指導事前指導 部分指導の指導計画作成 ・ねらい・教師の援助について
第 14 週	幼稚園参加指導事前指導 部分指導の指導計画作成・環境構成について 相互学習、模擬保育
第 15 週	相互学習 模擬保育 保育の進め方の課題について

## 《学科教育科目》

科目名	保育実習 I				
担当者名	杉山 貴要江・臼井 なつみ・三浦 かおり				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	2年・通年

## 《授業のねらい及び概要》

事前学習では、実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確にし、実習計画書を作成する。実習中には、実習指導担当者の指導のもとに、実習計画書に従って課題を達成する。事後学習では、実習体験を振り返り、実習報告書を作成するとともに新たな学習目標を明確にする。

## 《授業の到達目標》

居住型児童福祉施設等の生活に参加し、利用者の理解を深めるとともに、施設の機能と保育士の職務について学ぶ。

## 《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』内山元夫他編（みらい）

## 《参考文献》

『最新保育資料集 2010』（ミネルヴァ書房）

## 《成績評価の方法》

実習施設の評価（60%）、事前学習：実習計画書の作成等（20%）、事後学習：実習報告書の提出等（20%）

## 《授業時間外学習》

実習施設の種別ごとに課題を出します。それによって学習して授業には出席してください。

## 《備考》

全出席を原則とします。やむを得ず欠席をする場合は、事前に保育研究室に連絡をしてください。

## 《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	教育実習事前指導
第 2 週	教育実習事前指導
第 3 週	保育士資格における保育実習 I（施設）の位置づけの説明 評価の基準説明、実習施設の決定、個人票記入（下書き）、実習ノートの配布等
第 4 週	施設でのオリエンテーションの説明 施設への連絡方法及びオリエンテーションの意義と諸注意 オリエンテーション報告書の提出について、実習施設・班ごとの連絡網作成と班長の決定、個人票記入（清書）等
第 5 週	養護系／障がい児者系の施設に分かれての学習 - 1 実習施設についての学習、実習計画書作成のための学習
第 6 週	養護系／障がい児者系の施設に分かれての学習 - 2 実習施設についての学習、実習計画書作成のための学習
第 7 週	養護系／障がい児者系の施設に分かれての学習 - 3 実習施設についての学習、実習計画書作成のための学習、実習記録の意義・方法の理解
第 8 週	養護系／障がい児者系の施設に分かれての学習 - 4 実習計画書作成（1） 巡回指導教員の掲示と挨拶、
第 9 週	養護系／障がい児者系の施設に分かれての学習 - 5 実習計画書作成（2）完成と提出方法（施設・保育研究室・学生控え） 巡回教員への挨拶の確認
第 10 週	実習の心構えと報告書について 細菌検査容器配布、健康診断書の提出、実習事前、実習中の感染性の病気について（インフルエンザ予防注射等）、 後輩のためのアンケート用紙配布、実習施設持参書類の配布 報告書の書き方と提出方法、礼状について
第 11 週	本実習
第 12 週	本実習
第 13 週	実習後反省会 礼状についての確認
第 14 週	教育実習事前指導
第 15 週	教育実習事前指導



**《学科教育科目》**

科目名	児童心理学				
担当者名	松田 信樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

保育士あるいは幼稚園教諭が接する年齢段階にある子どもたちが、環境との関わりの中で、どのように成長していくのかを学ぶ。子どもの成長の過程を、人間関係や言葉、認知など様々な角度から描き出していきます。

**《授業の到達目標》**

- 子どもの発達について様々な視点から捉えられるようになること。
- 子どもの発達にとって人を中心とした環境との関わりが、なぜ大切かを説明できるようになること。

**《テキスト》**

テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。

**《参考文献》**

参考文献として取り上げた文献などを読むことで、授業中に取り上げたテーマについて理解を深めること。

**《成績評価の方法》**

授業目標の到達度評価（テスト）100%。

**《授業時間外学習》**

参考文献として取り上げた文献などを読むことで、授業中に取り上げたテーマについて理解を深めること。

**《備考》**

保育士や幼稚園の先生をこころざす学生のみなさんにとって、役に立つ授業を目指します。授業にまじめに取り組める学生の受講を希望します。ただ授業に出席するだけ、プリントをもらうだけでは、単位取得は困難です。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	イントロダクション:子どもの心理学を学ぶ意義
第 2 週	子ども時代の発達の特徴
第 3 週	親と子を結ぶ絆:愛着の発達
第 4 週	愛着の発達とコミュニケーション
第 5 週	ことばとコミュニケーションの発達
第 6 週	自分を取り巻く世界を知るはたらき:認知発達その1
第 7 週	自分を取り巻く世界を知るはたらき:認知発達その2
第 8 週	子どもの知的発達:ピアジェの理論をめぐって
第 9 週	子どもの発達と遊び
第10週	発達の「つまずき」を正しく理解する その1
第11週	発達の「つまずき」を正しく理解する その2
第12週	他者のこころの理解と思いやりの発達
第13週	自己と情動の発達
第14週	子ども時代の発達をふりかえる
第15週	まとめ:授業目標の到達度評価(テスト)

**《学科教育科目》**

科目名	臨床心理学				
担当者名	琴浦 志津				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

臨床心理学とは、こころの治療に関する心理学である。フロイトは、大人の患者との精神分析的治療の中で、人のこころの発達における幼児期の体験の重要性を発見した。フロイト以降の研究者は、フロイトの理論を基礎にしながら、より年少の乳幼児と母親との関係性に焦点をあて、対象関係論をうちたてていった。この授業では、このようなこころの治療研究の歴史をたどりながら、ひとのこころの発達理論について学び、人と人が関わることで育まれる関係性について理解することを目的とする。また、対人関係中の問題を呈する人々への理解と、自分自身への理解を深めるためにも役立ててほしい。

**《授業の到達目標》**

人の不安の源泉はどこにあるのかを知る。

人のこころの成長・発達において重要なことは何かを知り、乳幼児期の子どもをこころを理解するのに役立てる。

**《テキスト》**

「保育・教育に生きる 臨床心理学」松島恭子監修・篠田美紀編著

**《参考文献》**

「スクールカウンセラーがすすめる 112 冊の本」滝口俊子・田中慶江編

**《成績評価の方法》**

授業への取組み 30% 授業内容の理解 45% 授業内に作成するレポート 25%

**《授業時間外学習》**

授業を受ける前に、テキストの内容をよく読んで、自分なりに理解しておくこと。

**《備考》**

第5回、第10回、第15回では、それまでの授業内容のまとめ又はレポートの作成を行うので、毎回の授業のポイントをノートに整理しておくことが必要である。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	臨床心理学とは何か
第 2 週	フロイトの発見
第 3 週	フロイトの精神分析①
第 4 週	フロイトの精神分析②
第 5 週	第 4 回までのまとめ
第 6 週	乳幼児期のこころの世界の研究①
第 7 週	乳幼児期のこころの世界の研究②
第 8 週	乳幼児期のこころの世界の研究③
第 9 週	描画療法・遊戯療法
第 10 週	第 9 回までのまとめ
第 11 週	ユングの臨床心理学
第 12 週	箱庭療法
第 13 週	来談者中心療法
第 14 週	フォーカシング
第 15 週	臨床心理学の理解について

## 《学科教育科目》

科目名	保育内容・健康				
担当者名	鈴木 富美子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

### 《授業のねらい及び概要》

- 1、乳幼児期は人間の生涯にわたって必要となる健康な心と体の基礎を培う最も大切な時期であり、誕生から成人までの発達過程をたどりながら「健康な心身」の概念を形成し、その重要性を学習する。
- 2、保育内容、領域「健康」の視点から乳幼児期の健康的な発達と園生活との関連を学び、遊びや生活の援助方法を習得する。
- 3、不適切な関わりや安全への配慮不足からおきる健康阻害の事例（様々な事故・怪我・疾病など）から「命」を守り、育てる為の適切な保育のあり方を学ぶ。

### 《授業の到達目標》

- ・ 「健康」の概念を身につけ、乳幼児の心身の健康の重要性について説明できる。
- ・ 保育内容「健康」の目的と内容(命を守り、育て、自ら健康な体を作り出す力を養う)を理解し、生活習慣の自立や遊びと健康との関係について説明し、また実践することができる。
- ・ 事例などをとおし、配慮の行き届いた適切な保育技術を見つける。

### 《テキスト》

「保育内容・健康」近藤充夫編著（建帛社）  
「保育指針」  
「幼稚園教育要領」

### 《参考文献》

「事例で学ぶ保育内容・健康」ひかりのくに  
「発達がわかれば子どもが見える」ぎょうせい  
「保育内容・健康」ミネルバ

### 《成績評価の方法》

筆記試験（70%）、レポートおよび提出物（20%）、授業態度（10%）で評価をする。

### 《授業時間外学習》

テキストの指定範囲を読んで、課題の語句を調べ、ノートに整理をしておく。  
授業時に配布する資料は必ず読み、課題についてはレポートを作成・提出する。  
授業時間内に完成しなかった作品は授業の継続性を認識し、必要な授業時間までに完成をさせること。

### 《備考》

授業中の携帯電話の使用や飲食は禁止する。  
授業中の私語は慎む。  
小型遊具製作に必要な材料は必ず準備してくる。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション ・授業の概要・授業の進め方・履修上の諸注意 ・「健康」の定義について
第 2 週	領域「健康」の「ねらい」および「内容」 ・テキスト「保育内容 健康」 ・保育所保育指針と幼稚園教育要領 健康
第 3 週	子どものからだと健康 ①体格と生理機能・発達過程 0 歳から 5 歳、乳幼児期から成人
第 4 週	子どものからだと健康 ②運動能力の発達 ・事例から運動機能の発達を見る 子どもの体操の実践
第 5 週	子どものからだと健康 ③基本的な生活習慣の形成（発達との関係） ・事例から年齢別の習慣形成を観察
第 6 週	子どもの心と健康 ①情緒の発達と運動 ②社会性の発達と運動 ・スキンシップ遊びの実践 ・小集団、群れ遊びの実践
第 7 週	子どもの心と健康 ③パーソナリティの発達と運動 ④知的能力の発達と運動 ・他者と自分との関係性 ・発達に応じた遊びの実践
第 8 週	子どもの心と健康 ⑤子どもの健康をめぐる問題 ・様々な社会的健康被害について考える ・不適切な関わりによる発達障害の事例検討
第 9 週	子どもの心と健康 ⑥食育について ・食の大切さ、人との関わり、栽培について
第 10 週	乳幼児の遊びの発達と健康 ①発達の視点から見るいろいろな遊具の特徴と遊び方 ・大型遊具 ・小型遊具 ・身近な素材や形、(学習と実践)
第 11 週	乳幼児の遊びの発達と健康 ②小型遊具で遊ぶ ・工夫や発展性のある小型遊具の製作
第 12 週	乳幼児の遊びの発達と健康 ③小型遊具で遊ぶ（②の継続、遊びの実践を通し、どのような機能が発達するか考える）
第 13 週	乳幼児の遊びの発達と健康 ④集団遊びの実践(集団活動から子どもが何を学ぶか実践を通し考える)
第 14 週	安全保育について ①乳幼児の安全管理 ②安全教育のねらい ③乳幼児の安全指導
第 15 週	学習のまとめと理解度の確認 ・筆記試験

《学科教育科目》

科目名	保育内容・人間関係				
担当者名	三井 圭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

幼児期の人間関係は、年齢及び成長発達によって、培われる。良い人間関係は、人格形成の基礎となることを学び、様々な幼児の活動から分析し、幼児の心を読み取る力をつける。そして保育者として豊かな心情や、知識を身につけて、保育に生かす方法、技能、実践力を習得する。

《授業の到達目標》

乳幼児の発達の特徴を理解し、自尊心、自立心、信頼感や道徳心の芽生えが人とかかわりによってどのように育っていくかを学ぶ。保育所指針、幼稚園教育要領の解説の「ねらい」「内容」「内容の取扱い」などを理解するために、具体的な事例、演習問題から学ぶ。子どもたちの活動の姿を理解し、適切なことばをかけた後、丁寧な対応ができるように、あるいは子どもの考えや気持ちをくみ取ることができる。また人として、保育者としての様々なことに、積極的に関心を持ち、広い心と柔軟性をもって臨み、乳幼児のより良い成長を支援できる保育者としての資質を身に付ける。

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』

『幼稚園教育要領解説書』

プリント配布

《参考文献》

『保育内容 人間関係』 森上史朗・吉村真理子・後藤節美編 ミネルヴァ書房

『人間関係(実技・実践編)』 監修高橋省巳 編著 川崎チヨ子・川原佐公 三晃書房

『幼稚園における道徳性の芽生えを培う事例集』 文部科学省

《成績評価の方法》

事例、演習問題に対する解答(10%)・授業態度(10%)・筆記試験(80%)で評価する。

筆記試験についてはテキスト等の「持ち込み不可」とする

授業欠席回数3分の1以上欠席した者には単位をあたえない。

《授業時間外学習》

前回の事例、演習問題を次回に発表やレポート提出をするので、必ず準備しておくこと。

《備考》

授業は必ず出席する心構えを持つ。正当な理由のない欠席、遅刻、早退は厳重に注意します。授業中の飲食、私語、携帯電話の使用、授業の妨害的な行為は厳禁です。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	授業の進め方を知る 領域「人間関係」の本質を理解する:「ねらい」「内容」について :乳児期の心の育ちを学ぶ
第2週	領域「人間関係」の本質の理解 内容の取扱いについて意味を考え、学ぶ:乳児と母親、保育者のかかわりから乳児の心の育ちを学ぶ
第3週	乳幼児期の発達と人間関係を考え、その問題について 発達段階により、人とかかわりを考えていく:乳児期後期の人とかかわりの中での育ちを学ぶ
第4週	乳幼児期の発達と人間関係を考え、その問題について 保育の基本と人とかかわりを学ぶ:幼児期の保育の事例から、個と集団について学ぶ
第5週	幼児期の生活の中での様々な人とかかわりを通して幼児期の心の育ちについて 様々な環境の中での人間関係の育ちと心の育ちを考える。 3歳児の成長と発達を人間関係の視点から学ぶ。
第6週	幼児期の集団生活での人とかかわりの育ちについて 自立へ向けての様々な経験、体験からの子どもの成長発達を考える:3歳児の保育の事例から学ぶ
第7週	幼児期の集団生活での人とかかわりの育ちについて 自立へ向けての様々な経験、体験からの子どもの成長発達を考える:集団としての育ちについて 3歳児の保育の事例から学ぶ:人間関係の視点からの指導計画について
第8週	生活と遊びの中で育つ人とかかわりについて グループでの育ちについて:4歳児の成長発達を人間関係からの視点で学ぶ
第9週	生活と遊びの中で育つ人とかかわりについて 幼児にとっての遊びの意味について考える:4歳児の保育の事例から学ぶ
第10週	生活と遊びの中で育つ人とかかわりについて エピソードから育つものについて考える:4歳児の保育事例と指導計画について:VTR 視聴
第11週	人とかかわりを育てる保育の実践について クラス活動、個々を生かす保育について考える:5歳児の成長発達を人間関係の視点から学ぶ
第12週	人とかかわりを育てる視点について 目に見えるもの、目に見えないものについて、道徳心の芽生えと信頼関係を考える:5歳児の保育の事例から学ぶ
第13週	人とかかわりの育ちとことばについて コミュニケーションについて考える:5歳児の保育の事例と指導計画について
第14週	人とかかわりを育てる保育者の役割について 人的環境としての保育者のあり方を考える :めざす理想の保育者像、保育観を考える
第15週	まとめ・理解度の確認 ・学習の振り返り(筆記試験)

## 《学科教育科目》

科目名	保育内容・環境				
担当者名	鈴木 富美子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

### 《授業のねらい及び概要》

- 1、子どもは、周囲の様々な環境に対し、乳幼児の特性である‘能動性’をもって働きかけながら、その相互作用の中で遂げていく成長発達のメカニズム「育ちと環境との密接な関係について」学習をし、理解を深める。
- 2、領域・環境の「ねらい」及び「内容」について学習をし、子どもを取り巻く自然や社会、子どもの最も身近な人的・物的環境について理解をし、環境保育の重要性を学ぶ。
- 3、事例や演習をとおり、発達に応じた環境のあり方に意欲的に取り組み実践力を身につける。

### 《授業の到達目標》

- ・ 乳幼児の成長発達は、環境との適切な相互作用により望ましい方向に導かれていくことを十分に理解し、「環境との相互作用」について説明することができる。
- ・ 子どもの成長発達にふさわしい環境設定や取り組みができるようになる。
- ・ 保育者は、最も身近な人的環境である認識を持ち、自らの感性を養うことができるようになる。

### 《テキスト》

「保育内容 環境」中沢和子 小川博久編（建帛社）  
「保育所保育指針」  
「幼稚園教育要領」

### 《参考文献》

「環境」チャイルド社  
「保育内容 環境」ミネルヴァ  
「事例で学ぶ保育内容 領域「環境」ひかりのくに」  
「アイデアたっぷり年中行事」ひかりのくに

### 《成績評価の方法》

筆記試験（70％） レポートや製作提出物（20％） 授業態度（10％）

### 《授業時間外学習》

テキストの指定範囲は必ず読み、課題の語句を調べて、ノートに整理をしてくる。  
配布したプリントは耳で聞く説明だけに頼らず、再度目を通し、内容の理解を図る。  
課題についてはレポート作成の上、提出をする。  
製作物は必ず完成させ、作品の掲示を行う。

### 《備考》

授業中の携帯電話の使用や、飲食は禁止する。  
授業中の私語は慎むこと。  
環境構成の実技において必要な材料をもって来る。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション ・講義の概要 ・授業の進め方 ・履修上の諸注意 ・環境の概念(自然環境 社会環境、人的環境 物的環境 園内環境)
第 2 週	保育内容「環境」について ・領域「環境」の「ねらい」及び「内容」について 実践—春の自然環境 身近な草花
第 3 週	環境による教育 ・乳幼児期の発達過程と発達特性について 実践—春の自然環境 遊びへの取り入れ
第 4 週	環境による教育 ・発達の視点—環境との相互作用について 実践—初夏の自然と保育室
第 5 週	子どもと環境とのかかわり ・家庭・幼稚園・保育所・社会と子どもの生活 ・人的環境としての保育者の役割
第 6 週	環境と子どもの活動(気持ちの安定を図る環境) ・保育室、保育士と子どものかかわり ・保育者の望ましい援助活動
第 7 週	環境と子どもの活動(自立に向かう意義) ・一日の生活リズムの確立と基本的な生活習慣の環境 実践—梅雨期の小動物の扱い
第 8 週	環境と子どもの活動(意欲・探究心を育てる) ・満足する遊びの環境(遊具・時間・空間・仲間・援助者) ・梅雨期の健康環境(衛生、安全、健康) 実践—6月の壁面構成
第 9 週	環境と子どもの活動(自発性・工夫を育てる) ・子どもと遊具—事例を通じた自発的活動の展開 実践—事前素材から作るおもちゃ製作
第 10 週	環境と子どもの活動(数量・文字・標識・図形への関心を育てる) ・数・数量の理解と発達段階(数の3理解) ・遊びの中で育てる文字や標識・図形 実践—絵カードの製作
第 11 週	環境と子どもの活動(感性・感覚・好奇心を育てる) ・砂・土、水と子どものかかわり ・夏の遊びの展開 事例や政策を通じた実践 ・実践—七夕の行事取り組み
第 12 週	環境と子どもの活動(思いやり、道徳性を育てる) ・ふれあい活動の展開(異年齢交流、地域のお年寄りとの交流、障害児保育) ・飼育・栽培の方法と教育
第 13 週	子どもと社会環境 ・社会的行事から学ぶ—伝承行事の歴史と意味(子どもに伝えたいもの) 保育への取り入れ ・実践—夏祭りの行事案作成
第 14 週	現代社会にみる環境の課題 ・育児機能の低下による家庭環境の課題(事例から学ぶ) ・地域や社会環境の低下による課題(自分が育ってきた地域環境の今昔の比較) ・ニーズに応える保育者の取り組み(課題を改善するための環境について考える)
第 15 週	まとめと理解度の確認 ・筆記試験

《学科教育科目》

科目名	保育内容・表現 I				
担当者名	井上 眞美子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

身体と心の感性を育てる。

《授業の到達目標》

自分の身体を知ること。「動きの世界」「音の世界」から何かを感じて、身体の諸感覚を目覚めさせる。音楽と基本ステップの実技研修から、幼児期の年齢別にふさわしい指導方法を主体的に考えていく。

《テキスト》

『表現』 幼児音楽①② 小林美実監修（保育出版社）

《参考文献》

『手あそび 指あそび』 吉本澄子著（玉川大学出版部）  
『ドラマによる表現教育』 ブライアン ウェイ著（玉川出版部）

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価（30%）、実技テスト（70%）の割合で評価する。授業回数の 1/3 を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

- ・テキストの指定箇所を読んでおくこと。
- ・ステップに関する専門用語の意味等を理解し、ノートに整理しておくこと。
- ・毎回の実技についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》

- ・自分がイメージしたことが身体で表現できるように日常生活で五感を研ぎ澄ましておく。
- ・服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。
- ・授業中の携帯電話は使用厳禁とする。
- ・リズムシューズを使用する。集団あそびは屋外のシューズを使用する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	表現についての概要の説明 手あそび
第 2 週	身体の諸感覚を感じるあそび（基本運動と動きのリズム） 各国の幼児のフォークダンスを体得する
第 3 週	基本ステップを中心に、クリエイティブムーブメント。世界のフォークダンス
第 4 週	基本ステップを中心に、クリエイティブムーブメント。世界のフォークダンス
第 5 週	基本ステップを中心に、クリエイティブムーブメント。世界のフォークダンス
第 6 週	基本ステップのテスト
第 7 週	模倣あそび・幼児体操
第 8 週	動きの質のテーマ（緊張と解緊）
第 9 週	ことばとリズムあそび・わらべうたあそび
第 10 週	身近な道具のリズムあそび
第 11 週	身近な道具のリズムあそび
第 12 週	野外における集団あそび(わらべうたあそび・ゲーム)
第 13 週	関係のテーマ（仲間と共同して作品を創る）
第 14 週	関係のテーマ（仲間と共同して作品を創る）
第 15 週	作品発表会



## 《学科教育科目》

科目名	保育内容・表現Ⅱ				
担当者名	小原 義子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

### 《授業のねらい及び概要》

人は生涯にわたって、人やものとどのようにかかわっていくかが、豊かな生活を作っていく大きな課題である。人やものに興味や関心を持ち、豊かな感性や表現する力を養う探究心や、創造性を育む乳幼児期の表現にかかわる生活について学ぶ。内容については、具体的な事例を通して、乳幼児期の特徴を理解し、発達の課題に即したよりよい援助のあり方を探り、保育者としての実践力を身に付けていく。保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「表現」に示されている「ねらい」及び「内容」などの具体的理解をする。

### 《授業の到達目標》

豊かな感性や表現する力を養うための保育の内容について知る。

### 《テキスト》

『保育内容造形表現の探求』 黒川健一 編著 (相川書房)  
『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 (フレーベル館)

### 《参考文献》

『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼稚園教育要領解説書』『保育所保育指針解説書』  
『表現』 黒川健一 編著 (ひかりのくに(株))

### 《成績評価の方法》

授業態度(40%)、筆記試験(60%)で評価する

### 《授業時間外学習》

- ・自分自身の表現や感性について見直しておくこと
- ・実習現場において、幼児の表現について読み取り学んでおくこと

### 《備考》

演習に関する課題や資料については、その都度提示する。

### 《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業のねらいと概要・到達目標・評価についての理解
第 2 週	領域「表現」について Ⅰ (領域「表現」のねらいについて)
第 3 週	領域「表現」について Ⅱ (領域「表現」の内容について)
第 4 週	領域「表現」について Ⅲ (領域「表現」の内容の取り扱いについて)
第 5 週	誕生から始まる表現について (育ちによる変容)
第 6 週	原体験と表現意欲
第 7 週	造形表現の発達の理解
第 8 週	自然素材による表現 (水、砂、土、泥、風など)
第 9 週	園生活と造形活動 (生活場面と造形)
第 10 週	園生活と造形活動 (遊びのなかの造形)
第 11 週	共感的に受け止めるために (Ⅰ) “学生達の実体験を通して”
第 12 週	共感的に受け止めるために (Ⅱ) “ダンボールを使う遊び”
第 13 週	子どもの絵から (子どもを知る)
第 14 週	保育者の役割とこれからの課題
第 15 週	まとめ・理解度の確認 (豊かな感性や表現する力を養うための保育)

**《学科教育科目》**

科目名	障害児保育				
担当者名	柳田 洋				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

障害を理解すると共に、障害児保育の基本的な理念と実践について学ぶ。

**《授業の到達目標》**

障害の科学的な理解やひとの発達のすじみちを理解することによって、障害がある子どもたちについて理解を深めるとともに、発達を保障していくための保育場面でできる援助について考える。また、健常児との関わりや家庭・社会との連携の大切さについても保育者という実践者の立場から考えていく。

**《テキスト》**

『新版テキスト障害児保育』白石正久・近藤直子・中村尚子編（全障研出版部）

**《参考文献》**

『幼児の発達の基礎』加藤直樹・中村隆一編（全障研出版部）  
『発達の扉 下 障害児の保育・教育・子育て』白石正久著（かもがわ出版）  
『多動症の子どもたち』太田昌孝著（大月書店）  
その他、授業中に適宜紹介する。

**《成績評価の方法》**

試験（テキスト・ノート等持ち込み可）。適宜、レポート等の提出を課す。  
試験（50%）、授業後レポート（50%）で評価する。

**《授業時間外学習》****《備考》**

毎時間、出席表（感想・質問等を記入）の提出をもって出席を確認する。  
提出物の期限は厳守し、返却されたものについては配付資料等とともにファイルしておくこと。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	障害があるということ、ないということ。発達のすじ道
第 2 週	さまざまな障害の理解①知的発達の障害
第 3 週	さまざまな障害の理解②情緒・社会性の障害
第 4 週	さまざまな障害の理解③身体・運動面の障害
第 5 週	さまざまな障害の理解④視覚・聴覚など感覚の障害
第 6 週	さまざまな障害の理解⑤内部障害
第 7 週	障害児保育について考える①知的発達の障害
第 8 週	障害児保育について考える②情緒・社会性の障害
第 9 週	障害児保育について考える③身体・運動面の障害
第 10 週	障害児保育について考える④視覚・聴覚など感覚の障害
第 11 週	障害児保育について考える⑤内部障害
第 12 週	障害児保育のあゆみと現状・課題
第 13 週	発達を支援する保育者として
第 14 週	就学に向けて
第 15 週	まとめ



# 平成 21 年度 (2009 年度) 入学者

保育科第三部3年生 学年暦〔I期〕 平成23年度(2011年度)

23年	日		月		火		水		木		金		土	
	3	入学式	4		5		6		7		8	① I期授業開始	9	
4月	10		11	①	12	①	13	①	14	①	15	②	16	② 木曜日科目授業日
	17		18	②	19	②	20	②	21	③	22	③	23	③ 火曜日科目授業日
	24		25	③	26	④	27	③	28	④	29	昭和の日	30	
	1		2	④	3	憲法記念日	4	みどりの日	5	こどもの日	6	④	7	⑤ 木曜日科目授業日
	8		9	⑤	10	⑤	11	④	12	⑥	13	⑤	14	⑤ 水曜日科目授業日
5月	15		16	⑥	17	⑥	18	⑥	19	⑦	20	⑥	21	⑦ 金曜日科目授業日
	22		23	⑦	24	⑦	25	⑦	26	⑧	27	⑧	28	⑧ 月曜日科目授業日
	29		30	⑧	31	⑧	1	⑧	2	⑨	3	⑨	4	⑨ 水曜日科目授業日
	5		6	⑩	7	⑨	8	⑩	9	⑩	10	創立記念日	11	⑩ 金曜日科目授業日
6月	12		13	幼稚園参加指導実習	14	幼稚園参加指導実習	15	幼稚園参加指導実習	16	幼稚園参加指導実習	17	幼稚園参加指導実習	18	幼稚園参加指導実習 オープンキャンパス
	19		20	幼稚園参加指導実習	21	幼稚園参加指導実習	22	幼稚園参加指導実習	23	幼稚園参加指導実習	24	幼稚園参加指導実習	25	幼稚園参加指導実習
	26		27	幼稚園参加指導実習	28	幼稚園参加指導実習	29	幼稚園参加指導実習	30	幼稚園参加指導実習	1	幼稚園参加指導実習	2	幼稚園参加指導実習
	3		4	⑪	5	⑩	6	⑪	7	⑪	8	⑪	9	⑪ 火曜日科目授業日
	10		11	⑫	12	⑫	13	⑫	14	⑫	15	⑫	16	⑫ 月曜日科目授業日
7月	17		18	海の日	19	⑬	20	⑬	21	⑬	22	⑬	23	オープンキャンパス
	24	オープンキャンパス	25	⑭	26	⑭	27	⑭	28	⑭	29	⑭	30	予備日
	31		1	⑮	2	⑮	3	⑮	4	⑮	5	⑮	6	オープンキャンパス
	7	オープンキャンパス	8		9		10		11		12		13	
8月	14		15		16		17		18		19		20	
	21		22	保育所参加指導実習	23	保育所参加指導実習	24	保育所参加指導実習	25	保育所参加指導実習	26	保育所参加指導実習	27	保育所参加指導実習 オープンキャンパス
	28	オープンキャンパス	29	保育所参加指導実習	30	保育所参加指導実習	31	保育所参加指導実習	1	保育所参加指導実習	2	保育所参加指導実習	3	保育所参加指導実習
9月	4		5		6		7		8		9		10	オープンキャンパス
	11		12		13		14		15		16		17	

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

23年	日		月		火		水		木		金		土	
9月	11	12	13	14		15	16	17	① Ⅱ期授業開始	16	①	17	① 月曜日科目授業日	
	18	19	20	21	①	22	23	②	②	23	秋分の日	24	② 金曜日科目授業日	
	25	26	27	28	②	29	30	③	③	30	③	1		
10月	2	3	4	5	③	6	7	④	④	7	④	8		
	9	10	11	12	④	13	14	⑤	⑤	14	⑤	15		
	16	17	18	19	⑤	20	21	⑥	⑥	21	⑥	22		
	23	24	25	26	⑥	27	28	⑦	⑦	28	⑦	29		
	30	31	1	2	⑦	3	4	⑧	⑧	4	⑧	5	入学試験実施	
11月	6	7	8	9	⑧	10	11	⑧	⑧	11	⑧	12	入学試験実施	
	13	14	15	16	⑨	17	18	⑨	⑨	18	⑨	19	入学試験実施	
	20	21	22	23	⑩	24	25	⑩	⑩	25	⑩	26	入学試験実施	
	27	28	29	30	⑪	1	2	⑪	⑪	2	⑪	3	入学試験実施	
	4	5	6	7	⑫	8	9	⑫	⑫	9	⑫	10	入学試験実施	
12月	11	12	13	14	⑬	15	16	⑬	⑬	16	⑬	17	入学試験実施	
	18	19	20	21	⑭	22	23	⑭	⑭	23	⑭	24	入学試験実施	
	25	26	27	28	⑮	29	30	⑮	⑮	30	⑮	31	入学試験実施	
	1	2	3	4		5	6	⑭	⑭	6	⑭	7	入学試験実施	
	8	9	10	11	⑭	12	13	⑮	⑮	13	⑮	14	入学試験実施	
23年 1月	15	16	17	18	⑮	19	20	⑮	⑮	19	⑮	20	入学試験実施	
	22	23	24	25	補講日	26	27	補講日	補講日	27	補講日	28	入学試験実施	
	29	30	31	1	補講日	2	3			3		4	入学試験実施	
	5	6	7	8		9	10			10		11	入学試験実施	
	12	13	14	15		16	17			17		18	入学試験実施	
2月	19	20	21	22		23	24			24		25	入学試験実施	
	26	27	28	29		1	2			2		3	入学試験実施	
	4	5	6	7		8	9			9		10	入学試験実施	
	11	12	13	14		15	16			16		17	入学試験実施	
	18	19	20	21		22	23			23		24	入学試験実施	
3月	25	26	27	28		29	30			29		30	入学試験実施	
	1	2	3	4		5	6			5		6	入学試験実施	
	8	9	10	11		12	13			12		13	入学試験実施	
	15	16	17	18		19	20			19		20	入学試験実施	
	22	23	24	25		26	27			26		27	入学試験実施	

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

## カリキュラム年次配当表

保育科第三部 平成21年度（2009年度）入学者対象

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当(数字は週当り授業時間)						備考	ページ	
			必修	選択			1年		2年		3年				
							I	II	I	II	I	II			
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習		2	◇			2						☆	基礎・教養科目編参照
	英語	演習		2	◆	●		2						☆	
	コンピュータ演習	演習		2	◆			2						☆	
教養科目	宗教と人生	講義	2				2								
	文学	講義		2				②		②		②			
	色彩学	講義		2			2								
	日本国憲法	講義		2	◆					2					
	ジェンダー論	講義		2			②		②		②				
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2	◆	●		②		②		②			
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習		2	◇	●		②		②		②		☆	
健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習		2				②		②		②		☆		

- (注意) ◆印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必須科目を表す。  
 ◇印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。  
 ●印は、保育士資格取得のための必須科目を表す。  
 ○印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。

※学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

※備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

# カリキュラム年次配当表

保育科第三部 平成21年度（2009年度）入学者対象

授 科 目 の 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		幼稚園 教諭 二種 免許	保育士 資格	学年配当(数字は週当たり授業時間)						備考	ページ		
			必修	選択			1年		2年		3年					
							I	II	I	II	I	II				
学	音楽教育A	演習	1						2							
	音楽教育B	演習		1	◆	○				2						
	音楽教育C	演習		1		○					2				80	
	音楽教育D	演習		1		○						2			81	
	器楽A	演習		1	◆	●	2									
	器楽B	演習		1	◆	○		2								
	造形A	演習		1					2							
	造形B	演習		1	◆	○				2						
	幼児体育A	演習		1					2							
	幼児体育B	演習		1	◆	○				2						
科	算数	講義		2	◇									不開講		
	生活概論	講義		2	◇									不開講		
	小児保健A	講義		2		●		2								
	小児保健B	講義		2		●			2							
	小児保健実習	実習		1		●					2				82	
	小児栄養	演習		2		●				2				☆		
	精神保健	講義		2		●						2			83	
	家族援助論	講義		2		●						2			84	
	社会福祉	講義		2							2				85, 86	
	社会福祉援助技術	演習		2		●						2		☆	87	
教	児童福祉	講義		2		●	2									
	教育原理	講義		2				2								
	保育原理ⅠA	講義		2			2									
	保育原理ⅠB	講義		2		●					2				88	
	保育原理Ⅱ	講義		2		○						2			89	
	養護原理Ⅰ	講義		2		●		2								
	養護原理Ⅱ	講義		2		○						2			90	
	教育実習	実習		5	◆					5					91, 92	
	保育実習Ⅰ	実習		5		●		5								
	保育実習Ⅱ	実習		2		●						2			93	
目	保育実習Ⅲ	実習		2										不開講		
	教育心理学	講義		2	◇	●						2			94	
	発達心理学	講義		2			2									
	児童心理学	講義		2	◆	○				2						
	青年心理学	講義		2		○		2								
	臨床心理学	演習		2		○				2				☆		
	教育制度論	講義		2	◆							2			95	
	教師論	講義		2				2					2			96
	保育課程総論	講義		2				2								
	保育内容・健康	演習		2	◆	●				2					☆	
保育内容・人間関係	演習		2	◆	●					2				☆		
保育内容・環境	演習		2	◆	●				2					☆		
保育内容・言葉	演習		2	◆	●		2							☆		
保育内容・表現Ⅰ	演習		2	◆	●					2				☆		
保育内容・表現Ⅱ	演習		2	◆	●				2					☆		
保育方法論	講義		2	◆				2								
養護内容	演習		1		●		2									
乳児保育Ⅰ	演習		2		●	2								☆		
乳児保育Ⅱ	演習		2		○							2		☆	97, 98	
障害児保育	演習		1		●				2							
教育相談	講義		2	◆							2				99	
総合演習	演習		2	◆	●							2		☆	100~106	

(注意) ◆印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必修科目を表す。  
 ◇印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。  
 ●印は、保育士資格取得のための必修科目を表す。  
 ○印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。

※備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。



《学科教育科目》

科目名	音楽教育C				
担当者名	中島 龍一・他				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

幼児教育者として必要な音楽の基礎知識と技術力を高めるために、幅広い音楽表現の研究をすることで、保育現場に必要な様々な応用力を身につける。

《授業の到達目標》

保育の現場で求められる望ましい保育者となるためには、活動の結果や技術面ばかりに目を向けるのではなく、子どもが表現しようとする意欲を温かく受け止め、表現する喜びや感動する心を育てていかなければならない。そのために本科目において、1年次「音楽教育A・B」で習得したものを基に更に広げていく研究をする。また、きかせてあげたい子どもの歌並びにコード奏法による子どもの歌をできるだけ多くマスターする。

《テキスト》

- 『おんがく玉手箱』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）
- 『すいかとかぼちゃのロックンロール』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）
- 『うたのメルヘン』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）※1年次で使用したテキスト

《参考文献》

- 『子どもの歌から広がる音楽表現』（伊藤嘉子・中島龍一他 編著／共同音楽出版社）
  - 『手あそび歌あそび60』（伊藤嘉子 編著／音楽之友社）
  - 『手話によるメッセージソングベスト25』（伊藤嘉子 編著／音楽之友社）
- その他必要に応じて印刷物を配布する。

《成績評価の方法》

1. 授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。
2. 平常の授業態度や課題に取り組む意欲を重視し、個性ある表現力を評価の対象とする。
3. 自分の音楽能力を客観的に把握し、自分に足りない能力を開発しようとする積極的な態度も考慮する。
4. 音楽表現（40%）、弾きうたい（30%）、授業への取り組む姿勢（30%）で評価。

《授業時間外学習》

使用テキストの指定箇所を読み、練習しておくこと。  
授業後、おこなった実践をより自身のものとするための練習をすること。

《備考》

講義室の使用上の注意事項は必ず守ること。特に飲食物の持ち込み、携帯電話の使用禁止。  
鍵盤楽器やその他楽器使用における取扱いの注意事項について厳守すること。  
授業終了時には、次の使用者のために清潔を常に心掛けること。  
将来保育者となるための常識を心し、言葉遣い、礼儀、身なり等にも配慮して受講すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	I期15回の授業内容の説明と使用するテキストについての説明。毎回授業での初めのテーマソングを決めてうたう。
第2週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。／ドラムジカへの準備（1）
第3週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。／絵描き歌（1）／ドラムジカへの準備（2）
第4週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。／絵描き歌（2）／ドラムジカへの準備（3）
第5週	ドラムジカ研究発表会
第6週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／音楽身体表現（1）
第7週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／音楽身体表現（2）
第8週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／音楽身体表現（3）
第9週	音楽身体表現研究発表会
第10週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。／紙工作（1）
第11週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。／紙工作（2）
第12週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／子どもの歌創作絵本作成（1）
第13週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／子どもの歌創作絵本作成（2）
第14週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／子どもの歌創作絵本作成（3）
第15週	子どもの歌創作絵本研究発表会と音楽教育Cの総まとめ

《学科教育科目》

科目名	音楽教育D				
担当者名	中島 龍一・他				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

幼児教育者として必要な音楽の基礎知識と技術力を高めるために、幅広い音楽表現の研究をすることで、保育現場に必要な様々な応用力を身につける。

《授業の到達目標》

保育の現場で求められる望ましい保育者となるためには、活動の結果や技術面ばかりに目を向けるのではなく、子どもが表現しようとする意欲を温かく受け止め、表現する喜びや感動する心を育てていかなければならない。そのために本科目において、Ⅰ期「音楽教育C」で習得した知識・技術を更に高度なものへと広げていく研究をする。また、きかせてあげたい子どもの歌並びにコード奏法による子どもの歌をできるだけ多くマスターする。

《テキスト》

- 『おんがく玉手箱』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）
- 『すいかとかぼちゃのロックンロール』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）
- 『うたのメルヘン』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）※1年次で使用したテキスト

《参考文献》

- 『子どもの歌から広がる音楽表現』（伊藤嘉子・中島龍一他 編著／共同音楽出版社）
  - 『手あそび歌あそび60』（伊藤嘉子 編著／音楽之友社）
  - 『手話によるメッセージソングベスト25』（伊藤嘉子 編著／音楽之友社）
- その他必要に応じて印刷物を配布する。

《成績評価の方法》

1. 授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。
2. 平常の授業態度や課題に取り組む意欲を重視し、個性ある表現力を評価の対象とする。
3. 自分の音楽能力を客観的に把握し、自分に足りない能力を開発しようとする積極的な態度も考慮する。
4. 音楽表現（40%）、弾きうたい（30%）、授業への取り組む姿勢（30%）で評価。

《授業時間外学習》

使用テキストの指定箇所を読み、練習しておくこと。  
授業後、おこなった実践をより自身のものとするための練習をすること。

《備考》

講義室の使用上の注意事項は必ず守ること。特に飲食物の持ち込み、携帯電話の使用禁止。  
鍵盤楽器やその他楽器使用における取扱いの注意事項について厳守すること。  
授業終了時には、次の使用者のために清潔を常に心掛けること。  
将来保育者となるための常識を心し、言葉遣い、礼儀、身なり等にも配慮して受講すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	Ⅱ期15回の授業内容の説明と使用するテキストについての説明／「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。
第2週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。／紙工作（3）
第3週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。／紙工作（4）
第4週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／手作りゲーム（1）
第5週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／手作りゲーム（2）
第6週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／手作りゲーム（3）
第7週	グループによる歌研究発表会
第8週	楽器の知識と使用方法についての説明／器楽アンサンブル（1）／合唱練習（1）
第9週	器楽アンサンブル（2）／合唱練習（2）
第10週	器楽アンサンブル（3）／合唱練習（3）
第11週	器楽アンサンブル研究発表会
第12週	合唱練習（4）
第13週	合唱練習（5）
第14週	合唱練習（6）
第15週	合唱研究発表会と音楽教育Dの総まとめ

## 《学科教育科目》

科目名	小児保健実習				
担当者名	宮崎 千尋				
授業方法	実習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	3年・I期

### 《授業のねらい及び概要》

保育士は、子どもの発育・発達状態、健康状態を正しく把握し、保育中の子どもの健康を守りつつ保育する責任がある。「小児保健」で学んだ「小児を心身の病気から守り、健全に発育させる」という理論をふまえ、保育所・乳児院などの児童福祉施設、あるいは幼稚園その他保育の場において、これを実践できる応用能力と技術を習得することを目指す。

### 《授業の到達目標》

1. 小児の生理的な特徴を理解し、その観察方法や測定技術が習得できる。
2. 日課に必要な養護技術が習得できる。
3. 事故防止と安全教育の行い方を理解し、説明出来る。
4. 乳幼児看護および救命処置と応急手当技術が習得出来る。

### 《テキスト》

「小児保健実習」 佐藤益子 編著 みなみ書房

### 《参考文献》

「小児看護実習ガイド」 筒井真優美 監修 照林社  
 「小児保健の基礎知識」 日本保育園保健協議会編集 日本小児医事出版社

### 《成績評価の方法》

筆記試験 70% (テキスト及び配布資料の持ち込みは可とする)  
 授業内実習 30% (実習への参加度および実習試験によって評価する)  
 ※授業実施回数の1/3以上を欠席した者は成績評価の対象とならず単位は与えない。

### 《授業時間外学習》

・予習、復習の方法

実習には、実習に関する授業内容を復習し、実習の概要・必要物品・手順について理解を深め、臨んで下さい。

### 《備考》

- ・授業内実習が主になるので出席して経験することに重点をおきます。
- ・授業には実習、実技にふさわしい服装で臨み、指示されたことは守り、事故防止に努めて下さい。
- ・実習の準備、終了後の後片づけは協力してきっちりと行うように注意して下さい。
- ・授業時間の1/3を越えた遅刻は、欠席とみなします。
- ・他の学生への迷惑になるような私語等による授業妨害は退室してもらいます。

### 《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	小児保健実習の目的・目標・内容、援助技術の基本
第 2 週	小児の健康状態の観察と記録
第 3 週	小児の身体発育と身体測定及び評価 (体重・胸囲・座高・頭囲・下肢長・視力・聴力等) 《実習》
第 4 週	小児の生理機能の測定と評価 (体温・脈拍・呼吸の測定) 小児の精神・運動機能の発達 《実習》
第 5 週	乳幼児の養護 (抱き方・背負い方・睡眠・排泄・食事・清潔の援助・外気浴・あやし方等) 《VTR 視聴・演習》
第 6 週	乳幼児の養護 (抱き方・背負い方・排泄・清潔の援助・食事・外気浴) 《実習》
第 7 週	乳幼児の養護 (身体の清潔: 沐浴) 《実習》
第 8 週	小児の看護 (1) よく起こる症状に対する看護
第 9 週	小児の看護 (2) よく起こる病気に対する看護
第 10 週	乳幼児の事故の現状と応急処置 小児の救急処置 《VTR 視聴》
第 11 週	小児の救急処置 (起きやすい事故の応急処置、心肺蘇生法) 《VTR 視聴・演習》
第 12 週	小児の救急処置 (1) 起きやすい事故の応急処置 《実習》
第 13 週	小児の救急処置 (2) 心肺蘇生法 《実習》
第 14 週	感染予防対策 ・ 危機管理
第 15 週	学習のまとめ

**《学科教育科目》**

科目名	精神保健				
担当者名	古賀 愛人				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

保育に携わるうえで、胎生期から思春期に至る発達と精神保健に関する基本的知識を学び、こころの健康保持増進とこころの不健康の予防に役立つようになることをめざします。

**《授業の到達目標》**

- こころの健康・不健康とは何かを説明できる。
- 健全な発達と発達上の問題点を説明できる。
- 子どもの発達障害と問題行動を理解し、その対応ができるようになる。

**《テキスト》**

改訂3版・保育士養成講座 第4巻  
精神保健 改訂・保育士養成講座編纂委員会 社会福祉法人社会福祉協議会 2005

**《参考文献》**

介護福祉士養成講座⑩  
精神保健 福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版

**《成績評価の方法》**

授業中の態度、討論への参加度 20%と試験 80%による総合評価。

**《授業時間外学習》**

シラバス（授業計画）により、テキストを予習しておくことが必要である。

**《備考》****《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	保育における精神保健
第 2 週	精神保健 ―こころの発達と健康
第 3 週	胎児期のこころの発達と精神保健活動
第 4 週	乳児期の発達と精神保健活動
第 5 週	幼児期の発達と精神保健活動
第 6 週	学童期・思春期の発達と精神保健活動
第 7 週	乳幼児精神医学と発達障害
第 8 週	ことばの障害
第 9 週	多動性障害・強迫性障害
第 10 週	習癖障害
第 11 週	子どものうつ病・睡眠障害
第 12 週	登園拒否・児童虐待
第 13 週	保育所・地域における精神保健活動
第 14 週	障害児保育
第 15 週	まとめ講義

**《学科教育科目》**

科目名	家族援助論				
担当者名	若林 宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

保育士資格の法定化（2001年）にともない、2002年から保育士養成課程も改正されることになり「家族援助論」が創設されることになった。よりよい保育を行うためには、保育所に通う児童、及び保育所周辺の子ども達を視野に入れた援助が必要である。保育所の社会的役割の一つである「子育て支援」の観点から、児童とその家族に対する保育のあり方について考察する。子育て支援については現代の課題でもあることを考慮し、総合的に実態を把握したものを資料とし子育て支援のあるべき方向をめざしたい。

**《授業の到達目標》**

今子育て支援に求められていることを学び、子育てのサポーターとしての役割を充実する。

**《テキスト》**

『家族援助論』（全国社会福祉協議会）

**《参考文献》**

『子育て支援の現在』垣内国光・桜谷真理子編著（ミネルヴァ書房）  
『子どもの発達と子育て・子育て支援』丸山美和子（かもがわ出版）  
『家族援助論』保育ライブラリ（北大路書房）  
『家族援助論』松村和子、澤江幸則、神谷哲司（建帛社）  
『保育福祉小六法』『保育所保育指針』

**《成績評価の方法》**

課題レポート（40%）、総合テスト（60%）で評価する。

**《授業時間外学習》**

子育て支援の実際について調査しレポートをする。

**《備考》**

必要に応じてビデオ等を使用し、受講生の理解がより深まるように心がけたい。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	家族とは何か
第 2 週	現代社会と家族
第 3 週	現代社会と人間関係
第 4 週	児童を取りまく社会的環境
第 5 週	児童に対する理解
第 6 週	子育ての実態と課題
第 7 週	子育て支援に求められていること
第 8 週	育児支援政策の現状
第 9 週	子育て支援の現状と課題
第 10 週	子育て支援の意義
第 11 週	子育て支援の活動
第 12 週	子育てに対する相談援助活動
第 13 週	児童虐待の現状と課題及び援助
第 14 週	家庭と養護・保育現場との連携
第 15 週	家族援助の実際

**《学科教育科目》**

科目名	社会福祉				
担当者名	藤野 ゆき				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

現代社会における社会福祉の意義・理念について学び、社会福祉の歴史のあゆみを通して今日までの社会福祉の発展のプロセスを理解する。さらに、社会福祉の法体系、制度及び行財政の仕組みを知り、社会福祉サービス体系における公私の役割や活動についても詳しく学ぶ。社会福祉の価値観や倫理性および福祉専門職の役割等についても理解を深め、子どもに対する専門職(保育士)としての資質を高める。

**《授業の到達目標》**

社会福祉の意義、理念について考えることができる。  
社会福祉の法制度、体系を踏まえた上で、社会福祉援助技術を実行できる。

**《テキスト》**

新 保育ライブラリ 保育・福祉を知る 社会福祉 編著者 片山義弘 李木明徳  
北大路書房 2009年

**《参考文献》**

必要に応じて随時紹介する。

**《成績評価の方法》**

毎回の講義ごとの小レポート 40%、 試験 60%

**《授業時間外学習》**

次回講義予定範囲の予習し、受講に対する考えをまとめておくこと。

**《備考》****《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	現代社会と社会福祉の意義①社会福祉の理念と概念 社会福祉の対象と主体
第 2 週	現代社会と社会福祉の意義②社会福祉のニーズの変容
第 3 週	社会福祉専門職 社会福祉従事者の概要 専門性と倫理 関連する専門職
第 4 週	社会福祉の法体系と実施体系①社会福祉の実施体系 社会福祉の各分野
第 5 週	社会福祉の法体系と実施体系②実施体制と公私の役割
第 6 週	社会福祉の法体系と実施体系③社会福祉の財政と費用負担
第 7 週	社会福祉の動向①高齢者福祉
第 8 週	社会福祉の動向②障害者福祉
第 9 週	社会福祉の動向③ボランティア活動
第 10 週	社会福祉援助技術①社会福祉援助技術の発展
第 11 週	社会福祉援助技術②社会福祉援助技術の形態
第 12 週	社会福祉援助技術③社会福祉援助技術の動向
第 13 週	利用者保護制度の概要①利用者保護制度の目的と仕組み
第 14 週	利用者保護制度の概要②第三者評価と情報提供
第 15 週	まとめ

**《学科教育科目》**

科目名	社会福祉				
担当者名	杉山 貴要江				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

「現代社会に生きる私たちにとって幸せとは何か」を追究します。

保育士は保育、子育て支援の専門職であることを認識し、社会福祉での学びが実践活動に活かせるようにすることを目指します。

**《授業の到達目標》**

- ・現代社会に生きる人々の幸せの実現に向けて、有用な社会的方策について主体的に考えることができる。
- ・現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について学び、社会福祉の制度や実施体系等との関連が理解できる。
- ・社会福祉と保育及び保育者の役割との関連について理解し、実践の場で役立てることができる。

**《テキスト》**

プリント等の配布を予定しています。

**《参考文献》**

『社会福祉』片岡義弘・李木明德編，北大路書房

**《成績評価の方法》**

授業中の態度，授業への取り組み方（30%），筆記試験（70%）で評価します。但し，受講生数によって若干変更することがあります。

**《授業時間外学習》**

授業内容を補うプリントを配布する予定です。授業の予習に役立ててください。

**《備考》**

少人数クラスが予測されますので，授業は受講生間，受講生と教員との意見交換を主に進めていきます。受講生は授業時間内に必ず発言できるよう，普段から時事に関心を持ち，出席するよう心掛けてください。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	現代社会と社会福祉の意義 - 1 授業の概要と進め方，社会福祉の概念（意味，理念，実践，制度）
第 2 週	現代社会と社会福祉の意義 - 2 社会福祉の対象と福祉ニーズ，社会福祉の歴史
第 3 週	社会福祉制度と実施体系 - 1 社会福祉制度，社会福祉六法，社会福祉の行政機構，社会福祉サービスの実施体制
第 4 週	社会福祉制度と実施体系 - 2 社会福祉の財政と費用負担，保育所の運営と利用者の費用負担
第 5 週	社会福祉制度と実施体系 - 3 社会保障（所得保障と医療保障）と関連制度
第 6 週	社会福祉援助技術 社会福祉援助技術の意義と体系，社会福祉援助活動
第 7 週	社会福祉専門職 社会福祉に携わる保育士，社会福祉士，介護福祉士等の役割と専門性
第 8 週	わが国の社会福祉 - 1 子ども家庭福祉：児童虐待，子育て支援，ひとり親家庭への支援
第 9 週	わが国の社会福祉 - 2 障がい者福祉，「障害者権利条約」の理念，障がいのある人の自立
第 10 週	わが国の社会福祉 - 3 障がいのある子ども，保育士の役割とその支援方法
第 11 週	わが国の社会福祉 - 4 介護保険制度，介護保険導入の社会的背景と現状
第 12 週	わが国の社会福祉 - 5 地域福祉，非営利団体の活動，アメリカの事例
第 13 週	わが国の社会福祉 - 6 福祉教育の歩み，福祉教育の今日的意義，スクールソーシャルワークの役割と課題
第 14 週	利用者保護制度 利用者保護制度の目的と仕組み，サービスの質の確保
第 15 週	学習のまとめ 社会福祉に関する学習の振り返り，保育士が果たす社会的役割

## 《学科教育科目》

科目名	社会福祉援助技術				
担当者名	高見 スマ子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

## 《授業のねらい及び概要》

社会福祉の現実には複雑さを増してきており、問題解決には高度な知識と技術が欠かせないものになっている。本講では、保育士に求められる相談援助に係る知識と技術について、事例を通してその具体的な援助の実際を習得する。

## 《授業の到達目標》

演習を履修する学生が演習を通して習得すべき相談援助実践の価値・知識・技術等を具体的な演習課題を通して養う。

- ・対人援助職として自己覚知を促す
- ・相談援助における基本的なコミュニケーション技法について学ぶ
- ・相談援助における面接技法について学ぶ
- ・マッピング技法を修得する(ファミリーマップ・エコマップが作成できる)

## 《テキスト》

(検討中)

毎回レジュメ等の資料を配布する予定である

## 《参考文献》

必要に応じて紹介する

## 《成績評価の方法》

レポート (10%)、ミニテスト (10%)、試験 (ペーパーテスト) 80%の割合で評価する

## 《授業時間外学習》

社会の動き・福祉問題に敏感になるために、新聞を読むこと  
配布した資料に必ず目を通すこと

## 《備考》

## 《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	保育士に求められるソーシャルワークとは (なぜ、保育士にソーシャルワークが必要なのかを考える)
第 2 週	社会福祉援助技術 (ソーシャルワーク) の体系
第 3 週	社会福祉援助技術の発展経緯 ~援助の歴史~ (欧米における発展経緯)
第 4 週	社会福祉援助技術の発展経緯 ~援助の歴史~ (日本における発展経緯)
第 5 週	ソーシャルワークが提供される場と援助過程
第 6 週	社会福祉援助の価値と倫理
第 7 週	気づきの演習 自己理解 (自己覚知) の必要性
第 8 週	気づきの演習 他者理解
第 9 週	コミュニケーションスキルの演習 (コミュニケーションの要素 言語・準言語・非言語の重要性について)
第 10 週	個別援助技術の基礎知識
第 11 週	個別援助技術 事例研究 (児童に関する事例)
第 12 週	集団援助技術の基礎知識
第 13 週	集団援助技術 事例研究
第 14 週	記録のとり方 ~よりよい記録のために~ (ジェノグラム・エコマップを作成する)
第 15 週	学習のまとめ・総括 (全体を振りかえって重要な点を抑える)



《学科教育科目》

科目名	保育原理 I B				
担当者名	福田 規秀				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

保育についての理解が少しでも進むと現実を知り、壁にぶつかるものである。それを乗り越えるのは他の誰でもなく自分である。この講義では挑発的に学生諸君に問題を突きつけつつ、それを自分自身の課題と捉えられよう様々な事例を紹介し、ひとりの人間としてどうそれに向き合っていくかについて考えていく。また他者がどう考えるかを知ることも重要なねらいである。

《授業の到達目標》

保育原理 I A に引き続き科目である。I A を基礎的知識として保育の現状と課題をより広範囲に探り、実態の認識を通して保育者として望ましい人間性の育成を目指す。保育者は子どもとのかかわりだけでなく、保護者や地域の人々、同僚という大人とのかかわりも欠かせない。そのことへの自覚、自己改善も大切な目標となる。

《テキスト》

『新・保育原理』一すばらしき保育の世界ー (みらい 2009)

『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 (フレーベル館 2008) 両方とも1年次に購入スミ

《参考文献》

『保育者の職能論』田中亨胤他編著 (ミネルヴァ書房 2006)

『親子ストレス』汐見稔幸 (平凡社新書 2000)

『ケアの本質』ミルトン・メイヤロフ 田村真・向野宣之訳 (ゆみる出版 2008)

『21世紀の子育て支援・家庭支援』伊志嶺美津子・新澤誠治 (フレーベル館 2003)

その他授業中に随時紹介する。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等 (20%) と筆記試験 (80%) の総合評価。課題の提出は期限内でお願いします。

授業回数の 1/3 を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

講義終了時に次回講義の予告を出来る限り行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。

学びにはリフレクションが重要です。よって講義内容を教科書を参考にしながら、自分なりの方法でノートにしっかりまとめておくこと。

適宜課題を出すので真面目に取り組んでください (例えば自分の望む子育て支援策についてのレポートやネットを利用した情報収集、メディアを駆使したレポート課題の提出等)。

《備考》

全体の授業計画については、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある。

法令を見ることもあるので、1年次に購入した『最新保育資料集』や『幼稚園教育要領解説』を必要に応じ持参のこと。

子どもに関する情報を様々なメディアを通じて自分でも収集することに努めること。その一環での講義への事例提供を歓迎する。

最後にまた原理??ではなく、今まで学んだことを基に是非自分なりの保育観を考えつつ受講してほしい。また他人の意見を尊重する姿勢も大切である。講義の中では、考えるための素材として視聴覚教材を用いることがあるが、積極的に視聴し自己の糧とすること。

受講に際しては、保育者にふさわしい出席・態度・準備を要求する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業のオリエンテーション、保育課程・教育課程についてー計画とは
第 2 週	保育課程・教育課程についてーその実際
第 3 週	計画と評価
第 4 週	子どもの健康と安全ー食育
第 5 週	子どもの健康と安全ー感染症
第 6 週	健康安全と多様な子どもへの対応
第 7 週	多様化する保育ニーズー誰のためのものか?
第 8 週	子育て家庭支援ーなくてはならないもの
第 9 週	子育て家庭支援ーこれから
第 10 週	育ちや学びの連続性ー連携
第 11 週	育ちや学びの連続性
第 12 週	保育者の専門性ー現状
第 13 週	保育者の専門性ー専門性とは
第 14 週	保育の現状と課題ー保育の質の保証
第 15 週	まとめ・筆記試験

**《学科教育科目》**

科目名	保育原理Ⅱ				
担当者名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

保育施設設立の歴史と保育内容の変遷史について理解するとともに、歴史的に行われてきた保育実践および現代の保育活動と幼児理解について考察する。とくに、明治期から大正・昭和の保育施設で行われていた保育内容や保育形態の変遷、新教育の流れとともに発展した児童文化、そして、歴史的に保育界を導いてきたいくつかの保育形態の実践例について学ぶことで、今日の保育活動のなかの保育教材と幼児の育ちのかかわりについて考える機会としたい。それによって、今日の多様な保育形態がどのように形成されてきたかについて理解し、それがどのように幼児の育ちにつながるかについて洞察することができるよう努めたい。

**《授業の到達目標》**

- ・保育施設設立の時代的要請と保育に課せられた役割について学び、保育の意義を現時点の自己なりに捉え明日への課題をもつための姿勢を獲得する。
- ・現代の保育活動の事例研究を通して、幼児理解のためのいくつかの視点が発見できるようにする。
- ・保育形態について学ぶことで、保育形態を保育実践へとつなげていくという意識がもてるように努める。
- ・各保育実践家の保育観に支えられた保育実践と教材の用い方について理解する。

**《テキスト》**

適宜資料を配布する。

**《参考文献》**

必要に応じて紹介する。

**《成績評価の方法》**

平常の提出物(50%)および学期末の小テスト(50%)で評価する。

**《授業時間外学習》**

- ・配布資料等を熟読し、学習内容の定着を図る。
- ・授業内で紹介された参考図書や資料を読み、理解を広げるようにする。
- ・出された課題に取り組み、期日に提出するようにする。

**《備考》**

- ・授業中の携帯や私語は厳禁とする。
- ・シラバスの内容や展開に変更が生じる場合がある。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	現在の保育活動と幼児理解の事例研究(1)
第 2 週	現在の保育活動と幼児理解の事例研究(2)
第 3 週	西欧における保育事業の創設と展開
第 4 週	日本の保育施設草創期(明治期)の保育内容と保育形態(1)
第 5 週	日本の保育施設草創期(明治期)の保育内容と保育形態(2)
第 6 週	大正・昭和期の新教育運動の流れと児童文化の創始
第 7 週	大正・昭和期の新教育運動の流れと保育形態(1)
第 8 週	大正・昭和期の新教育運動の流れと保育形態(2)
第 9 週	フレール主義の保育実践と幼児理解
第 10 週	モンテッソーリ主義の保育実践と幼児理解
第 11 週	シュタイナー主義の保育実践と幼児理解
第 12 週	保育の課題(1) 生活と遊びの課題
第 13 週	保育の課題(2) 健康・安全教育の取り組み
第 14 週	保育の課題(3) 環境と保育
第 15 週	まとめと小テスト

《学科教育科目》

科目名	養護原理Ⅱ				
担当者名	杉山 貴要江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

「障害者権利条約」、「インクルージョンの推進」、「『気になる子』の増加」を背景に、「合理的配慮」の考え方が重要になってきています。本講義では障がいのある子どもが大人へと成長する過程をひとつの流れとして捉え、その流れの端緒となる就学前に関わることの多い保育士の役割について考えます。特に、就学前の発達障がい児への対応、将来地域の中で生活するための社会環境整備と、社会資源の活用とその開発について、また、保護者への具体的支援方法について、視聴覚教材を活用し学習します。

《授業の到達目標》

発達障がい及び知的障がいのある子どもについて理解し、その援助方法を具体的に考え、実践できることを目指します。

《テキスト》

プリントの配布を予定しています。

《参考文献》

授業中に紹介します。

《成績評価の方法》

授業内課題（授業時間内に課すレポート）（80%）、テスト（20%）で評価します。但し、受講生数によって若干変更することがあります。

《授業時間外学習》

図書館を活用し、紹介した参考図書を読み、レポートの作成に役立ててください。

《備考》

保育実習Ⅰ、Ⅱを修得していることを受講の要件とします。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	子どもの人権の尊重 本講義の目的と保育士資格との関連性、授業の基本となる理念、子どもの人権について
第 2 週	「障害者権利条約」《DVD 視聴》 「障害者権利条約」の理解、教育の場における「合理的配慮」
第 3 週	障がい者福祉の現状 施設での生活から地域社会での生活へ、企業の知的障がい者雇用の実際、就学前から始める療育の有用性
第 4 週	知的障がい者の福祉的就労 《DVD 視聴》 自立した生活、地域社会での生活の意義
第 5 週	スウェーデンの知的障がい者福祉の歩み 《DVD 視聴》 施設からグループホームへ、支援の工夫、社会福祉制度の現状
第 6 週	自閉症の子の子育て 《DVD 視聴》 自閉症の子の生活の実際、育て憎さと支援の必要性、自閉症スペクトラム
第 7 週	自閉症の子の進路 《DVD 視聴》 高機能自閉症、自閉症の多様な特徴
第 8 週	発達障がいの理解と支援 知的障がい、発達障がいについての定義と特性、支援の方法と保育者の関わり
第 9 週	発達障がいのある人の人間関係 《DVD 視聴》 発達障がいや人間関係が苦手な人のためのソーシャルスキルトレーニング
第 10 週	「関わりことば」Ⅰ・発達につまづきがある子どもの理解 《DVD 視聴》 就学前児童の社会性を養う関わりことば、療育と支援の実際、社会生活力を育む方法
第 11 週	「関わりことば」Ⅱ・発達につまづきがある人の理解 《DVD 視聴》 就学前児童の社会性を養う関わりことば、生活支援、職場支援の実際
第 12 週	支援ツールの種類と作り方 《DVD 視聴》 場面に応じた支援ツールの種類と使い方、支援ツールの作成
第 13 週	障がい児と読み聞かせ 『さっちゃんのまほうのて』の中の幼稚園
第 14 週	発達障がいの子を持つ保護者 《DVD 視聴》 障がいのある子どもをもつ母親への支援方法
第 15 週	学習のまとめ 発達障がいについての知識の確認、障がいのある子どもへの対応、卒業後の実践活動

《学科教育科目》

科目名	教育実習				
担当者名	三井 圭子・青木 好代				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	3年・I期分

《授業のねらい及び概要》

教育実習に必要な知識や実践技能を見につける。参加指導実習において、積極的に子どもとのかかわり、幼児理解を深める。子どもの遊ぶ姿から、心を読み取り、適切な援助ができるように、授業で学んだことを実践する場であることを意識する。保育に参加し、現場の保育者の姿から、より良い保育者として身につけるべきことを学ぶ。相互学習から保育する力をつけ、保育の課題を見出す

《授業の到達目標》

積極的に参加指導実習に臨む。幼児期の子どもの成長発達を理解し、子どもへの対応が速やかにできるようにする指導計画が立案でき、ねらいをもった保育の展開ができるようにする。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』、『実習日誌の書き方』萌文書林、『実習の手引き』

《参考文献》

『保育の実技』『保育とカリキュラム』、授業中に適宜紹介:プリント配布

《成績評価の方法》

授業で課した資料の提出 (10%) 発表、授業態度 (20%) 実習園の評価 (70%)  
見学観察実習と参加指導実習、事前事後の授業で最終の評価をする。

《授業時間外学習》

授業で課した資料の提出を期日までに提出できるよう準備しておく。  
実習での研究保育の教材研究、保育内容の検討、保育計画の作成は各自積極的に準備しておく。  
四季折々の変化への気づき、生きもの、自然物、廃材などすべてが保育の教材になります。感覚、感情、想像力を磨きましょう。

《備考》

教育実習の資格条件を理解し遵守する。授業は全出席とします。やむをえず欠席、遅刻、早退をした場合は、保育研究室に連絡をする。そして、後日担当者からの指示を受ける。  
授業中の私語、飲食、携帯電話の使用を厳禁する。授業の妨害なども、厳重に対処する。  
授業中に課した資料の提出は期日を守ること。(期日以外は受け付けないこともある)  
教材研究のためハサミ、のり、セロテープ、ホッチキス等常に携帯しておくこと。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	幼稚園参加指導実習直前指導 実習についての心構えの確認 実習園の確認とオリエンテーションについて
第 2 週	実習ノートの書き方について 環境構成・予想される子どもの活動 子どもの姿のとらえ方
第 3 週	実習ノートの書き方について 教師の援助 実習生のかかわり 学んだことの具体的な記述の仕方 長期(期、月)、短期(週、日)の指導計画について
第 4 週	指導計画の作成と実際 部分保育のねらいについて
第 5 週	指導計画の作成と実際 部分保育の内容について (VTR 視聴)
第 6 週	指導計画の作成と実際 模擬保育をする: 保育の進め方、子どもと遊びをどう作り上げるか、保育を創造することを考える
第 7 週	指導計画の作成と実際 模擬保育をする: 保育の進め方、子どもと遊びをどうつくりあげるか、保育を創造することを考える
第 8 週	実習直前指導 実習ノートの記載について、 実習生としての態度、服装、あいさつなど心構え、注意事項などの確認
第 9 週	実習後の反省、課題について 実習園へのお礼 実習ノートについての質問
第 10 週	保育実践力をつけるための教材研究
第 11 週	課題研究、実践内容 (レポート作成・発表)
第 12 週	課題研究、実践内容 (レポート作成・発表)
第 13 週	課題研究、実践内容 (レポート作成・発表)
第 14 週	課題研究、実践内容 (レポート作成・発表)
第 15 週	幼稚園参加指導実習の相対評価と反省及びまとめ

**《学科教育科目》**

科目名	教育実習				
担当者名	三井 圭子・青木 好代				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期分

**《授業のねらい及び概要》**

幼児教育の場で、生かせるように実践力、保育力を身につける。具体的に子どもが楽しんで活動できることを、工夫し、創造していく。

**《授業の到達目標》**

幼稚園の教育課程を考えながら、子どもの活動がより楽しいものするために、環境構成、遊びの創造をする。保育の実践が自ら考えてできるようにする。

**《テキスト》**

『幼稚園教育要領解説』  
『実習の手引き』  
『実習日誌の書き方』 萌文書林

**《参考文献》**

『保育実技』 萌文書林  
『保育のカリキュラム』  
授業で適時紹介

**《成績評価の方法》**

授業での提出物、授業態度（30％） 実習園の評価（70％）最終的に評価します。

**《授業時間外学習》**

子どもが楽しいと思える環境構成、遊び等を、保育資料で研究しておく

**《備考》**

教育実習の資格条件の理解をし遵守する。欠席、遅刻、早退をしない。やむおえず欠席、遅刻、早退をした場合は、保育研究室に連絡をする。後日担当者の指示をうける。

授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。教材研究をしますので、ハサミ、のり、セロテープ、ホッチキスなど常に携帯しておく。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	授業の進め方 幼稚園教育課程に基づいた指導計画について 課題研究を考える
第 2 週	課題研究・グループ発表 討議 保育室の環境構成について
第 3 週	課題研究・グループ発表 討議 保育室の環境構成について
第 4 週	課題研究・グループ発表 討議 保育室の環境構成について
第 5 週	課題研究・グループ発表 討議 子どもが楽しむ動くおもちゃ等
第 6 週	課題研究・グループ発表 討議 子どもが楽しむ動くおもちゃ等
第 7 週	課題研究・グループ発表 討議 行事等の制作物について
第 8 週	課題研究・グループ発表 討議 行事等の制作物について
第 9 週	課題研究・グループ発表 討議 子どもの造形展について
第 10 週	課題研究・グループ発表 討議 園庭の遊具での遊びについて
第 11 週	課題研究・グループ発表 討議 園庭の遊具での遊びについて
第 12 週	課題研究・グループ発表 討議 園のお便りなどについて
第 13 週	課題研究・グループ発表 討議 園のお便りなどについて
第 14 週	課題研究・グループ発表 討議 園のお便りなどについて
第 15 週	レポートの提出 授業のまとめ

## 《学科教育科目》

科目名	保育実習Ⅱ				
担当者名	福田 規秀・井上 眞美子・古門 貞美				
授業方法	実習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・通年

### 《授業のねらい及び概要》

保育所参加指導実習に必要な知識や技術を総合的に習得し（指導案等の作成や実技）、実習を効果的にを行い、保育士として必要とされる実践的能力を少しでも自分のものに出来るよう指導する。

### 《授業の到達目標》

実習前

参加指導実習の意義をよく理解し、指導案や保育記録についての理解をさらに深め、保育士としての倫理観や専門性を自覚するようになる。

保育所参加指導実習

保育所の保育を実際に体験し、その体験から保育士に必要な知識や技術の習得に努める。  
多様な保育ニーズについて知り、子育て支援に必要な能力を少しでも習得する。

実習後

実習の総括と評価を行い、自己の現状での課題を明確にする。

### 《テキスト》

- 『よくわかる保育所実習（第三版）』 百瀬 ユカリ （創成社 2009）  
 『実習日誌の書き方』 相馬 和子他編 （萌文書林 2004）  
 『実習に行くまえに知っておきたい保育実技』 久富 陽子編 （萌文書林 2003）  
 1年次に購入済です。

### 《参考文献》

- 『最新保育資料集2009』 森上史朗編 （ミネルヴァ書房 2009）  
 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省編 （フレーベル館 2008）  
 こちらも購入済です。  
 あとプリントを配付するほか、その都度紹介します。

### 《成績評価の方法》

保育実習Ⅱへの出席は1/3規定を適用しない（全出席を前提とする）。  
 実習施設の評価（80%）、実習前学習（10%）、実習後学習（10%）で総合的に評価する。

### 《授業時間外学習》

見学観察実習で得た課題を常に念頭に置き、解決方法について探究し、願わくばこの実習でそれが解決できるよう努力すること。  
 図書館の絵本コーナーやおもちゃ屋さん、ホームセンター等に出かけ、実習に使えるかもしれないものを発見しておいて下さい。  
 学生諸君の好奇心が子どもに負けないものになれば、きっと実習の結果もそれなりに出るでしょう。  
 他の誰の実習でもない、あなたが望んでいく実習です。あなたがせずして誰が子どもの相手をするのですか??

### 《備考》

- 1.講義時は、いつも保育所での実習と考えて出席すること(服装、態度)。
- 2.欠席・遅刻・早退をしないこと。やむをえず欠席・遅刻・早退の場合は、必ず保育研究室へ連絡すること。また後日、担当者の指示をうけること。
- 3.掲示により緊急連絡することもあります。掲示（ピロティと保育研究室）を見て行動すること。
- 4.講義中に行う実技演習には積極的に参加すること。

### 《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	個人票の作成
第2週	保育所参加指導実習の意義と手続き 見学観察実習の反省と参加指導実習の心がまえ
第3週	乳幼児の発達と保育
第4週	保育所VTR
第5週	記録の書き方
第6週	記録の書き方
第7週	保育士の職務及び職業倫理
第8週	指導案について
第9週	指導案について
第10週	オリエンテーションについて
第11週	希望者による模擬保育
第12週	細菌検査容器、書類の配布 希望者による模擬保育
第13週	保育所実習直前指導（注意事項、心がまえ、書類確認） 保育所参加指導実習
第14週	実習後の全体討議 個別的反省・自己評価・アンケート
第15週	実習後のグループ討議 まとめ

**《学科教育科目》**

科目名	教育心理学				
担当者名	松田 信樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

人は生まれてから実にたくさんのことを身につけて発達していきます。それを可能にするのが、広い意味での教育です。人の人としての発達を支える教育という営みについて心理学の観点から考えていきます。

**《授業の到達目標》**

教育心理学の基礎知識を学ぶことにより、教育の対象となる幼児・児童・生徒の発達と学習のメカニズムについて理解できるようになること。

**《テキスト》**

テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。

**《参考文献》**

『やさしい教育心理学 [改訂版]』 鎌原雅彦・竹綱誠一郎 (著) 有斐閣 2005  
『教育心理学 [新版] ベーシック現代心理学 6』 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司 (著) 有斐閣 2003  
『よくわかる教育心理学』 中澤潤 (編) ミネルヴァ書房 2005

**《成績評価の方法》**

最終回に行う授業目標の到達度評価 (テスト) 100%

**《授業時間外学習》**

授業時間中に取り上げたテーマについて、参考文献などを読むことで理解を深めること。

**《備考》****《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	教育心理学＝発達と学習の心理学を学ぶ意義
第 2 週	人の発達を支える教育的環境
第 3 週	学習の基礎を理解する：学習のメカニズム その1
第 4 週	学習の基礎を理解する：学習のメカニズム その2
第 5 週	学習の基礎を理解する：学習のメカニズム その3
第 6 週	学習を支える記憶のメカニズム
第 7 週	モチベーション (動機づけ) について
第 8 週	学びへのモチベーション：多様な動機に支えられた学びを目指して
第 9 週	モチベーションの低下について：無気力あるいは無力感の原因と対応を考える
第10週	教授法と教育評価
第11週	学級という集団を理解する：特に集団への同調について考える
第12週	学級という集団を理解する：特に権威への服従について考える
第13週	教師のメンタルヘルスについて：ストレスとバーンアウト
第14週	教育という営みについてふりかえる
第15週	まとめ：授業目標の到達度評価 (テスト)

**《学科教育科目》**

科目名	教育制度論				
担当者名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

明治以降の日本教育制度史を、学校制度史を中心に学んだのち、現代日本の学校制度、教育行政制度等の課題について、検討を加えていく授業です。

**《授業の到達目標》**

1. 近代以降の日本の教育制度史に関する知識を獲得する。
2. 現代日本の学校教育制度、教育行政制度などについての知識を獲得する。
3. 現代日本の学校教育制度、教育行政制度などの課題について考える力を獲得する。

**《テキスト》**

『要説 教育制度[三訂版]』森秀夫（学芸図書）

**《参考文献》**

その都度、紹介します。

**《成績評価の方法》**

授業時間内に実施する筆記試験の結果で100%評価します。

**《授業時間外学習》**

教科書の指定箇所を読んでおくこと。

**《備考》**

「子どもの学習権」、「国家の教育への関わり方」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えています。積極的な受講を、期待しています。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第1週	教育制度、公教育の歴史類型、学校制度について
第2週	日本教育制度史（1）明治期 VTR使用
第3週	日本教育制度史（2）大正期、昭和期 VTR使用
第4週	現代日本の教育制度（1）保育制度 VTR使用
第5週	現代日本の教育制度（2）初等教育制度 VTR使用
第6週	現代日本の教育制度（3）中等教育制度
第7週	現代日本の教育制度（4）高等教育制度
第8週	現代日本の教育制度（5）社会教育制度
第9週	現代日本の教育制度（6）その他（教員養成制度等） VTR使用
第10週	海外主要国の学校制度 VTR使用
第11週	教育制度と「教育法の体系」 VTR使用
第12週	教育行財政のしくみと教育法
第13週	学校、教職員と教育法（1）
第14週	学校、教職員と教育法（2）
第15週	まとめ



《学科教育科目》

科目名	教師論				
担当者名	藤井 恵美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

- ・ 学生が目指す保育者像を明確にし、その実現に必要な学習過程を計画する。
- ・ 保育に関する知識を深め、1年生から積み重ねてきた理論や実習からの学びを通して、保育者としての資質の向上を図る。
- ・ 学生の人生経験を振り返らせ、その結果を今後の進路選択に活用する。
- ・ 模擬保育を行い、自らの望ましい保育者像を構想する。

《授業の到達目標》

- ・ 教職の意義と保育者の役割を理解できる。
- ・ 教職（保育）に対する自らの適性を探究し、保育実践者としての意欲を高める。

《テキスト》

「保育者論」 榎沢良彦・上垣内伸子 編著 (同文書院)

《参考文献》

- 『幼稚園教育要領・保育所保育指針』  
 『新しい時代の幼児教育』小田豊・榎沢良彦 編 (有斐閣)  
 『フレーベル全集第二巻・人の教育』フレーベル (玉川大学出版部)  
 『倉橋惣三「保育法」講義録』菊池ふじの監修 (フレーベル館)  
 『保育者の地平』津守 真著 (ミネルヴァ書房) その他、授業中に随時紹介する。

《成績評価の方法》

筆記テスト50%、レポート30%、授業態度20%

《授業時間外学習》

- ・ 次回の授業範囲を予習しておいてください。特に、教科書をよく読んでおいてください。
- ・ 適宜課題を出します。その課題について深く考えたり、調べたりしてまとめてきてください。
- ・ 授業で学んだことを振り返り、ノートにまとめておいてください。

《備考》

- ・ 幼稚園・保育所などに関する情報（特に教職に関すること）を常に意識して、収集しておいてください。
- ・ 教科書は必ず持参してください。

《授業計画》

週	授 業 計 画	
第 1 週	授業の進め方・評価方法などのガイダンス	現時点で考え、目指す保育者像
第 2 週	教職の意義	保育するということ
第 3 週	保育の歴史と教師像①	諸外国にみる保育
第 4 週	保育の歴史と教師像②	日本にみる保育
第 5 週	保育者の専門性①	幼稚園における保育者の役割
第 6 週	保育者の専門性②	保育者の実践活動
第 7 週	保育者の専門性③	保育所における保育者の役割
第 8 週	保育者の専門性④	保育士の実践活動
第 9 週	法と保育者①	保育者の職務
第 10 週	法と保育者②	保育者の研修
第 11 週	保育者への学習課題①	討議「保育者のイメージと自己認識」
第 12 週	保育者への学習課題②	討議「保育者の専門職性」
第 13 週	保育者への学習課題③	討議「保育者の資質」
第 14 週	いま、保育者に求められるもの	
第 15 週	全体のまとめ	

## 《学科教育科目》

科目名	乳児保育Ⅱ				
担当者名	鈴木 富美子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

### 《授業のねらい及び概要》

- 1、乳児保育Ⅰで学んだ理論、知識を基礎に乳児の発達過程を振り返り確認学習をする。
- 2、保育園（所）、乳児院における保育内容を学び、ベビー人形を用い援助技術の実践を学ぶ。
- 3、乳児への直接的援助と間接援助を学ぶため、様々な保育ニーズの模擬ケース検討を重ね、幅広い援助技術の学習をする。

### 《授業の到達目標》

- ・0,1,2歳児の発達を理解し、適切な援助活動を実践することができる。
- ・模擬カンファレンスやグループ討議から多様な保育ニーズを理解し、多面的な保育の取り組みについて説明することができる。
- ・製作を通し、工夫や改善の力を身につけ、年齢にふさわしい遊具を作ることができる。

### 《テキスト》

「乳児の保育新時代」 ひとなる書房  
必要に応じプリント配布

### 《参考文献》

「保育所保育指針」  
「発達がわかれば子どもが見える」 ぎょうせい  
「乳児保育Ⅰ」 金子保著 クオリティケア  
「子どもへのまなざし」 佐々木正美著 福音館  
「すくすくハンドブック」 神戸市保健福祉局

### 《成績評価の方法》

課題提出(レポート・作品など) (85%) 授業態度(15%)

### 《授業時間外学習》

教科書の指定範囲を読んでおく。  
配布したプリントは必ず読み、課題レポートを提出する。  
指定した用語や課題を調べてくる。  
紹介した遊びは復習し、メロディや振り付けを覚えてくる。  
製作物は必ず完成させ、作品の掲示を行う。

### 《備考》

授業中の携帯電話の使用や飲食は禁止する。  
授業中の私語は慎むこと。  
正当な理由のない欠席や遅刻は厳重にチェックする。  
製作その他実技を取り入れるので、第1週で指定した道具は毎回持参すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション ・授業の概要・授業の進め方・履修上の諸注意 ・乳児保育の意義と現状
第 2 週	0, 1, 2 歳児の発達と保育 ・発達の特徴の理解(子どもの能動性、環境との相互作用、ベビーサインなど) ・保育氏の役割(愛着関係の樹立の意味、保育マインドとは)・製作—1 本指人形
第 3 週	0, 1, 2 歳児の保育援助(ベビー人形使用) ・養護について(保育指針から読み取る用語の理解) ・製作—乳児用けん玉 ・具体的援助内容(抱き方・哺乳・おむつ交換・こどぼかけ、健康・安全など全般)
第 4 週	0, 1, 2 歳児の保育援助(ベビー人形使用) ・教育について(領域視点からみる乳児の教育) ・製作—いないいないバニー人形
第 5 週	0, 1, 2 歳児の保育援助(ベビー人形使用) ・遊びについて(遊びの目的、発達との関係) ・具体的乳児の遊び—ふれあい遊び、手遊び、目遊び、ベビーマッサージ ・製作—いないいないバニー人形
第 6 週	事例検討で多様な保育ニーズを探る(ベビー人形使用) ・様々な家庭環境、養育状況を想定し、グループ討議の中で問題解決の方向を探る (ケース検討会、チームワーク、関連機関連携を学ぶ) ・製作—小さな抱き人形
第 7 週	グループ討議発表と意見交換 ケース検討まとめ・発表・意見交換を通し、チームによる多面的な保育方法の実践を学ぶ。 ・製作—小さな抱き人形
第 8 週	乳児保育の環境 ・安全な保育環境づくり—ハザードマップ作成— 乳児の特性と安全 ・製作—びっくり手品箱
第 9 週	保育計画 ・保育計画(保育課程とは) ・乳児クラスの指導計画立案 ・製作—自然素材から作る手編み機
第 10 週	保育計画 ・指導計画の評価 ・園便りの目的と作成(家庭との連携) ・製作—手編み機で子どものマフラー作り
第 11 週	行事と保育 ・伝承行事と子どもの関わり(一年を通して) ・楽しい体験と心の発達のかかわり —クリスマスの多面的取り組み— ・製作—クリスマスカード
第 12 週	行事と保育 ・想像力や夢を育てる保育 —クリスマスの多面的取り組み— ・製作—リース作り
第 13 週	行事と保育 ・心に残るイベントの展開 —クリスマスの多面的取り組み— ・製作—プレゼント作り
第 14 週	進級に向けての取り組み ・0 歳児～5 歳児の連続的発達を見据えた保育の連携について ・冬の遊びと健康 ・製作—カルタ
第 15 週	学習の振り返りとまとめ ・課題レポート作成

**《学科教育科目》**

科目名	教育相談				
担当者名	大久保 恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

1. 教育相談、カウンセリングの理論、基礎知識を身につける。
2. 描画など心理検査などを体験して自己理解を深める。
3. 教育現場での実際を通して、実践的な力を養う。

**《授業の到達目標》**

教育相談の基礎的な考え方を習得し、子どもの問題行動への理解を深め、その対応法を学んでいく。

**《テキスト》**

「エッセンス 学校教育相談心理学」石川正一郎・藤井泰編著（北大路書房）

**《参考文献》**

「教師のための教育相談の基礎」久芳美恵子著（三省堂）

**《成績評価の方法》**

平常点（20%）、提出物（20%）、テスト（60%）

※授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上になった者には単位を与えることができません。

**《授業時間外学習》**

- ・教科書の指定箇所を読んでおくこと。
- ・授業中に配布するプリントを整理し、よく読んでおくこと。
- ・実習などで出会った子どもたちをよく観察し、授業内容に照らし合わせて、理解と対応を考えること。

**《備考》**

講義の開始時に出席を確認します。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	教育相談と自己理解
第 2 週	教育相談の実際 1
第 3 週	教育相談の実際 2
第 4 週	パーソナリティとその理解 1
第 5 週	パーソナリティとその理解 2
第 6 週	発達と教育相談
第 7 週	発達障害と教育相談
第 8 週	カウンセリングとは
第 9 週	カウンセリング体験
第 10 週	主な心理療法と心理検査
第 11 週	描画体験とその理解
第 12 週	関係機関との連携・協働
第 13 週	ケーススタディ（幼児期）
第 14 週	ケーススタディ（児童期・思春期）
第 15 週	学習のまとめ

**《学科教育科目》**

科目名	総合演習				
担当者名	中川 智章				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

特殊問題を取り上げ、そこでの「人権」を考える。  
事例演習を行なう。

**《授業の到達目標》**

保育士としてまた、人間として最低限、心得ておくべき「人権意識」を養う。

**《テキスト》**

第一講で示す

**《参考文献》**

講義中に提示する。

**《成績評価の方法》**

レポート（60%）と研究発表（40%）で評価する。

**《授業時間外学習》**

- (1) 予め教科書の○頁から○頁までを読んでおくこと。
- (2) 上記（1）の講義をした後、プリントに難解であったと思われる事項等を記載して提出する。

**《備考》**

- (1) 講義中に私語をしないこと。
- (2) 講義中、携帯電話を操作しないこと。
- (3) 小型の六法全書と教科書を毎時間持参すること。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	人権とは何か
第 2 週	明治維新と人権状況
第 3 週	上からの改革
第 4 週	文明開化と自然法思想
第 5 週	明治憲法と臣民の権利
第 6 週	人権保障制度の欠落
第 7 週	人権と大正デモクラシーの限界
第 8 週	労働運動と人権
第 9 週	農民の困窮状況
第 10 週	臣民の権利
第 11 週	天皇制ファシズムへの道
第 12 週	人権と終戦
第 13 週	人権抑圧
第 14 週	現代における人権の危機
第 15 週	まとめ

**《学科教育科目》**

科目名	総合演習				
担当者名	安井 重雄				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

絵本は保育のための教材として重要である。しかし、絵本はしっかりと「読む」ことができているだろうか。絵本は絵と文で出来ている。絵と文は同じ作者の場合もあるし、異なる場合もある。絵にも文にも作者が伝えたい、表現したいと考えていることがある。この授業では、それらの絵本に表現されているさまざまな情報を読み解き、より深く絵本を理解することを目指す。

**《授業の到達目標》**

- ・絵本全体の場面構成を把握し、ストーリーと展開を説明できる。

**《テキスト》**

それぞれの学生が選んだ絵本がテキストとなる。選んだ絵本について調べてまとめた資料を教員がコピーして配布する。

**《参考文献》**

特になし。

**《成績評価の方法》**

出席回数は10回以上でなければ単位は与えない。発表内容、発表資料、授業内での発言などの平常点（20%）、期末レポート（80%）によって評価する。

**《授業時間外学習》**

次回授業で扱う絵本は前もって指示するので、その絵本を読み、理解しておくこと。

**《備考》**

大人になると、絵本から離れる人が多く、絵本は子どものものと考えがちだが、この授業を通して、絵本は大人も読めるものであること、絵本の持っている豊かな可能性に気づいてほしい。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	授業の進め方。
第 2 週	教員が選んだ絵本を読み、絵本の内容について考える。
第 3 週	絵本の内容と、作者について考える。
第 4 週	発表資料の作成方法。
第 5 週	グループ発表。
第 6 週	グループ発表。
第 7 週	グループ発表。
第 8 週	グループ発表。
第 9 週	グループ発表。
第10週	グループ発表。
第11週	グループ発表。
第12週	グループ発表。
第13週	グループ発表。
第14週	レポートのまとめ方。
第15週	レポートの提出と授業のまとめ。

## 《学科教育科目》

科目名	総合演習				
担当者名	小泉 毅				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

### 《授業のねらい及び概要》

授業は英語のみで、TPR(Total Physical Response)の理論にもとづいて行う。このTPRは母国語である日本語をかいさずに、体の動きを通して英語を教える方法である。近い将来幼児教育指導者になられる保育科の学生のみなさんがぜひとも知っておいていただく必要のある指導法である。

具体的には、歌、物語、会話を通して学んでいく。

### 《授業の到達目標》

- 1.この授業を通して、保育科の学生のみなさんに英語を好きにさせたい。英語を学んだら、こんなに楽しいよ！夢がもてるよ！という授業をめざしたい。
- 2.この楽しさ・夢を、保育園・幼稚園で子どもに伝えていただく指導者になっていただきたい。
- 3.英語を通して異文化理解を学ぶ。

### 《テキスト》

- 1.「Enjoy English」 小泉 毅編（長崎出版）
- 2.クリアーファイル(A4)を購入。  
このファイルに配布されたプリントを保管していただきたい。

### 《参考文献》

- 1.「Let's sing together」 阿部 恵子著（APRICOT）
2. Wee sing series
3. Addison-wesley storybooks series  
これらは大学図書館に所蔵されています。

### 《成績評価の方法》

幼児教育指導者として、英語、異文化理解を教えるので、プレゼンテーション中心の授業にしていきたい。それで評価はつぎのようにしたい。

- 1)発表-40%,2)宿題-30%,3)小テスト-30%. 授業欠席回数が実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。

### 《授業時間外学習》

毎回宿題をだします。音読をして、ていねいにノートに書いて、暗唱までしてください。また図書館の参考図書を使用する宿題もだします。図書館をよく利用してください。

### 《備考》

兵庫大学短期大学部保育科は、素晴らしい先輩が幼児教育現場の指導者として日本全国で活躍されている伝統ある素晴らしい学科である。

最近のグローバル経済化の世界において、コミュニケーションとしての英語の必要性が、世界中で求められている。この流れから、日本においても小学校において総合科目の中で英語を教えている現状から、「教科」として英語を教える方向になりつつある。そこで、多くの幼児教育現場においても、英語、異文化理解教育がすでに行われている。

この授業を通して、英語、異文化理解教育を教えられる新たな保育指導者になっていただきたい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	1.授業の説明、評価方法を詳細に説明。 2.TPR について説明 3.席順の決定
第 2 週	テーマ：あいさつ 歌：Hello song 会話：Enjoy English ,P.30,Part.8. フォニックス：フォニックス アルファベット 物語：三匹の子ぶた、2～3 ページ。
第 3 週	テーマ：アルファベット 歌：ABC Steps 会話：Enjoy English ,P.30,Part.9. フォニックス：フォニックス アルファベット 物語：三匹の子ぶた、4～5 ページ。
第 4 週	テーマ：かず 歌：Ten Little Witches 会話：Enjoy English ,P.32,Part.10. フォニックス：子音 物語：三匹の子ぶた、6～7 ページ。
第 5 週	テーマ：いろ 歌：Colors 会話：Enjoy English ,P.32,Part.11. フォニックス：子音 物語：三匹の子ぶた、8～9 ページ。
第 6 週	テーマ：動物 歌：Old MacDonald had a farm 会話：Enjoy English ,P.34,Part.12. フォニックス：母音 物語：三匹の子ぶた、10～11 ページ。
第 7 週	テーマ：家族 歌：I'm a Little Teapot. 会話：Enjoy English ,P.34,Part.13. フォニックス：母音 物語：三匹の子ぶた、12～13 ページ。
第 8 週	テーマ：たべもの 歌：Ten Fat Sausages 会話：Enjoy English ,P.36,Part.14. フォニックス：フォニックスを使って読み方練習。 物語：三匹の子ぶた、14～15 ページ。
第 9 週	テーマ：体の部分 歌：Head, Shouders, Knees & Toes. 会話：Enjoy English ,P.36,Part.15. フォニックス：フォニックスを使って読み方練習。 物語：三匹の子ぶた、2～9 ページ。
第 10 週	テーマ：乗物 歌：The Bus Song 会話：Enjoy English ,P.38,Part.16 フォニックス：フォニックスを使って読み方練習。 物語：三匹の子ぶた、10～15 ページ。
第 11 週	テーマ：季節 歌：Eency Weency Spider 会話：Enjoy English ,P.38,Part.17. フォニックス：フォニックスを使って読み方練習。 物語：三匹の子ぶた、2～9 ページ (暗唱)
第 12 週	テーマ：形 歌：Shapes 会話：Enjoy English ,P.40,Part.18. フォニックス：Silent E 物語：三匹の子ぶた、10～15 ページ (暗唱)
第 13 週	プレゼンテーションの打合せと計画
第 14 週	プレゼンテーション (予行)
第 15 週	プレゼンテーション



《学科教育科目》

科目名	総合演習				
担当者名	柳楽 節子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

子どもの発達過程において不可欠である、造形表現の役割と可能性について考える。さまざまな作品の制作を通して、造形について考察し、理解を深めていく。

《授業の到達目標》

多様な作品制作の経験を、園での造形遊びの現場に応用することができる。

《テキスト》

なし

《参考文献》

適宜紹介する

《成績評価の方法》

授業には10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。  
提出作品100%による成績評価を行う。

《授業時間外学習》

各授業時に、必要な事前準備及び授業後の補足作業について指示を行う。

《備考》

事前に連絡された、授業に必要な準備物は必ず持参すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画				
第 1 週	担当教員自己紹介 授業内容説明 学生の自己紹介作品 作成及び提出 課題1 スクリーンプリントによる作品予告説明				
第 2 週	課題1 スクリーンプリントによる作品 平面 説明プリント配布				
第 3 週	課題1 スクリーンプリントによる作品 平面				
第 4 週	課題1 スクリーンプリントによる作品 平面				
第 5 週	課題1 スクリーンプリントによる作品 平面 作品提出				
第 6 週	課題2 スクリーンプリントによる作品 立体 布 予告説明 課題2 スクリーンプリントによる作品 立体 布 説明プリント配布				
第 7 週	課題2 スクリーンプリントによる作品 立体 布				
第 8 週	課題2 スクリーンプリントによる作品 立体 布				
第 9 週	課題2 スクリーンプリントによる作品 立体 布 作品提出				
第 10 週	課題3 ささまざまな素材による作品制作 平面 立体 予告説明 課題3 ささまざまな素材による作品制作 平面 立体 説明プリント配布				
第 11 週	課題3 ささまざまな素材による作品制作 平面 立体				
第 12 週	課題3 ささまざまな素材による作品制作 平面 立体				
第 13 週	課題3 ささまざまな素材による作品制作 平面 立体				
第 14 週	課題3 ささまざまな素材による作品制作 平面 立体				
第 15 週	作品提出及びまとめ				

**《学科教育科目》**

科目名	総合演習				
担当者名	佐竹 邦子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

社会の今日的課題、特にコンピュータやネットワークが関わる問題に焦点を当てます。問題の整理、調査、まとめ、発表といった流れで授業を行います。

子どもたちをとりまく社会は、急激に変化しています。特に情報技術の発達が社会を大きく変えています。これらの変化に改めて気づき、そこに発生している問題に焦点を当て、現状の問題点を解決する方法を考えましょう。それにより、今後、さらに社会が変化していく中で、どのような問題点が出るか、どのように解決すればよいかに気づく力を養ってほしいと考えています。

**《授業の到達目標》**

今後社会で働く一員となるために必要な、現代社会の問題に気づき、分析し、解決する能力が身につく。

**《テキスト》**

プリント等配布

**《参考文献》**

授業の中で随時示す。

**《成績評価の方法》**

- ・出席点 (30%)
- ・平常点・レポート (70%)

ただし、欠席回数が5回を超えた場合、欠格となる。

**《授業時間外学習》**

- ・前回の授業内容の復習をしておくこと。

**《備考》**

- ・この授業では自ら考える姿勢が大切です。
- ・積極的に取り組んで下さい。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション：授業の概要説明
第 2 週	ネットワーク社会における今日的課題の認識：課題発見の方法
第 3 週	課題発見：各自、テーマの決定
第 4 週	グループ討論（1）：各自のテーマを発表
第 5 週	グループ討論（2）：各自のテーマに関する討論
第 6 週	グループ討論（3）：各自のテーマのブラッシュアップ
第 7 週	レポート作成（1）：テーマに基づいたレポート作成開始
第 8 週	レポート作成（2）：テーマに基づいたレポート作成
第 9 週	レポート作成（3）：テーマに基づいたレポート作成
第10週	中間発表：各自発表、中間提出
第11週	レポート作成（4）：レポートのブラッシュアップ
第12週	レポート作成（5）：レポートのブラッシュアップ
第13週	発表（1）：各自発表
第14週	発表（2）：各自発表
第15週	発表（3）、レポート提出：各自発表、最終提出

## 《学科教育科目》

科目名	総合演習				
担当者名	満田 知美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3・Ⅱ期

### 《授業のねらい及び概要》

モノ作りの楽しさを伝える課題を設定します。人の手がコツコツとつくり上げたモノは、温かく気持ちが癒されます。紙や布、ヒモ、毛糸、植物、プラスチック、チョークや墨等、使う素材や技法を学びます。芸術作品のような強い主張は少ないですが、ライフワークとして楽しむことを目的とします。同時にワークショップやイベント等、企画力を身につけます。

### 《授業の到達目標》

- ・課題毎に完成イメージを強くもち、発想や工程、考え方を学ぶ
- ・特殊な素材、材料、道具を扱い技術を習得する。
- ・同時にワークショップやイベント（時間や空間のアート）等、企画力を身につける。

### 《テキスト》

テキストは使用しない。毎時間毎にシラバスと参考資料を配布します。

### 《参考文献》

### 《成績評価の方法》

授業出席（10回以上の出席をもって成績表がの対象とする）20％。全課題の作品提出80％

### 《授業時間外学習》

- ・予習の方法／毎回、使用する素材や材料、道具を日頃から収集、研究する。
- ・復習の方法／授業内容を再確認し、不明な点は質問したり自分で調べる。

### 《備考》

遅刻について／授業のはじめに出席をとります。その後、毎時間毎のシラバスと参考資料の説明に入ります。上記の説明を聞き損ねた場合は、遅刻扱いとします。

### 《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	オリエンテーション／テーマ、課題内容、材料、道具の説明
第2週	おもちゃ作り①／簡単スタンドグラスを作ろう。
第3週	おもちゃ作り②／簡単ジグソーパズルを作ろう。
第4週	文字を楽しむ①／POP文字の練習
第5週	文字を楽しむ②／イベント看板を作ろう。
第6週	チョークアート①／オイルパステルで文字、絵の練習
第7週	チョークアート②／手作り黒板を作ろう。
第8週	グッズ①／手作りキャンドル。グラデーション技法、特殊キャンドル技法
第9週	グッズ②／ペーパーカード作り。羊の糸巻きカード、そら豆カード。
第10週	グッズ③／自然の素材で生活雑貨作り。小枝のハンガー、小枝のボールペン、小枝のカトラリー。
第11週	グッズ④／ガラスアート。特殊なガラス絵具で小物作り。
第12週	プチ水墨画①／筆、墨を使って身近なものを一筆で描く。練習。
第13週	プチ水墨画①／絵馬を作ろう。
第14週	みんなで大作／ジャバラワークス。紙の人形に描いたり、貼ったり個性豊かに制作します。つなげて広げて大作をつくります。
第15週	ギャラリー発表